授　業　要　綱

令和８年度　　第４回生



仙台市医師会看護専門学校

目　　次

教育方針 …… 1 ～12

授業進度表 …… 13～15

基礎分野 …… 17～31

専門基礎分野 …… 32～53

専門分野 …… 54～

Ⅰ．教育方針

１．教育理念

本校は、地域住民の命と健康を守るという仙台市医師会の使命に基づき、保健・医療・福祉に携わる人としての倫理観を持ち、人間性豊かな専門職業人の育成を目指す。

２．教育目的

人権を尊重し、多様な価値観を理解できる感性豊かな人間性を育む。さらに科学的思考を備え、看護を追求する態度を持ち、地域社会に貢献できる看護師を育成する。

３．教育目標

１）人間を、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として幅広く理解できる。

２）看護師としての責務を自覚し、人間及び生命の尊厳と人権を擁護できる倫理的判断力を身につける。

３）看護に必要な豊かな感性と深い洞察力を備え、人間関係を形成する共感的態度とコミュニケーション能力を身につける。

４）科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な、問題解決能力や臨床判断を行うための基礎的能力を身につける。

５）多様な場で生活している人々のあらゆる健康状態やその変化に応じて、安全安楽に看護を実践する基礎的能力を身につける。

６）保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多職種と連携・協働・マネジメントできる基礎的能力を身につける。

７）専門職業人として、最新知識・技術を自ら学び続け、看護の質の向上を図る基礎的能力を身につける。

４．主要概念

＜人間＞

・人間は一人ひとりかけがえのない存在であり、いかなる時も尊厳が保たれなければならない。

・人間は身体的・精神的・社会的に統合された存在である。

・人間は基本的ニードを持ち、自立して生活を営んでいくことができる存在である。

・人間は共通性と共に個別性があり、独自の信念・価値観を持っている。

・人間は常に環境に影響を受け、生涯成長発達する存在である。

・人間は自己実現を目指して生きる存在である。

＜健康＞

・健康とは身体的・精神的・社会的に調和のとれた状態である。

・健康には様々なレベルがあり、常に変化する。

・健康とはニードの充足を目指して前向きに生きている状態である。

・健康は環境や個人の価値観に影響される。

・最良の健康を保つことは、基本的人権であり何にもかえがたい価値を持つ。

＜環境＞

・環境は人間をとりまくすべてのものであり、絶えず変化する。

・環境には身体の生理的機能・心理的機能、自然、社会、文化、他者などの要素があり、それぞれが相互に影響しあう。

＜看護＞

・看護はあらゆる成長・発達段階にある個人とその家族又は集団を対象とする。

・看護は健康の保持増進・疾病の予防・健康の回復・苦痛の緩和を行い、生涯を通してその最期まで、その人らしく生を全うできるように援助を行う。

・看護は基本的ニードが充足されるように個別性の保持と自立度の向上を目指して生活行動を支援していくことである。

・看護は対象となる人と看護者との人間関係を基盤として行われる。

・看護は対象の健康に関する問題を明確にし、科学的な根拠に基づいて行う支援である。

・看護は、保健医療福祉チームの中で連携・協働しながら役割を担う。

5．3つのポリシー

1）学年毎の到達目標

1年次　1）人間の身体的・精神的・社会的特徴を捉え、個々に生活があることを理解する。

2）看護師の責務について学び、倫理的判断の基盤となる知識が身についている。

3）人間関係成立に求められる共感的態度と、コミュニケーション技術、情報化社会に対応できる基礎が身についている。

4）臨床判断に必要な、健康・疾病・障害に関する基礎的知識が身についている。

5）対象への看護の目的・方法を理論から学び、ヘルスアセスメントの基礎と原理原則をふまえた技術が身についている。

6）健康や障害の状態に応じて社会資源を活用するために必要な基礎知識が身についている。

7）目的を持ち、主体的に学習する態度が身につくとともに、行動に責任を持つことができる。

2年次　1）対象をあらゆる成長発達段階にあるかけがえのない存在として捉え、個別性があることを理解する。

2）生命の尊厳や人権を擁護するために、望ましい倫理的判断を主体的に考えることができる。

3）深い洞察力を備えるために、対人関係力や表現力、根拠を基にした思考力を深めることができる。

4）科学的根拠に基づいた看護のために、臨床判断に必要な基礎的知識と実践を結び付けて考えることができる。

5)ヘルスアセスメントを通して､対象に必要な看護を考えることができる。

6）チーム医療における看護師としてのリーダーシップやフォロワーシップの基礎知識が身についている。

7）専門職業人として必要な知識・技術・態度を自ら学び、自己の課題を意識して行動できる。

3年次　[＝卒業時の到達目標(ディプロマポリシー)]

1）対象を身体的・精神的・社会的側面から（多角的・）総合的に理解し、生活を営む存在として幅広く捉えることができる。

2）看護師としての役割と責任を自覚し、医療における倫理上の問題を理解し、対象の権利を擁護した倫理的な判断を考えることができる。

3）対象に深い関心を寄せ、コミュニケーション技術を活用して良好な人間関係を築くことができる。

4）専門的知識を看護に活用し、対象の問題解決のための分析的・論理的思考と臨床判断のための省察ができる。

5）多様な価値観を持ち、様々な場で生活している対象の健康問題と状態の変化をとらえ、安全・安楽に看護実践するための知識・技術・態度が身についている。

6）保健・医療・福祉システムにおける看護職や他の専門職の機能と役割を理解し、対象がその人らしく生活することをめざした多職種の連携・協働のための調整能力やマネジメントの基礎が身についている。

7）自己を内省し、自ら目標を持ち、新しい知見や技術の獲得に主体的かつ継続的に取り組むことができる。

2）教育課程の考え方（カリキュラムポリシー）

本校のカリキュラムは、教育目的・目標を目指して以下の方針で授業を展開します。学年進行とともに段階的に着実に身につけるように学修するカリキュラムを編成し、学修成果を適切に評価します。また、地域社会から求められる豊かな人間性を育成できるよう社会人基礎力の育成にも力を入れ、科目配置を考えて構築します。

1．基礎分野：人間の理解及び良好な人間関係作りを行う上での基本知識と情報通信技術（ICT）を活用する能力や、科学的思考の基盤となる力を身につける。

2．専門基礎分野：看護学の観点から人体を系統立てて理解し、健康障害の理解と臨床判断能力の基礎となる力を、主体的に身につけられるよう構成する。

3．専門分野：基礎看護学を基に、看護師として倫理的に判断し、行動するための能力を身につける。地域・在宅看護論を中心に、地域の多様な場での生活を支援する能力と多職種で協働するための看護の基礎を学ぶ。各領域の看護学では、知識や技術を積み重ね、切れ目のない看護を学ぶ。社会の変化で求められる保健指導能力についても、演習や実習を通して、身につけられるよう構成する。

3）期待する入学生像（アドミッションポリシー）

本校では下記のような資質を備えた人の入学を期待します。

1．人間と命に関心があり、看護師を目指す人

2．基礎的学力を有し、主体的に学ぶ姿勢のある人

3．人への思いやりがあり、素直な人

4．自分の思いや考えを表現でき、他者と協調できる人

5．生活・健康の自己管理ができ、責任ある行動がとれる人

Ⅱ．教育課程編成の要点

1．各分野の考え方と科目の設定(単位数及び時間は授業進度表参照)

【基礎分野　15単位　315時間】

看護師として必要な、対人関係力、コミュニケーション力、文章表現力、さらに根拠を基にした思考力等を培う基礎的な内容とする。また、現代社会で生活する多様な価値観を有する人々の人権を守る重要性を理解すると同時に、自らの感性を磨き、主体的な判断と行動力を身に付けることを目指す。さらに、国際化と情報通信技術の発達から、医療における情報の活用とその管理の基礎を学ぶ。

〈科目〉 哲学　倫理学　論理学　情報処理　心理学　コミュニケーション
人間関係論　カウンセリング　家族論　社会学　教育学　リフレクション
日本語表現　医療に役立つ英語　身体とこころの健康

【専門基礎分野　22単位　540時間】

人間の日常生活行動を、人体の機能・構造から理解し、健康障害が身体の機能にどのように影響しているのかを疾病の成り立ちから理解し、さらに回復促進への働きかけを学ぶ。また健康・疾病・障害に関する観察力を高めて、判断力を身につけ、専門分野の看護を学ぶ土台とする。

人々が生涯を通して、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基礎的な能力を養い、保健・医療・福祉に関する基本概念、関係制度、関係する職種の役割等を理解する。また、保健・医療・福祉の実際を身近な地域から考えていく。

〈科目〉解剖生理学Ⅰ・Ⅱ　形態機能学　栄養と代謝　微生物と感染症　病理学
疾病回復過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ　薬理学　治療論Ⅰ・Ⅱ　臨床検査法

公衆衛生学　社会福祉論　現代医療論　地域医療論
関係法規　　多職種連携

【専門分野　68単位　2025時間】

基礎看護学では各領域の看護実践を支える共通基本技術を学ぶ。看護の対象であるすべての生活している人々の理解と、生命と人権を尊重した行動がとれる倫理観の育成のためにすべての領域にわたり基本的な考え方を貫く内容とする。また、安全で確実な看護技術を身につけるためシミュレーションやグループワークを取り入れた演習を行い、臨床判断能力を育む内容とする。

各領域では発達段階とその特徴を学び、健康の保持増進、健康の回復、社会復帰に向けた援助等を連続的に学び、看護の役割を考えると同時に、地域で生活している人々を視点とした看護を生活の場から考える。

３年次には、学んだ知識・技術を統合し、多様な場で看護を展開できる基礎的能力を育成できる内容とし、卒業後のキャリア開発に向けて、自ら学ぶ姿勢を養う。

２．各領域の考え方と科目の設定（単位数及び時間は授業進度表参照）

【基礎看護学12単位　360時間】

看護を取り巻く環境は、少子高齢化に伴う社会情勢により大きく変化しており、医療は病院完結型から地域完結型へ移行している。それに伴い、看護活動の場は地域へ拡大、多様化している。看護職は専門性を明確にしながら他の専門分野との連携が不可欠であり、対象一人ひとりの健康ニーズに対応した個別性のある看護が求められている。

基礎看護学は、全ての看護における思考と看護行為の土台となる基礎的な知識、技術、態度を習得することを目的とする。人々の健康や生活を支えるために、看護の本質とその目的を学び、看護の対象となる人々について理解を深め、専門的な領域の看護に発展させていく基盤をつくる。また、看護師として自分の在り方を考え、看護の専門性を追求していく基礎的能力を育成する。

〈科目〉看護学概論Ⅰ・Ⅱ　　看護展開の基礎Ⅰ・Ⅱ　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
臨床看護概論Ⅰ・Ⅱ　看護研究　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

【地域・在宅看護論　6単位　150時間】

3年課程が始まるのが2023年であるが、まさに2025年問題より構築された地域包括ケアシステムの中で生活する我々も含めた生活者の置かれた日本の現状を理解し、地域で暮らす生活者に対してどう看護を考えるべきなのかを理解する。そのため、地域包括ケアシステムについては、時間を確保し、十分理解して看護を考える必要がある。また、平均寿命ではなく、健康寿命を延ばすために病気になった人を看護するだけでなく、病気や障害、フレイルにできるだけ移行しないような予防的視点の看護も重要になる。地域で暮らす生活者に対してどんな予防的な視点で看護を考えるのか。実習の工夫も視野に入れて考える。地域の生活者を支えるためには、看護師にとどまらず他職種が連携を図り、各々が専門的知識を持ってサポートすることが求められる。そのため、多職種連携については、他の職種が教授しながら、学びを深めることが効果的であると考える。

在宅看護の対象は、生活者と家族である。介護する家族は自分の生活も営みながら、生活者との関係性の中で、介護を行っている。介護する介護者の生活も大切にしながら、介護力の査定と介護負担の軽減を考える視点を持てるよう教授する必要がある。

核家族が進む中、独居や老々介護が問題となるが、地域で暮らす生活者の介護をフォーマルサービスで支えている制度が介護保険制度である。国家試験でも100%出題されるため、正確な知識を持ち、対象に必要なサービスの選定まで理解できる事が求められる。

在宅看護では核であった訪問看護については、施設看護も含めて訪問看護について学ぶ科目を別に置く。訪問看護のベースは専任教員が教授するが、対象の様々な状態や技術に関する講義は、現在訪問看護を行っている訪問看護師から学ぶことで、最新の知識を学ぶことが望ましい。その他、地域密着型サービスである看護小規模多機能型居宅介護や、介護老人保健施設で働く看護師の看護を学ぶ事は、地域で行われている看護を考える上で必要な視点であるため、内容に入れる。今後、日本では多死の時代へ向かう。その上で病院の機能が治療中心になる事から地域で暮らす生活者が穏やかな死へ向かうための看護については、十分な時間を使って考える。領域横断も考えたが、ここは地域・在宅看護論独自で講義しても良いのかもしれない。その理由としては、対象が住み慣れた地域で最期の時を過ごす対象は、疾患や年齢や経過など様々であり、それは、病院で死を迎える事との比較だけでなく、多角的に対象の違いに合わせて、学ぶ事が重要だと考えたためである。

〈科目〉地域・在宅看護概論　地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

地域在宅看護論実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

【成人看護学　6単位　180時間】

成人期は青年期・壮年期・向老期に至る人生の大半を占めており、持てる力が最も大きい時期、多くの役割を果たす時期、生涯の中で老年期へと繋ぐ時期である。加えて、生活経験の蓄積や加齢に伴って健康上の問題をきたしやすい時期でもある。成人期は社会的役割責任と生産的活動を果たす役割を持ち、働き盛りの世代であり、高齢者を支え、かつ将来を担う子どもたちを育成する子育て世代でもある。したがって、成人期にある人の健康を守ることは現代、未来の社会を守ることにもつながっている。

我が国の主な死因は悪性新生物、心疾患、脳血管疾患でいずれも生活習慣やストレスとの関連が強いといわれている。糖尿病やその予備軍の割合も上昇している。また、青年期・壮年期の自殺者の増加がみられる。その他にも、80-50 問題、雇用形態の変化、経済状況の悪化からくる失業・貧困などの問題もある。社会環境が成人期にある対象へ及ぼす影響と健康問題は切り離せない。人生 100 年時代を迎え健康寿命をいかに延伸させるかが豊かに生きる要になっている。より良い老年期を迎えるために、成人期にある対象の健康を守り、もてる力をいかに引き出していくかが重要となる。

成人看護学は、成人各期の対象となる人々を総合的に理解し、各々が役割責任を持ち活動しうるための健康の保持増進及び疾病予防、健康破綻から回復、慢性疾患との共存、障害がある人のリハビリテーション、人生の最期を支える看護に至るまでのあらゆる健康段階に対応できる援助能力としての知識、技術、態度を育成する。

〈科目〉成人看護学概論　成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ　成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

【老年看護学　4単位　105時間】

老年期は人としての英知を統合し、自己実現に向かって生きるライフサイクルの最終段階である。高齢者は長年の人生経験の中で裏付けられた知恵や豊富な経験と訓練によって修得された技能を身に着けている。一方で加齢変化により、身体機能が低下し、精神的、社会的にも大きく影響が及ぶ過程でもある。多数の疾患を抱えていることや、恒常性維持機能の低下などの特徴から、高齢者の患者像は複雑化している。更に、高齢者は長年の人生経験により個別性が強く、他の年齢層よりも個人差が非常に大きい。そのため、対象の価値観を重視し全人的に理解することが重要になる。

現在の日本は高齢化が急速に進行しており、2025 年には高齢化率が 30％にまで増加すると言われている。寝たきりや認知症高齢者が増加する一方、医療改定に伴う入院期間の短

縮、少子化に伴う介護力の低下や老々世帯、独居世帯などの世帯形態の変化により様々な社会問題が生じている。そのため、高齢者の健康増進・障害を予防し自立した生活を長く続けられるような支援が行われており、健康寿命の延長が課題とされている。

老年看護では、個別性が強く多様な価値観を持った高齢者へ、疾病や障害を持ちながらも、その人らしい生活を目指しQOLを充実させる支援が求められる。病院完結型ではなく地域完結型の思考が重要であり、地域包括ケアシステムについての理解を深める必要がある。その中で関連職種との連携、看護師の役割についての理解が必要である。高齢者理解については、核家族化が進み高齢者との関わりが少なく、多様な価値観を尊重できるだけの生活体験が十分でないのが現状である。そのため、体験学習やグループワーク、演習等を取り入れイメージ化を図るとともに、高齢者の看護を思考できる授業内容の工夫が必要である。高齢者の全人的理解に加え、様々な障害を抱えて生活する高齢者の支援、それをサポートするシステムや制度を学び、その人に合った個別的な看護を見出す力をつけることを目指す。また、進行する高齢社会の背景から多死社会を見据えた終末期看護の重要性とその在り方について学ぶ。

〈科目〉 老年看護学概論　老年看護学Ⅰ・Ⅱ　老年期の看護過程　老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ

【小児看護学　4単位　105時間】

小児看護学では、地域社会の中で、子どもの健やかな成長・発達が促されるよう環境を整え、生活の質（QOL）を向上させる看護の基礎的な能力を身につける。子どもの命及び子どもの最善の利益を守り、子どもを育む環境に触れることを通して子どももまた一人の身体的、精神的、社会的に統合される過程にある生活者であることを学ぶ。子どもと家族に関心を持ち、人格や権利を尊重した誠実な態度、子どもの成長発達段階も含め理解した子ども中心の看護を考え、根拠に基づいて判断できる能力を身につける。

〈科目〉 小児看護学概論　小児看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　小児看護学実習Ⅰ・Ⅱ

【母性看護学　4単位　105時間】

母性看護学は、女性の生涯に渡る健康の維持・増進、疾病予防を支援し次世代の健全な育成を図ることを目的とし、その対象はマタニティサイクル期にある母子とその家族のみならず、思春期・成熟期・更年期・老年期にある女性とその家族、家族が生活する地域をも含んでいる。近年、女性を取り巻く環境は急激に変化しており、女性の生涯や役割の多

様化、医学の進歩・発展、晩産化と少子高齢化、母子をめぐる生活環境や家族形態の著しい変化、国際結婚・外国人家族の増加などに伴い、母性看護の役割も拡大してきている。そのため母性看護を学ぶ上では、マタニティサイクル期を中心とした母子の健康問題や発達課題と看護の知識だけでなく、セクシュアリティの発達や課題、ライフステージ各期のホルモンの変化やヘルスケア、地域・社会を含めた多様な場での支援の方法など、幅広い視点が必要となる。女性を取り巻く環境の変化がどのような健康問題に影響しているのか、対象の現状と対象を取り巻く社会、医療及び看護について考え、将来に向けて発展できるための基礎を育成する。

〈科目〉 母性看護学概論　母性看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　母性看護学実習

【精神看護学　4単位　105時間】

人の一生を通してそれぞれのライフステージには特有の問題と困難があり、それがストレスとなり精神的健康が脅かされている。精神疾患の発症や自殺の問題に加え、不健康な心の状態がもたらす家庭内暴力、いじめなどが社会の問題となっている。そのような状況の中「心のケア」が求められてきており、精神看護の重要性は高まっている。そこで、全ての人々の心の健康の保持増進を考えるうえで必要な基礎的知識を学ぶとともに、精神看護における看護師の役割を学ぶ。従来は病院を中心に精神医療が行われる傾向にあったが、近年ノーマライゼーションの考え方に基づき、精神障害者が地域の中で質の高い生活を送ることができるように様々な取り組みが行われている。それに伴い、看護業務の内容、看護師の役割も変化し、患者の回復を目指して、一人一人のエンパワーメントに着目した看護ケアの提供が求められている。当事者が望む回復への援助と、精神障害者が退院した後も安定した地域生活を継続するために必要な援助について学ぶ。

精神看護においては患者－看護師関係が重要である。患者との関わりの場面で、患者の変化に気づき、その変化をもたらしたのは何か考え、対応できる力を育むとともに、自己理解を通して、精神看護において看護師自身が「ケアの道具」になることの意味を学ぶ。精神障害者は病的体験の苦しさやスティグマによる生きにくさを抱えている。当事者が抱えている苦しみや生きにくさを理解し、看護師に必要な態度を学ぶ。また、安全な治療環境について学び、患者の基本的人権の尊重をはじめとする看護倫理や関連した法律、制度について理解を深める。

〈科目〉 精神看護学概論　精神看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　精神看護学実習Ⅰ・Ⅱ

【看護の統合と実践　5単位　105時間】

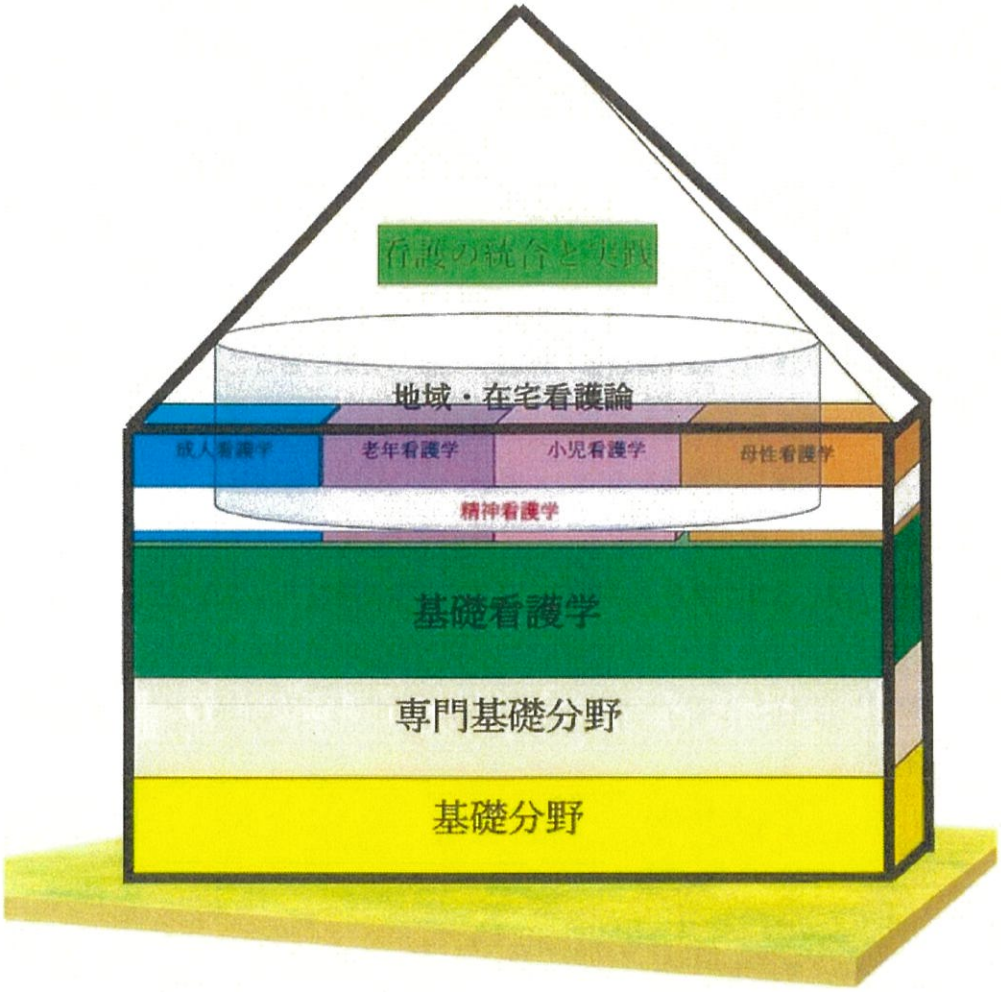
看護の統合と実践では、基礎看護教育の集大成として基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学んだ知識・技術・態度を統合し、より臨床場面に即した内容を学習する。

組織のなかでの看護師の役割やリーダーシップ・メンバーシップについて理解し、看護の質向上のためのマネジメントの基礎的能力を身につける。また、チーム医療や多職種との協働の中での看護師の役割を理解する内容とする。安全な医療を提供するために、医療の現場で起こりうる事故やその発生メカニズムと安全対策について学び、事故を回避する判断能力を身につける。近年、我が国では大きな災害が発生しており、災害現場での医療や看護のニーズが高まっている。宮城県においても東日本大震災を経験しており、災害看護について学ぶ意義は大きい。震災経験者の体験や支援の実際を知ることから災害看護学の重要性を理解し関心をもち災害看護の基礎を学習する内容とする。グローバル化する国際社会においての健康問題や国際協力について学び、広い視野で看護をとらえる能力を育成したい。看護の統合では臨床場面を想定した演習を行う。また、看護基礎教育の総まとめとして統合実習では、複数患者を受け持ち、安全に看護を提供するための基礎を学ぶ内容とする。

〈科目〉　看護管理　医療安全　災害看護学　国際看護学　看護の統合演習
統合実習Ⅰ・Ⅱ

3．教育課程の構造図

1）カリキュラム構造図の共通理解



［考え方］

当校のカリキュラム構造図は、全体を「家」として表現した。

1年次から学習する、看護教育の基礎分野と専門基礎分野を土台として、積み上げる。また、専門分野は、基礎看護学を基盤とし、精神看護学は他領域に跨り、関連しあう領域と考え、入り込むように配置した。

仙台市医師会の理念にもある「地域住民の命と健康を守る」使命を全うするために、地域・在宅看護論は各看護学の領域全体を網羅し、互いに発展するように考え、看護の統合と実践は屋根として、全体を形作りまとめていくという考え方とした。

授　業　進　度　表　(令和8年度)

科目名			単位	時間	1年次		2年次		3年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基盤	哲学	1	15	15					
		倫理学	1	15	15					
		論理学	1	30	30					
		情報処理	1	30	30					
		心理学	1	30	30					
		コミュニケーション	1	30	30					
	人間と生活・社会の理解	人間関係論	1	15		15				
		カウンセリング	1	15					15	
		家族論	1	15			15			
		社会学	1	15		15				
		教育学	1	15			15			
		リフレクション	1	15	15					
		日本語表現	1	30		30				
		医療に役立つ英語	1	30	30					
		身体とこころの健康	1	15	15					
基礎分野合計			15		9	3	2		1	
				315	210	60	30		15	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30	30					
		解剖生理学Ⅱ	1	30	30					
		形態機能学	1	30	30					
		栄養と代謝	1	30		30				
		微生物と感染症	1	30	30					
		病理学	1	15		15				
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病回復過程Ⅰ	1	30		30				
		疾病回復過程Ⅱ	1	30		30				
		疾病回復過程Ⅲ	1	30			30			
		疾病回復過程Ⅳ	1	30			30			
		疾病回復過程Ⅴ	1	30			30			
		疾病回復過程Ⅵ	1	30			30			
		薬理学	1	30		30				
		治療論Ⅰ	1	15			15			
		治療論Ⅱ	1	15			15			
		臨床検査法	1	15		15				
	小計		16		4	6	6			
				420	120	150	150			
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1	30				30		
		社会福祉論	1	30			30			
		現代医療論	1	15		15				
		地域医療論	1	15		15				
		関係法規	1	15					15	
		多職種連携	1	15		15				
	小計		6			3	1	1	1	
				120		45	30	30	15	
専門基礎分野合計			22		4	9	7	1	1	
				540	120	195	180	30	15	

科目名			単位	時間	1年次		2年次		3年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	30	30					
		看護学概論Ⅱ	1	30		30				
		看護展開の基礎Ⅰ	1	30		30				
		看護展開の基礎Ⅱ	1	30			30			
		基礎看護技術Ⅰ	1	30	30					
		基礎看護技術Ⅱ	1	30	30					
		基礎看護技術Ⅲ	1	30	30					
		基礎看護技術Ⅳ	1	30		30				
		基礎看護技術Ⅴ	1	30		30				
		臨床看護概論Ⅰ	1	30		30				
		臨床看護概論Ⅱ	1	30			30			
		看護研究	1	30					30	
		小　計	12	360	120	150	60		30	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1	30	30					
		地域・在宅看護論Ⅰ	1	15	15					
		地域・在宅看護論Ⅱ	1	30		30				
		地域・在宅看護論Ⅲ	1	15			15			
		地域・在宅看護論Ⅳ	1	30			30			
		地域・在宅看護論Ⅴ	1	30				30		
		小　計	6	150	45	30	45	30		
	成人看護学	成人看護学概論	1	30		30				
		成人看護学Ⅰ	1	30			30			
		成人看護学Ⅱ	1	30			30			
		成人看護学Ⅲ	1	30			30			
		成人看護学Ⅳ	1	30				30		
		成人看護学Ⅴ	1	30				30		
		小　計	6	180		30	90	60		
	老年看護学	老年看護学概論	1	30		30				
		老年看護学Ⅰ	1	30			30			
		老年看護学Ⅱ	1	30			30			
		老年期の看護過程	1	15				15		
		小　計	4	105		30	60	15		
	小児看護学	小児看護学概論	1	30		30				
		小児看護学Ⅰ	1	30			30			
		小児看護学Ⅱ	1	30				30		
		小児看護学Ⅲ	1	15				15		
		小　計	4	105		30	30	45		
	母性看護学	母性看護学概論	1	30		30				
		母性看護学Ⅰ	1	30			30			
		母性看護学Ⅱ	1	15				15		
		母性看護学Ⅲ	1	30				30		
		小　計	4	105		30	30	45		
	精神看護学	精神看護学概論	1	30		30				
		精神看護学Ⅰ	1	30			30			
		精神看護学Ⅱ	1	30				30		
		精神看護学Ⅲ	1	15				15		
		小　計	4	105		30	30	45		

科目名		単位	時間	1年次		2年次		3年次	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期
	看護の統合と実践 看護管理	1	15					15	
	医療安全	1	15				15		
	災害看護学	1	30						30
	国際看護学	1	15						15
	看護の統合演習	1	30					30	
	小計	5	105				15	45	45
	専門分野小計	45		6	11	12	11	3	2
			1215	165	330	345	255	75	45
	臨地実習 基礎看護学実習Ⅰ	1	30	30					
	基礎看護学実習Ⅱ	1	45			45			
	基礎看護学実習Ⅲ	1	45				45		
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	30				30		
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	1	45					45	
	地域・在宅看護論実習Ⅲ	1	45					45	
	成人看護学実習Ⅰ	1	30				30		
	成人看護学実習Ⅱ	2	60					60	
	成人看護学実習Ⅲ	1	30					30	
	老年看護学実習Ⅰ	1	45					45	
	老年看護学実習Ⅱ	2	60					60	
	小児看護学実習Ⅰ	1	30				30		
	小児看護学実習Ⅱ	2	60					60	
	母性看護学実習	2	60					60	
	精神看護学実習Ⅰ	1	30				30		
	精神看護学実習Ⅱ	2	90					90	
	統合実習Ⅰ	1	30						30
	統合実習Ⅱ	1	45						45
	小計	23	810	30		45	165	570	
専門分野合計		68		17＋1		23＋6		5＋16	
			2025	495＋30		600＋210		120＋570	

シラバス　　基礎分野　令和8年度

科目No.1 科目名	哲学	単位数	時間数	配当時期	担当者	澤田　義文
		1	15	1年（前）		

科目のねらい　「本質」を洞察することで問題を解き明かすための「考え方」を見出すとされる哲学を学び、社会的存在としての人間のあり方を考え倫理学.論理学へつなぐ

学習目標

ものごとの考え方を深めることで看護者に必要な思考の基礎を身につける

人間が生きて生活していくことの本質を深く考えることができる

1)哲学的な考え方に親しむことで、人間の生を深く考えるための視点を持てるようになる

2)講義で取り上げた哲学的な問題について、自分の考えを言語化できるようになる

回	学習内容(と成果)	方法	備考
1	知識と知恵①	講義と適宜グループワーク	
2	知識と知恵②	講義と適宜グループワーク	
3	自由と行為①	講義と適宜グループワーク	
4	自由と行為②	講義と適宜グループワーク	
5	生と死①	講義と適宜グループワーク	
6	生と死②	講義と適宜グループワーク	
7	生と死③	講義と適宜グループワーク	
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)		

使用するテキスト

参考文献

評価方法

毎回のコメント

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	○				

シラバス　　基礎分野　令和8年度

科目No.2 科目名	倫理学	単位数	時間数	配当時期	担当者	及川　正範
		1	15	1年（前）		

科目のねらい

社会の中で生きている人々は、それぞれの価値観を持ち尊重し合い、よりよく生きようとしている。その根底にある道徳、倫理等を深く考え、他者理解へと繋げていく。

また、医療における倫理、さらに看護に求められる倫理を追求する基礎を身につける

学習目標

1 一人の人間として、社会の中での役割や交流を通して「よりよく生きる」「共に生きている」の意味を考えることができる

2 専門職として求められる倫理的判断能力の基礎を身につける。

回	学習内容(と成果)	方法	備考
1	倫理学の発展を歴史から理解できる	講義	
2	権利・義務・基本的人権・価値観等について考える	講義・グループワー	自己と他者の違いを知る
3	現代社会における倫理ー1		
	個人情報の保護はなぜ必要か	講義	
4	現代社会における倫理ー2		
	生命倫理を考える	講義	
5	医療倫理	講義	
6	看護に求められる倫理	グループワーク	倫理規範に基づいた
7	倫理的問題の事例検討ー1		検討
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)		

使用するテキストなし

評価方法

単位認定試験

参考文献

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	◎	○			○

シラバス　　基礎分野　令和8年度

科目No.3 科目名	論理学	単位数	時間数	配当時期	担当者	八木　聡
		1	30	1年（前）		

科目のねらい

論理学の授業では、正しい思考過程を経て真の認識に達するために思考の法則・形式の考え方を学ぶ
科学的根拠を追求する論理的思考を学ぶ

学習目標

1．論理的にものごとを捉え表現することができる
2．批判的思考を学び、思考の矛盾や妥当性を判断して処理する能力を養う
3．科学的根拠に基づいた問題解決技法を理解する
＊日常的に実践しやすい非形式的推論やクリティカルシンキング、論理的な読み書き能力の涵養に重きを置く

回	学習内容	方法	備考
1	「論理」とは何か	講義	
2	妥当な推論	講義	
3	論理トレーニングⅠ	講義	
4	論理トレーニングⅡ	講義	
5	推論と推測、演繹と帰納	講義	
6	問題解決と論理	講義	
7	形式的な誤謬	講義　演習	
8	非形式的な誤謬	講義　演習	
9	論理トレーニングⅢ	講義　演習	
10	論述文と論理(読む)	講義　演習	
11	論理トレーニングⅣ	講義　演習	
12	論述文と論理(書く)	講義　演習	
13	論理トレーニングⅤ	演習	
14	これまでの復習	演習	
15	単位認定試験(45分)・解説(45分)	講義　試験	

使用するテキスト

内田詔夫（2012）『論理の基礎と活用』、北樹出版

参考文献

適宜授業内で指示する

評価方法

単位認定試験
課題提出等

学生へのメッセージ

個人ワークに積極的に取り組み、論理的に考え・行動するトレーニングをしましょう。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○		○	◎			○

シラバス　　基礎分野　令和8年度

科目No.4 科目名	情報処理	単位数	時間数	配当時期	担当者	白取　博志
		1	30	1年(前)		

科目のねらい

医療、看護における高度情報化に対応できるよう、情報システムの概要を理解し、看護実践に必要な知識の習得と基本操作ができる能力を養う

学習目標

1．情報科学の基礎を理解できる
2．コンピューターの基本的機能について理解できる
3．看護における情報処理の実際を身につける

回	学習内容	方法	備考
1	情報と情報表現（情報の意義・特徴など）	講義	
2	ネットワークⅠ（ウェブ技術）	講義	
3	ネットワークⅡ（メール技術）	講義	
4	情報セキュリティと情報モラル	講義	
5	保健医療における情報システム	講義	
6	医療・看護における情報システム	講義	
7	患者の権利と情報	講義	
8	文字情報の整理（ワード）	講義　演習	
9	情報の発表とコミュニケーション（P.P）	講義　演習	
10	Excelによる統計解析	講義　演習	
11	プレゼンテーション作成	演習	
12	プレゼンテーション作成	演習	
13	プレゼンテーション作成	演習	
14	発表準備	演習	
15	発表　　まとめ	演習	
	単位認定試験		

使用するテキスト

系統看護学講座　別巻　看護情報学　医学書院

参考文献

評価方法

単位認定試験　60点
発表会　40点

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
						○	○

シラバス　　基礎分野　令和8年度

科目No.5 科目名	心理学	単位数	時間数	配当時期	担当者	江﨑　浩明
		1	30	1年（前）		

科目のねらい

心理学的にみた人間の心の特徴とその理論を学び、人間を統合的に捉える視点を身につける

また、自己理解の動機づけとともに、人の気持ちを受容する姿勢をはぐくむ

学習目標

1．人間心理の主な特徴と理論を理解できる

2．心理的特徴が日常に現れる場面と結びつけて考えることができる

3．身体的、社会的側面と心理的側面が深く関連し、個人差があることが理解できる

4．様々な場面から自身の心理を客観的に振り返り、内省する習慣を身につける

回	学習内容(と成果)	方法	備考
1	オリエンテーション、心理学の種類と分類	講義	
2	心理学史、心理学の誤解と偏見	講義	
3	感覚・知覚、視・聴・味・嗅・体性感覚	講義	
4	認知、痛みの評価	講義	
5	記憶の種類と分類、選択的注意	講義	
6	忘却、逆向抑制、記憶の曖昧さ	講義	
7	学習、古典的・オペラント条件づけ、試行錯誤、洞察	講義	
8	動機づけ、好不調の波、生物学的・社会的動機	講義	
9	内・外発的動機づけ、マズローの欲求階層	講義	
10	学習性無力感、自己効力感、要求水準、スモールステッ	講義	
11	情動、感情、気分、不安の種類と分類	講義	
12	知能、非認知能力	講義	
13	知能検査とIQ、知的能力障害、能力の凹凸	講義	
14	創造性、問題解決能力	講義	
15	性格、類型論、特性論、遺伝と環境、前頭前野	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト

医療の行動科学のためのミニマムサイコロジー版　　北大路出版

参考文献

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	○	◎	○		○	○

シラバス　　基礎分野　令和8年度

科目No.6 科目名	コミュニケーション	単位数	時間数	配当時期	担当者	新田　貴之
		1	30	1年（前）		

科目のねらい

コミュニケーションの理論と技法を学ぶことにより、日常の人間関係を良好に保つ能力を身につけると共に、看護の対象となる人との関係構築の重要性について理解し必要な理論と技法を学ぶ

学習目標

看護実践の基盤となるコミュニケーションの理論と技法について理解する

回	学習内容	方法	備考
1	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを学ぶ意義、現代におけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの特徴	講義	
2	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの構成要素と成立過程、言語的・非言語的ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	講義	
3	マスコミュニケーションの影響　ICTの発達とコミュニケーション	講義	
4	良好なコミュニケーションに必要な技法　　質問技法		
	オープン＆クローズドクエスション、積極的傾聴と共感	講義	
5	コミュニケーションにふさわしい態度	講義・演習	
6	リフレクション　自分のコミュニケーションの傾向を知る	講義・演習	
7	自己表現のためのアサーションの理論と技法	講義	
8	アサーティブーコミュニケーションの活用	講義	
9	看護の対象となる人との関係構築の意義	講義	
10	関係構築のための基本的技法	講義	
11	さまざまな場面での患者・看護師間のコミュニケーション	講義・演習	
12	事例をもとにした学習	演習	
13	事例をもとにした学習	演習	
	プロセスレコードの目的と記述方法	講義	
14	プロセスレコードの作成と振り返り	講義	
15	チームにおけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（看護師間、医師・看護師間、他職種）	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト

系統看護学講座　基礎分野　人間関係論　　医学書院

参考文献

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	◎	○	◎	○	○

シラバス　　基礎分野　令和8年度

科目No.7 科目名	人間関係論	単位数	時間数	配当時期	担当者	新田　貴之
		1	15	1年（後）		

科目のねらい

人間関係に関する概念や理論、スキルを学び、対象や医療者とのよりよい人間関係を形成しながら援助するための基礎とする

学習目標

1．人間関係の基本となる理論を理解できる
2．コミュニケーションの基本とスキルを学び、援助場面で活用できる
3．保健医療チーム、患者や家族、地域における人間関係の特徴や課題を学び、看護師として必要な関係構築について考えることができる

回	学習内容	方法	備考
1	人間的存在と人間関係	講義	
2	社会的役割と人間関係	講義	
3	態度と対人関係	講義	
4	集団での問題解決とリーダーシップ、 メンバー・フォロワーシップ等	講義	
5	人間関係をつくる理論と技法 1）コミュニケーション 2）コーチング	講義	
6	保健医療チーム・患者と援助者の人間関係	講義・演習	
7	地域社会の人間関係	講義	
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)		

使用するテキスト

系統看護学講座　人間関係論　　医学書院

参考文献

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	○	◎	○	○	○	○

シラバス　　基礎分野　令和8年度

科目No.8 科目名	カウンセリング	単位数	時間数	配当時期	担当者	江﨑　浩明
		1	15	3年（前）		

科目のねらい

カウンセリングの理論と技法を学び、日々の関わりに活用できる基礎を学ぶ。

学習目標

1．医療現場で出会う患者や他者から相談を受けた時に、相談者が自らの解決を見つけ出していくように導く対話法の基本的な考えが理解できる

2．カウンセリングの知識を学習し、聴くスキルを身に付け、自己の行動に役立てることができる

回	学習内容(と成果)	方法	備考
1	カウンセリングとは カウンセリングの意義と諸理論の概要 周辺概念との相違点 カウンセラーの３条件 自己一致・無条件の肯定的配慮・共感的理解	講義	
2	心理療法Ⅰ 精神分析、交流分析、クライエント中心療法	講義	
3	心理療法Ⅱ：認知行動療法、スキーマ療法	講義	
4	ストレス：ストレスとストレッサー、心身への影響	講義	
5	ストレスマネジメント コーピング,レジリエンス,リフレーミング,マインドフルネス	講義	
6	聴くスキルⅠ 自身の精神的余裕の必要性、役割の理解、構え	講義・演習	
7	聴くスキルⅡ 質問、沈黙、本当に重たいケースへの対応	講義・演習	
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)		

使用するテキスト

1)系統看護学講座　基礎分野　心理学　医学書院　他

参考文献

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ　　心理学、人間関係論で学んだ知識を確認しておくこと。

受講上の注意：学習内容において、わからない語句は意味を調べておきましょう。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長	
	◎	○	◎		○	○	○	

シラバス　　基礎分野　令和8年度

科目No.9 科目名	家族論	単位数	時間数	配当時期	担当者	新田　貴之
		1	15	2年（前）		

科目のねらい

現代社会における家族の特徴と多様性を学び、個人と家族の関係について理解を深める。

学習目標

1．家族の特性や機能を理解できる

2．現代社会における家族に関する現状や課題を理解し考えることができる

3．家族を理解するための理論を知り、家族支援の方法について考えることができる。

回	学習内容	方法	備考
1	家族とは何か、定義、変遷	講義	
2	家族の形態、機能	講義	
3	家族の発達段階と諸課題	講義	
4	家族を理解するための理論	講義	
5	家族支援の実際（事例学習①）	GW	事例の検討
6	家族支援の実際（事例学習②）	GW	少子高齢社会
7	家族支援の実際（事例学習③）	GW	母子関係　家族病理
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)		

使用するテキスト

系統看護学講座　　人間関係論　　医学書院

参考文献

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	○	○	○	◎	○	

シラバス　　基礎分野 令和8年度

科目No.10 科目名	社会学	単位数	時間数	配当時期	担当者	新田　貴之
		1	15	1年（後）		

科目のねらい

看護の実践の場が地域社会へと移行が進む中、対象が様々な価値観を持ってどのような生活を送っているか想像したり理解するためには社会学を学ぶ必要がある。
また、社会のありようや問題は健康問題や保健医療にも影響を及ぼす。本科目では健康問題を個人の問題としてとらえるだけでなく、社会の問題としてとらえる視点も醸成したい。

学習目標

1．社会学の基礎概念および保健医療と社会学の関連について理解できる
2．個人の健康問題に社会的要因が与える影響を理解できる
3．保健医療の専門職としての看護、地域社会と保健医療について理解できる

回	学習内容	方法	備考
1	社会学とは　社会学の基礎概念	講義	
2	保健医療と社会学	講義	
3	健康と病気と社会	講義	
4	健康・病気の社会格差	講義	
5	働き方・働かせ方と健康・病気	講義	
6	性・ジェンダー・家族と健康	講義	
7	健康・病気・保健医療と地域社会	講義	
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)		

使用するテキスト

系統看護学講座　社会学　　医学書院

参考文献

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	○	○	○			○

シラバス　　基礎分野　令和8年度

科目No.11 科目名	教育学	単位数	時間数	配当時期	担当者	水谷　修
		1	15	2年（前） →(後)		

科目のねらい

看護の教育的役割に着目し、そこで求められる人間の成長発達と学習、社会との関連性を学ぶことを目的とする。

教育の本質を理解し、教育技術を患者指導、健康教育の場で活用できる基礎的能力を養う。

学習目標

1．教育の基本的概念についての知識が理解できる

2．教育の理念・歴史の変遷を理解できる

3．他者との意見交換を通し、教育について多角的に捉え、自己の意見を構築する力を身につける

4．習得した知識や教育技術を、看護の教育的役割の実践に生かせるよう各自の課題が明確にできる

回	学習内容(と成果)	方法	備考
1	授業ガイダンス　教育学を学ぶ意義 「教育・学習」に関する知識と関心の確認	講義	
2	子どもの学習、大人の学習、高齢者の学習を支える教育の理論と歴史～pedagogy、andragogy、eldergogy	講義・演習	
3	現代社会の課題と教育１-人生100年時代と生涯学習	講義	
4	現代社会の課題と教育２-生きがい形成と生涯学習	講義・演習	
5	現代社会の課題と教育３-学び直し、リスキリング	講義	自己教育力
6	現代社会の課題と教育４-SDGｓと生涯学習 子どもの成長・発達と学び	講義	
7	看護観と生涯学習	講義・演習	
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)	筆記試験	

使用するテキスト

系統看護学講座　基礎分野　教育学　医学書院

参考文献

学生へのメッセージ

評価方法

単位認定試験

事前学習：自己が今まで受けてきた学校教育について、どのような学び方をしてきたか想起しておいて下さい。

受講上の注意：次回の単元について、一読してきてください。予習が大事です。

日本における貧困と教育では、看護の対象を理解する一助とする。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長	
		○	○	○	○		◎	

シラバス　　基礎分野　令和8年度

科目No.12 科目名	リフレクション	単位数	時間数	配当時期	担当者	看護師実務経験あり 鈴木　留美子
		1	15	1年（前）		

科目のねらい

リフレクションの理論・知識・技術の獲得をし、出来事や事象を振り返ることで、
自己成長に繋がる基礎知識を習得し、臨床判断能力の基礎を備えた看護師として
自己研鑽できる能力を養う。

学習目標

1．リフレクションとは何かを学び、日々の事象から「気づき」を持つことができる
2．日々の行動を省察する過程から自己を振り返り、看護を志す自覚が芽生える

回	学習内容	方法	備考
1	リフレクションとは何か 主体的対話的な深い学び、社会人基礎力について 自己肯定感について、自己洞察力	講義	社会人基礎力自己評価
2	リフレクションの方法論	講義	
3	モデルを活用したリフレクション ALACTモデル、「８つの問い」等	講義・ワーク	
4	リフレクションの方法を演習してみよう カードを用いる、レンジャーズワークについて	講義・演習	
5	看護のためのリフレクション１ レンジャーズワークにトライ	講義・演習 発表	・自己の傾向を知る
6	看護のためのリフレクション２ 振り返りを理解する、気づく	講義・演習	・気づき・省察から、 ・臨床判断能力に繋げる
7	看護のためのリフレクション３ リフレクション・シートを活用する	講義・演習	ポートフォリオ
8	まとめ(45分)・単位認定試験又はレポート(45分)		

使用するテキスト　なし

参考文献

1）学文社　リフレクション入門
2）医学書院　体験学習の展開　ほか

評価方法

単位認定試験(レポート)　６０点
課題提出・演習態度　４０点

学生へのメッセージ

リフレクションという言葉を聞いて、何を想像し、どんな学習を期待するか、
各自意見をまとめておきましょう。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
			○	○	○		◎

シラバス　　基礎分野　令和8年度

科目No.13 科目名	日本語表現	単位数	時間数	配当時期	担当者	笠間はるな
		1	30	1年（後）		

科目のねらい

文化の一つである日本文学にふれ、豊かな情操をはぐくむ

他者と相互理解するための日本語表現について学ぶ

学習目標

1．日本文学にふれることで感性が刺激され、さらに自身の感想を表現できる

2．文章を理解する「読む力」と他者に伝わる「書く力」の基本が習得できる

3．対人関係に必要な適切な日本語表現方法が理解できる

回	学習内容(と成果)	方法	備考
1	ガイダンス、日本のことばと表現を学ぶ意義、自己紹介文	講義	
2	日本文学の表現１－韻文	講義	
3	日本文学の表現２－散文	講義	
4	日本文学の表現３－まとめと感想	講義	
5	ことばと表現１－文の構造	講義、ワーク	
6	ことばと表現２－助詞	講義、ワーク	
7	ことばと表現３－敬語①	講義、ワーク	
8	ことばと表現４－敬語②	講義、ワーク	
9	ことばと表現５－まとめと確認テスト	講義、ワーク	
10	手紙文、電子メール文の書き方	講義、ワーク	
11	論作文(小論文)１－書き方	講義	
12	論作文(小論文)２－要約文の作成	講義、ワーク	
13	論作文(小論文)３－小論文の作成	講義、ワーク	
14	研究論文の読解１	講義	
15	研究論文の読解２（45分）、単位認定試験（45分）	講義	

使用するテキスト

前田安正　解きながら身につける大人の文章力　KUMON

参考文献

評価方法

確認テスト

単位認定試験

学生へのメッセージ

日ごろ目にする文章が、なぜ分かりやすいと思うのか、なぜ分かりにくいと思うのか、

考える習慣がつくと良いと思います。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○		◎				○

シラバス　　基礎分野　令和8年度

科目No.14 科目名	医療に役立つ英語	単位数	時間数	配当時期	担当者	Mark Tuffs
		1	30	1年（前）		

科目のねらい

これまでに学んできた英語の知識やスキルを基に、保健医療分野の専門用語・専門知識を英語で学び、活用する力を身につける。医療（施設や在宅）や看護の場面で、医療従事者として実際に読む・聞く・話すが活用できるよう、英語のコミュニケーション能力を身につける。

学習目標

1．保健医療分野で用いられる英語表現（専門用語・専門知識）が理解できる

2．英語を用いて医療上の基本的な質問や指示などの会話ができ、外国人患者への対応ができる

回	学習内容	方法	備考
1	サバイバル英語	講義・ワーク	
2	患者情報について		
3	患者情報について		
4	病院の診療科		
5	病院内での道案内		
6	症状について		
7	ミニテスト		
8	身体について		
9	病歴について		
10	薬について		
11	予約を取る方法について		
12	手術前		
13	手術後		
14	コースの復習		
15	まとめ・単位認定試験		

使用するテキスト

医学書院　クリスティーンのやさしい看護英会話

参考文献

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ　　英和辞典を準備

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
			◎		○		○

シラバス　　基礎分野　令和8年度

科目No.15 科目名	身体とこころの健康	単位数	時間数	配当時期	担当者	大井川　疊之介他 鈴木　留美子 看護師実務経験あり
		1	15	1年（前）		

科目のねらい　人間の持つ身体能力を、自身の身体を通して理解するとともに、
運動することによるリフレッシュ効果と体力向上を図る。
また、こころのリフレッシュと、感性を高めるため文化・芸術に触れる。

学習目標
1.自身の身体の能力を知ることができる
2.「動く」ための原理・機能を、自身の身体運動から理解できる
3.「動く」ことの効果に気づき、リフレッシュができる
4.日本の文化に触れ、自身の感性を高めることができる

回	学習内容(と成果)	方法	備考
1	自分の身体の能力を知る（体力テスト）	講堂/体育場で	
2	身体の機能・自然な動きを学ぶ	実技を中心に	
3	ストレッチの効果を体験する(腰痛等緩和など)		
4			
5	ストレッチの効果を体験する(リフレッシュ等)		
6	自身の体力の評価、講義のまとめ		
7	芸術鑑賞等	各自計画実施	計画書作成
8		レポート課題	レポート提出予定

使用するテキスト　なし

参考文献　なし

評価方法
出席・
課題提出等

学生へのメッセージ
動きやすい服装、運動靴、汗拭きタオル、マットレス(バスタオル)等を持参する
移動教室時は、遅れずに集合できるように、場所の確認を事前にしておくこと

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎		◎				○

シラバス　　専門基礎分野　　令和8年度

科目No.16 科目名	解剖生理学Ⅰ	単位数	時間数	配当時期	担当者	松井　博滋
		1	30	1年（前）		

科目のねらい

人体の構造と機能を系統的に学習することで、病態生理の基礎的理解とするとともに
様々な健康段階に対するアセスメントや臨床判断能力の基礎的能力を養う

学習目標

1．人体の基本構造とその成り立ちを理解できる
2．呼吸器の構造及びその機能、血液の組成及び機能を理解できる
3．循環器の構造と機能を理解できる
4．腎・泌尿器の構造と機能を理解できる

回	学習内容	方法	備考
1	解剖生理学の基礎①	講義	
2	解剖生理学の基礎②	講義	
3	解剖生理学の基礎③	講義	
4	解剖生理学の基礎④	講義	
5	呼吸と血液のはたらき①	講義	
6	呼吸と血液のはたらき②	講義	
7	呼吸と血液のはたらき③	講義	
8	呼吸と血液のはたらき④	講義	
9	血液の循環とその調節①	講義	
10	血液の循環とその調節②	講義	
11	血液の循環とその調節③	講義	
12	血液の循環とその調節④	講義	
13	血液の循環とその調節⑤　体液の調節と尿の生成①	講義	
14	体液の調節と尿の生成②	講義	
15	体液の調節と尿の生成③	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト

系統看護学講座　解剖生理学　　医学書院

参考文献　　さわ研究所　解剖生理ノート

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎			◎	○		

シラバス　　専門基礎分野　　令和8年度

科目No.17 科目名	解剖生理学 II	単位数	時間数	配当時期	担当者	髙橋　和生
		1	30	1年（前）		

科目のねらい

人体の構造と機能を系統的に学習することで、病態生理の基礎的理解とするとともに
様々な健康段階に対するアセスメントや臨床判断能力の基礎的能力を養う

学習目標

1. 消化器の構造と機能を理解できる
2. 自律神経とホルモンによる人体の調節機構を理解できる
3. 運動器の構造と機能を理解できる
4. 脳・神経系、感覚器の構造と機能を理解できる
5. 生体の防御機構と外界への適応のしくみを理解できる
6. 生殖と発生、廊下のしくみを理解できる

回	学習内容	方法	備考
1	栄養の消化と吸収	講義	
2	栄養の消化と吸収	講義	
3	栄養の消化と吸収	講義	
4	栄養の消化と吸収	講義	
5	栄養の消化と吸収	講義	
6	栄養の消化と吸収	講義	
7	身体の支持と運動	講義	
8	身体の支持と運動	講義	
9	身体の支持と運動	講義	
10	身体の支持と運動	講義	
11	内蔵機能の調節	講義	
12	内蔵機能の調節	講義	
13	内蔵機能の調節・　情報の受容と処理	講義	
14	情報の受容と処理	講義	
15	生殖・発生と老化のしくみ	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト

系統看護学講座　解剖生理学　　医学書院

参考文献　　さわ研究所　解剖生理ノート

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎			◎	○		

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.18 科目名	形態機能学	単位数	時間数	配当時期	担当者	看護師実務経験あり 永倉　有紀 宇野　由佳
		1	30	1年（前）		

科目のねらい

無意識に行っている日常生活行動の仕組みを解剖生理学と結びつけ理解する。健康障害が起きた際に生じる日常生活行動への影響から、どのような援助が必要となるのか、看護の視点を身に付ける。

学習目標

1.人間がどのような体の構造と機能を使って日常生活行動を営んでいるのかが理解できる

2.健康障害が生じた際の日常生活への影響を理解できる

回	学習内容	方法	担当
1	「生きている」と「生きていく」　内部環境の恒常性	講義　第１章	宇野
2	恒常性維持のための物質の流通	講義　第２章	
3	恒常性維持のための調節機構 ①（神経性調節）	講義　第３章	
4	恒常性維持のための調節機構 ②（液性調節　ストレス）	講義	
5	「動く」を支えるしくみ	講義　第４章	
6	「食べる」を支えるしくみ ①	講義 GW　第５章	永倉
7	「食べる」を支えるしくみ ②	GW	
8	「食べる」を支えるしくみ ③	発表	
9	「息をする」を支えるしくみ ①	講義 GW　第６章	宇野
10	「息をする」を支えるしくみ ②	GW	
11	「息をする」を支えるしくみ ③	発表	
12	「トイレに行く」を支えるしくみ ①	講義 GW　第７章	
13	「トイレに行く」を支えるしくみ ②	発表	
14	「眠る」を支えるしくみ ①	GW　第9章	永倉
15	「眠る」を支えるしくみ ②	発表	
	単位認定試験		

使用するテキスト

菱沼典子著　看護形態機能学　日本看護協会出版

系統看護学講座　解剖生理学　　医学書院

参考文献　さわ研講師の解剖ノート　さわ研究所

日常生活行動からみるヘルスアセスメント　日本看護協会出版会

評価方法

単位認定試験　50点

グループワーク　50点

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	◎	◎	◎		◎

シラバス　　専門基礎分野　　令和8年度

科目No.19 科目名	栄養と代謝	単位数	時間数	配当時期	担当者	髙橋　和生 武田　美由紀
		1	30	1年（後）		

科目のねらい

人体を構成している物質の構造機能、代謝、恒常性の維持機能に関する生化学的知識を
もとに食生活と健康問題を関連付けて学習する。栄養食事療法の実際を学習する中で、
自身の健康を維持するための食の大切さに気付くことを期待する。

学習目標

1.栄養素の種類とはたらき、代謝について理解できる
2.健康障害に対する食事療法について理解できる
3.食生活と健康を関連付けることができる

回	学習内容	方法	備考
1	生化学とは　代謝の基礎と酵素・ビタミン・ミネラル	講義	髙橋　和生
2	糖質・脂質とその代謝	講義	
3	タンパク質とその代謝、核酸・ヌクレオチド・遺伝、糖質	講義	
4	ホメオスタシスを維持するための情報伝達、脂質	講義	
5	水・電解質のホメオスタシスの維持、生体防御(免疫)、蛋白質	講義	
6	生化学　まとめ	講義	
7	栄養・食の意義と現代人の食生活の特徴、ライフステージ	講義	武田　美由紀
8	人間栄養学と看護、食生活の事項評価	講義	
9	臨床栄養【動脈硬化、メタボリックシンドローム】	講義	
10	臨床栄養【糖尿病の機序と食事療法】	講義	
	療養生活と栄養【病院食と栄養補給】	講義	
11	臨床栄養【腎臓病と高血圧】	講義	
	療養生活と栄養【消化器系疾患、術前術後の栄養管理】	講義	
12	臨床栄養【肝臓病とその栄養管理、小児肥満、食物アレルギー】	講義	自分の食生活提出
13	健康づくりにおける施策と栄養評価の方法、グループ学習/調理実習	演習/GW	クラスごと
14	健康づくりにおける施策と栄養評価の方法、グループ学習/調理実習	GW/演習	クラスごと
15	高齢者の栄養、NST、がん、総合評価とまとめ	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト･参考文献

系統看護学講座　専門基礎分野　栄養学・生化学

評価方法

単位認定試験等

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎			○		○	○

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.20 科目名	微生物と感染症	単位数	時間数	配当時期	担当者	齋藤　紀行
		1	30	1年（前）		

科目のねらい

目に見えない微生物と、その感染による健康への影響を学び、正しい感染予防や診療に伴う支援のための基礎的知識を身につける

学習目標

1.微生物の種類とそれぞれの性質を理解する

2.生体内における感染の成立と予防法を理解する

3.主な感染症による感染症の特徴を理解する

回	学習内容(と成果)	方法	備　考
1	微生物学の歩み	講義	
2	微生物の種類	講義	
3	微生物の特徴　（１）細菌の性質	講義	
4	〃　（２）ウイルスの性質	講義	
5	〃　（３）その他の微生物の性質	講義	
6	感染と感染症	講義	
7	感染に対する生体防御機構 （１）免疫に関わる細胞と物質	講義	
8	（２）生体内免疫反応の仕組み	講義	
9	滅菌と消毒	講義	
10	感染症の検査と診断	講義	
11	感染症の治療と予防	講義	
12	感染症の現状と対策	講義	
13	主な病原微生物と感染症（１）細菌と細菌感染症	講義	
14	〃　（２）ウイルスとウイルス感染症	講義	
15	〃　（３）その他の微生物と感染症	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト･参考文献

系統看護学講座　専門基礎分野　微生物学　医学書院

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ　　講義の内容は多岐にわたるので充分な予習と復習を行うこと。

また、感染症の基本的予防の手洗い方法を日常で意識的に行い、習慣化していきましょう。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
				○	○		

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.21 科目名	病理学	単位数	時間数	配当時期	担当者	田中　美桜
		1	15	1年（後）		

科目のねらい

疾病の仕組み（原因、発症機序）や経過、影響を学び、臓器や細胞に起こる変化を理解する。
また、人間が疾病から受ける影響について考え、今後の対象の身体的アセスメントにつなげる力を養う。

学習目標

疾病によって起こる様々な身体機能の異常や障害について、原因や発生の仕組み、身体に与える影響が理解できる。

回	学習内容	方法	備　考
1	病理学とは 細胞・組織の障害と修復	講義	
2	炎症、免疫、移植と再生医療	講義	
3	循環障害	講義	
4	代謝障害	講義	
5	腫瘍	講義	
6	老化と死	講義	
7	先天異常と遺伝性疾患	講義	
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)		

使用するテキスト

系統看護学講座　専門基礎分野　　病理学　　医学書院

評価方法

単位認定試験

参考文献

学生へのメッセージ

・解剖生理学をしっかりと復習しましょう

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
				◎	○		

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.22 科目名	疾病回復過程Ⅰ	単位数	時間数	配当時期	担当者	八重柏　政宏 佐治　賢哉
		1	30	1年（後）		

科目のねらい

各系統に特徴的でかつ一般的な異常や疾患・障害について、症状と病態生理・診断・治療・回復過程を関連づけて学び、対象の置かれた状態の理解を深め身体的アセスメントができる基礎的知識を修得する。

学習目標

1．呼吸器・循環器疾患の病態生理・診断・治療について、系統的に学ぶことができる

2．対象の置かれた状態から、身体的アセスメントに必要な知識が理解できる

回	学習内容(と成果)	方法	備　考
1	呼吸器系炎症性疾患１（気管支炎、肺炎）	講義	八重柏　政宏
2	呼吸器系炎症性疾患２（間質性肺炎、胸膜炎）	講義	
3	気管支喘息	講義	
4	慢性閉塞性肺疾患（COPD）	講義	
5	肺循環障害（肺高血圧症、肺塞栓症）	講義	
6	肺結核、気胸	講義	
7	腫瘍（肺がん、中皮腫）	講義	
8	血圧異常の病態と診断・治療（動脈硬化症）	講義	佐治　賢哉
	本態性高血圧、二次性高血圧、起立性低血圧	講義	
9	ショックの病態と診断・治療（心原性ショック、出血性ショック）	講義	
10	先天性心疾患（心房中隔欠損症、心室中隔欠損症	講義	
	動脈管開存症、ファロー四徴症）	講義	
11	虚血性心疾患（狭心症、急性冠症候群）	講義	
12	心筋症（肥大型心筋症、拡張型心筋症）、不整脈	講義	
13	心不全（急性心不全、慢性心不全）、不整脈	講義	心臓リハビリテーション含む
14	心タンポナーデ、不整脈、炎症性新疾患、弁膜症）、肺塞栓症	講義	
15	血管系（大動脈瘤、大動脈解離）	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト・参考文献	評価方法
系統看護学講座　呼吸器　　循環器　医学書院	単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
				◎	○		

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.23 科目名	疾病回復過程 II	単位数	時間数	配当時期	担当者	大矢内幹　長崎太 山本蒔子　大和一美 中山孝子
		1	30	1年（後）		

科目のねらい

各系統に特徴的でかつ一般的な異常や疾患・障害について、症状と病態生理・診断・治療・回復過程を関連づけて学び、対象の置かれた状態の理解を深め身体的アセスメントができる基礎的知識を修得する。

学習目標

1．消化器・栄養代謝系・口腔疾患の病態生理・診断・治療について、系統的に学ぶことができる

2．対象の置かれた状態から、身体的アセスメントに必要な知識が理解できる

回	学習内容	方法	備　考
1～4	体液調節の疾患（脱水、浮腫、低ナトリウム血症、高カリウム血症、アシドーシス、アルカローシス） 上部消化管炎症性疾患（逆流性食道炎、急性胃炎、慢性胃炎） 潰瘍性疾患（胃潰瘍、十二指腸潰瘍）腫瘍（食道がん、胃がん） 下部消化管炎症性疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病、虫垂炎等） イレウス、排便障害（便秘・下痢）、腹壁・腹膜、横隔膜疾患等	講義	大矢内　幹 （25点）
5～8	肝臓・胆嚢・膵臓疾患（炎症性疾患：肝炎、胆管炎 胆石症、膵炎（肝硬変、脂肪肝、アルコール性肝炎） 腫瘍（肝がん、、膵がん、胆嚢がん、胆管がん、大腸がん）		長崎　太 （25点）
9 10	内分泌系疾患（甲状腺疾患：甲状腺機能亢進症、 内分泌系疾患(甲状腺機能低下症、甲状腺炎等） 内分泌系疾患（性腺、膵・消化管内分泌腫瘍） 副甲状腺〈上皮小体〉疾患、腫瘍（甲状腺がん）		山本　蒔子 （20点）
11 12 13	代謝異常疾患（メタボリックシンドローム、肥満症） 脂質異常症、高尿酸血症、痛風、ビタミン欠乏症 糖尿病		大和　一美 （20点）
14 15	口腔疾患１(う歯、歯周病） 口腔疾患２(舌がん、咽頭がん）		中山　孝子 （10点）
	単位認定試験		

使用するテキスト･参考文献

系統看護学講座 消化器、　内分泌・代謝、　歯・口腔　医学書院

評価方法

単位認定試験

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長	
				◎	○			

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.24 科目名	疾病回復過程III	単位数	時間数	配当時期	担当者	氷室真仁　鈴木陽子 綿谷秀弥　谷田泰男
		1	30	2年(前)		

科目のねらい

各系統に特徴的でかつ一般的な異常や疾患・障害について、症状と病態生理・診断・治療・回復過程を関連づけて学び、対象の置かれた状態の理解を深め身体的アセスメントができる基礎的知識を修得する。

学習目標

1．消化器・栄養代謝系・口腔疾患の病態生理・診断・治療について、系統的に学ぶことができる

2．対象の置かれた状態から、身体的アセスメントに必要な知識が理解できる

回	学習内容	方法	備考
1	総論	講義	氷室　真仁
	造血機能疾患(貧血、白血球減少症)		
2	出血性疾患(TTP、ITP、DIC)	講義	
3	腫瘍１(白血病)	講義	
4	腫瘍２(悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)	講義	
5	総論	講義	鈴木　陽子
6	自己免疫疾患１(全身性エリテマトーデス)		
7	自己免疫疾患２(関節リウマチ、シェーグレン症候群)		
8	敗血症、ヒト免疫不全ウイルス感染症(HIV)		
9	総論、アレルギー疾患(アレルギー性鼻炎)、中耳炎	講義	綿谷　秀弥
10	慢性副鼻腔炎、扁桃炎	講義	
11	聴覚障害(難聴、メニエール病)	講義	
12	喉頭がん、上顎洞がん	講義	
13	総論、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎	講義	谷田　泰男
14	熱傷、褥瘡	講義	
15	皮膚がん、悪性黒色腫	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト･参考文献

系統看護学講座　　血液・造血器

アレルギー　膠原病　感染症

耳鼻咽喉、皮膚　　医学書院

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長	
				◎	○			

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.25 科目名	疾病回復過程Ⅳ	単位数	時間数	配当時期	担当者	佐藤吉道　鹿毛淳史 面髙俊介　成川孝一 佐々木祐肇　小林茂樹
		1	30	2年(前)		

科目のねらい

各系統に特徴的でかつ一般的な異常や疾患・障害について、症状と病態生理・診断・治療・回復過程を関連づけて学び、対象の置かれた状態の理解を深め身体的アセスメントができる基礎的知識を修得する。

学習目標

1．脳神経、骨筋疾患、眼科疾患の病態生理・診断・治療について、系統的に学ぶことができる

2．対象のおかれた状態から、身体的アセスメントに必要な知識が理解できる

回	学習内容	方法	備考
1	脳血管障害１(脳内出血、クモ膜下出血)	講義	佐藤吉道
2	脳血管障害２(脳梗塞、もやもや病)	講義	鹿毛淳史
3	頭蓋内圧亢進、脳腫瘍	講義	面髙俊介　(20点)
4	脳疾患(水頭症、脳脊髄液減少症)、脱髄疾患(多発性硬化症)	講義	成川　孝一
5	変性疾患(パーキンソン病、筋委縮性側索硬化症)	講義	(20点)
6	末梢神経系(ギランバレー症候群、圧迫性神経障害)	講義	
7	顔面神経麻痺、筋ジストロフィー、重症筋無力症、髄膜炎等	講義	
8	骨粗しょう症、骨肉腫・関節疾患の診断と治療の概要	講義	佐々木　祐肇
9	骨折(小児含む)、脱臼、捻挫	講義	(40点)
10	骨粗しょう症、骨肉腫、変形性関節症、関節炎	講義	
11	椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、脊髄損傷	講義	
12	先天性疾患、圧迫性神経障害、ロコモティブシンドローム	講義	
13	ドライアイ、角結膜炎、ぶどう膜炎	講義	小林　茂樹
14	白内障、水晶体疾患、緑内障	講義	(20点)
15	網膜剥離、糖尿病性網膜症、加齢黄斑変性	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト

系統看護学講座　　脳・神経、運動器、眼

参考文献

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
				◎	○		

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.26 科目名	疾病回復過程Ⅴ	単位数	時間数	配当時期	担当者	星　宣次　倉片三千代 高木　まゆ
		1	30	2年(前)		

科目のねらい

各系統に特徴的でかつ一般的な異常や疾患・障害について、症状と病態生理・診断・治療・回復過程を関連づけて学び、対象の置かれた状態の理解を深め身体的アセスメントができる基礎的知識を修得する。

学習目標

1．排泄機能・生殖機能疾患の病態生理・診断・治療について、系統的に学ぶことができる

2．対象のおかれた状態から、身体的アセスメントに必要な知識が理解できる

回	学習内容	方法	備考
1	腎疾患１(腎炎、慢性腎臓病)	講義	星　宣次
2	腎疾患２(腎盂腎炎、膀胱炎、腎・尿管結石)	講義	(50点)
3	腫瘍(腎がん、尿管がん、膀胱カ朝子	講義	
4	排尿障害(過活動膀胱、腹圧性尿失禁、夜尿症)	講義	
5	腎不全	講義	
6	男性生殖器疾患(前立腺炎、前立腺肥大)	講義	
7	男性生殖器疾患(前立腺がん、精巣がん、陰茎がん)	講義	
8	女性生殖器疾患１(子宮筋腫、子宮内膜症)	講義	倉片　三千代
9	女性生殖器疾患２(卵巣のう腫)	講義	(30点)
10	女性生殖器疾患３(子宮がん、卵巣がん)	講義	
11	生殖機能障害(月経異常、更年期障害)	講義	
12	不妊症、性感染症	講義	
13	乳腺疾患１(乳腺炎、乳腺症)	講義	高木　まゆ
14	乳腺疾患２(乳がん)	講義	(20点)
15	男性化乳房	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト

系統看護学講座　　腎・泌尿器、女性生殖器

参考文献

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
				◎	○		

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.27 科目名	疾病回復過程VI	単位数	時間数	配当時期	担当者	工藤菜紗　本堂徹郎 奈良隆寛　村田祐二 呉繁夫
		1	30	2年(前)		

科目のねらい

各系統に特徴的でかつ一般的な異常や疾患・障害について、症状と病態生理・診断・治療・回復過程を関連づけて学び、対象の置かれた状態の理解を深め身体的アセスメントができる基礎的知識を修得する。

学習目標

1．精神障害、小児疾患の病態生理・診断・治療について、系統的に学ぶことができる

2．対象のおかれた状態から、身体的アセスメントに必要な知識が理解できる

回	学習内容	方法	備考
1	精神症状と精神疾患	講義	工藤　菜紗
2	精神障害の診断と分類	講義	(40点)
3	精神障害の診断と分類	講義	
4	精神障害の診断と分類	講義	
5	精神障害の診断と分類	講義	
6	精神科における検査・治療	講義	本堂　徹郎
7	精神科における検査・治療	講義	(10点)
8	小児の発達と障害１(神経・精神、免疫、内分泌・成長)	講義	奈良　隆寛(10点)
9	小児の発達と障害２	講義	村田　祐二(25点)
	(呼吸・循環、消化器、腎・泌尿器、健診・予防接種)	講義	
10	小児疾患の診断・治療１(診断・トリアージ、診察技術、検査)	講義	呉　繁夫(15点)
11	小児疾患の診断・治療２(薬物療法、手術、麻酔)	講義	村田　祐二
12	小児疾患１(染色体異常、新生児の疾患、代謝・内分泌疾患)	講義	呉　繁夫
13	小児疾患２(脳神経、運動器、精神心理社会的問題、事故外傷)	講義	村田　祐二
14	小児疾患３(アレルギー、免疫、感染症、呼吸器・循環器疾患)	講義	村田　祐二
15	小児疾患４(腎泌尿器、消化管、血液、腫瘍疾患)	講義	呉　繁夫
	単位認定試験		

使用するテキスト

ナーシンググラフィカ　精神障害と看護の実践

医学書院　系統看護学講座　小児看護学各論

医学書院系統看護学講座　臨床外科看護総論

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
				◎	○		

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.28 科目名	薬理学	単位数	時間数	配当時期	担当者	西川　陽介 紫桃裕造他
		1	30	1年(後)		

科目のねらい

薬理学の基礎知識を学び、各薬物の特徴や作用機序（作用・副作用・体内動態）、人体への影響および薬物の管理について理解し、臨床現場での適切な薬物療法への支援につなげる力を養う。

学習目標

1．薬物療法の基礎的知識を理解できる
2．疾病治療薬として用いられる薬物の作用機序を理解できる
3．薬物が人体に与える影響及び生活に与える影響について理解できる
4．薬物の取り扱い、管理方法について理解できる

回	学習内容	方法	備　考
1	薬理学総論①　薬物療法の基礎知識、薬理作用、作用機序	講義	西川　陽介
2	薬理学総論②　薬物動態、人体への影響、有益性と有害性	講義	
3	薬理学総論③　薬と法律、管理について	講義	
4	末梢神経作用薬	講義	紫桃　裕造　他
5	呼吸器・消化器・生殖器作用薬	講義	
6	循環器系作用薬	講義	
7	代謝系作用薬・皮膚科用薬・眼科用薬	講義	
8	抗がん薬	講義	
9	救急時使用薬、輸液剤・血液製剤	講義	
10	中枢神経作用薬、漢方薬	講義	
11	抗感染症薬、消毒薬	講義	
12	抗アレルギー薬・抗炎症薬	講義	
13	免疫治療薬	講義	
14	臨床薬理①　処方箋、与薬法、内服指導	演習	
15	臨床薬理②　計算演習(濃度と量、投与時間）、薬にまつわる医療事故	演習	
	単位認定試験		

使用するテキスト・参考文献

系統看護学講座　専門基礎分野　薬理学　　医学書院

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長	
				◎	○	○		

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.29 科目名	治療論Ⅰ	単位数	時間数	配当時期	担当者	赤澤　直也 新田　能郎 (　　)
		1	15	2年(前)		

科目のねらい

疾患の症状と病態生理・診断・治療を理解した上で、外科的治療方法について学習する。

学習目標

1．手術療法を受ける対象の経過について、系統的に学ぶことができる

2．対象の身体的アセスメントに必要な知識が理解できる

回	学習内容	方法	備考
1	手術侵襲と生体反応、創傷治癒過程	講義	赤澤　直也
2	麻酔法(全身・局所)	講義	
3	術前・術中・術後の全身管理	講義	
4	外科的基本手技(切開・縫合・抜糸・止血等) 低侵襲手術(腹腔鏡下・胸腔鏡下)	講義	新田　能郎
5	開胸術 肺切除術、冠状動脈バイパス術、弁置換術の特徴 (小児手術も含む)	講義	
6	開腹術 胃切除術、低位前方切除術、肝切除術の特徴	講義	赤澤　直也
7	開頭術 脳腫瘍摘出術、脳室ドレナージ術の特徴	講義	
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)		新田　能郎

使用するテキスト

医学書院別巻　　臨床外科看護総論、臨床外科各論

参考文献

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
				◎	○		

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.30 科目名	治療論 II	単位数	時間数	配当時期	担当者	大塚　和令 日向野　修一
		1	15	2年(前)		

科目のねらい

看護職に必要な抗ガン剤、放射線の基礎を学び、その治療が及ぼす健康影響・リスクを理解する。
また放射線利用の際の被爆、抗がん剤使用の際の暴露に対する防護対策を理解する。

学習目標

1．抗がん剤、放射線の基礎知識が理解できる
2．抗がん剤治療、放射線診療の意義が役割が理解できる
3．抗がん剤治療、放射線診療に伴う有害事象が理解できる

回	学習内容	方法	備考
1	化学療法とは（化学療法の特徴、原理、種類、目的）	講義	大塚　和令
2	化学療法とは（抗がん剤の種類、主な副作用、抗がん剤暴露からの防護など）	講義	(40点)
3	化学療法の実際		
4	放射線とは(放射線の種類、放射線の性質) 放射線診断(Ⅰ) 一般放射線診断・造影検査、CT、血管撮影とIVR(画像下治療)	講義 講義	日向野　修一 (60点)
5	放射線診断(Ⅱ) MRI、超音波検査、核医学(一般核医学診断、ポジトロンCT検査、内照射療法)	 講義	
6	放射線被ばくと防護(放射線の単位、放射線障害、放射線防護) 放射線治療(Ⅰ) がんの統計、放射線治療の特報、目的、治療の原理、種類	講義	
7	放射線治療(Ⅱ) 照射法の種類と特徴(外部照射、高精度照射、小線源照射) 放射線治療の実際(治療の準備、治療計画) 放射線治療における看護	講義	
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)	課題・試験	

使用するテキスト

系統看護学講座　臨床看護総論　医学書院
系統看護学講座　臨床放射線医学　医学書院

参考文献

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
				◎	○		

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.31 科目名	臨床検査法	単位数	時間数	配当時期	担当者	菅原　新吾 三木　俊
		1	15	1年(後)		

科目のねらい

検査内容と疾患、臓器の繋がりを学び、臨床検査の役割、目的、方法等の基礎を理解する。

学習目標　　1．検査内容と疾患、臓器の繋がりが理解できる

2．臨床検査の役割、種類、目的と検査結果の評価を理解できる

回	学習内容	方法	備　考
1	臨床検査の基礎 1) 臨床検査とその役割 2) 臨床検査の流れと看護師の役割	講義	菅原　新吾
2	検体検査1　1) 血液学的検査	講義	
3	検体検査2　2) 一般検査（尿・便・体腔液など）	講義	
4	検体検査3　3)化学検査、免疫・血清学的検査、内分泌学検査	講義	
5	検体検査4　4) 微生物学的検査、病理学的検査、POCT	講義	
6	生体検査1　生理機能検査 ECGモニター、１２誘導心電図、ホルター心電図、呼吸機能、神経機能検査、その他	講義	三木　俊
7	生体検査2　画像検査 超音波、サーモグラフィー、その他	講義	
8	臨床検査データの読み方、まとめ(45分)・単位認定試験(45分)	試験(2名)	菅原　新吾

使用するテキスト･参考文献

系統看護学講座　臨床検査　別巻　医学書院

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
				◎	○		

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.32 科目名	公衆衛生学	単位数	時間数	配当時期	担当者	中谷　直樹 (　　)
		1	30	2年(後)		

科目のねらい　様々な生活の場における衛生状況を統計等から理解し、健康課題とその改善に係る様々な制度や施策等を理解する

学習目標
1．公衆衛生活動の概要を理解できる
2．生活における衛生状況とその課題を理解できる
3．公衆衛生の向上を図るための制度・施策を理解できる

回	学習内容	方法	備考
1	公衆衛生学序論	講義	中谷　直樹
2	保健統計		
3	疫学		
4	スクリーニング（感度・特異度）		
5	疾病予防と健康管理		
6	感染症の予防		
7	循環器疾患の予防		
8	がんの予防		
9	健康行動と公衆衛生		
10	心理社会的要因と疾病予防		
11	公衆衛生活動の実際		変更の予定あり
12	公衆衛生看護とは		
13	成人保健、高齢者の保健と福祉、母子保健活動 精神保健活動、障害者保健活動等	演習、GW	
14	災害と公衆衛生、個別化予防・個別化医療	講義	
15	単位認定試験・解説	試験・講義	

使用するテキスト
シンプル衛生公衆衛生学　　南江堂
メディックメディア　公衆衛生がみえる
国民衛生の動向　厚生労働統計協会

参考文献

評価方法
単位認定試験

学生へのメッセージ
各領域の概論の内容を復習し、授業に臨むこと

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
						○	○

シラバス　専門基礎分野　令和８年度

科目No.33 科目名	社会福祉論	単位数	時間数	配当時期	担当者	石附　敬
		1	30	2年(前)		

科目のねらい	我が国の国民の人権を守るための公的な仕組みである社会保障制度と、援護を必要とする人々に支援する社会福祉制度の仕組みを知る。さらにあらゆる場で生活する人々の健康を支援していくための基礎知識とする。
学習目標	1．現在の社会保障制度と社会福祉制度の発展を歴史から理解できる 2．様ざまな保障制度を理解できる 3．援護を必要とする人々への福祉制度を理解できる

回	学習内容	方法	備考
1	社会保障制度と社会福祉-1	講義	
2	社会保障制度と社会福祉-2	講義	
3	社会福祉の歴史	講義	
4	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向-1	講義	
5	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向-2	講義	
6	医療保障①	講義	
7	医療保障②	講義	
8	所得保障①	講義	
9	所得保障②	講義	
10	公的扶助①	講義	介護保険について
11	公的扶助②	講義	
12	社会福祉の分野とサービス-1	講義	
13	社会福祉の分野とサービス-2	講義	
14	社会福祉実践と医療・看護①	講義	実践場面から考える内容
15	社会福祉実践と医療・看護②	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト	評価方法
系統看護学講座　専門基礎分野　社会保障・社会福祉　医学書院 参考文献	単位認定試験

学生へのメッセージ

地域・在宅看護論、老年看護論等の知識と関連付けて学習を進めてください。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
						◎	

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.34 科目名	現代医療論	単位数	時間数	配当時期	担当者	菊地　徹
		1	15	1年(後)		

科目のねらい

医療従事者の一員として、医療の概要を学び、社会における医療の在り方を考える

学習目標　　1．時代背景をもとに医療が発展してきた経緯が概観できる
2．現在の社会の健康問題と医療供給体制が理解できる
3．これからの社会に求められる医療や課題が理解できる

回	学習内容	方法	備　考
1	医学の変遷	講義	
2	健康観と医療、　疾病構造の変化と医療	講義	
3	現在の医療供給体制（外来、入院、訪問診療 チーム医療）	講義	
4	現代医療の諸問題 ・医療と倫理	講義	
5	・予防医学、再生医療、臓器移植、ゲノム医学 リカバリー（リハビリ）医学	講義	
6	・終末期医療 人々のニーズの多様化とこれからの医療	講義	
7	政策と医療（地域包括ケアシステム 診療報酬と医療、ＩＣＴ技術と医療）	講義	
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)	講義	

使用するテキスト･参考文献

系統看護学講座　医療概論　医学書院

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	◎				○	○

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.35 科目名	地域医療論	単位数	時間数	配当時期	担当者	（　　） 清治邦章　　石井幹子 松田美由紀 看護師実務経験あり
		1	15	1年(後)		

科目のねらい

宮城県および仙台市の健康に関する現状や支援のしくみなどに関心をもち、
本校の特色を理解し、地域へ貢献する看護師としての役割意識を高めていく。

学習目標　　1．仙台市医師会の使命と活動を知る
2．宮城県や仙台市の健康に関する現状と支援についての概要が理解できる
3．宮城県や仙台市の健康に関する情報を収集し、自分なりの考えを持つことができる

回	学習内容	方法	備　考
1	仙台市医師会の歴史と理念、組織、事業	講義	
	(保健・医療事業、その他) 看護学生への期待		(20点)
2	宮城県の医療計画と医療圏	講義	
	一次～三次医療、地域支援病院		
3	宮城県の健康に関する統計データからみた特徴	講義	
	健康、病気、施設、医療、人材の現状		(10点)
	災害時の医療、災害支援病院		
4	地域包括ケアシステムにおける医療の役割	講義	清治邦章元理事
	仙台市の取り組み、訪問診療、看取り		(10点)
5	日本における看護師の役割、		石井幹子看護協会元会長
	宮城県の特徴と課題	講義	(20点)
6	宮城県看護協会における活動の実際等		
7	宮城県の健康問題と対策、グループワーク		松田　美由紀
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)筆記		(40点)

使用するテキスト　　なし

参考文献

学生のための医療概論　(医学書院)

評価方法

出席・課題点　40点
単位認定試験　60点

学生へのメッセージ　　宮城県のホームページなどで、最新の保健医療福祉に関する統計データを時々チェックしていきましょう。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
						○	○

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.36 科目名	関係法規	単位数	時間数	配当時期	担当者	佐藤晃子
		1	15	3年（前）		

科目のねらい	専門職業人として、活躍する場である我が国の保健医療福祉分野に関する各種の制度や関係法令を理解し、看護職の役割を学ぶ。
学習目標	1．看護サービスの担い手である看護職者の役割を法制度から理解する 2．看護サービス提供に関する制度を理解する 3．医療福祉に関連する様々な制度を理解する

回	学習内容	方法	備考
1	看護職員に関する法について 保健師助産師看護師法 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義	佐藤　晃子
2	医療(看護) サービス提供に関する法について	講義・演習	
3	〃 医療法	講義・演習	
4	〃 医療保険	講義・演習	
5	保健医療福祉制度の中での看護職の役割	講義・演習	
6	〃 健康増進関係	講義・演習	
7	労働関連法について	講義・演習	
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)		

使用するテキスト	系統看護学講座　専門基礎　看護関係法令　医学書院
参考文献	看護六法　　新日本法規
評価方法	単位認定試験

学生へのメッセージ

基礎分野、専門基礎分野さらに専門分野の各領域で学んだ対象者の特徴やその取り巻く社会状況等を念頭に入れて、授業に参加する。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長	
		◎				○		

シラバス　　専門基礎分野　　令和８年度

科目No.37 科目名	多職種連携	単位数	時間数	配当時期	担当者	松田　美由紀 看護師実務経験あり
		1	15	1年（後）		

科目のねらい

他職種の役割や専門性を理解し、多職種連携のなかでの看護師の役割を理解するとともに質の高い医療を提供するためのチーム医療において責任を果たすための基礎能力を身につける

学習目標

1．多職種連携の必要性と意義を理解できる

2．他職種の役割を理解できる

3．様々な場における多職種連携の在り方を理解できる

回	学習内容	方法	備　考
1	チーム医療の歴史と多職種連携の意義	講義	
2	チーム医療にかかわる職種の役割と育成課程	講義　個人ワーク	レポート提出
3	多職種への理解	講義	
4	病院内の多職種連携（医療チーム）	講義	
5	病院内の多職種連携（医療チーム）	グループワーク	
6	病院内の多職種連携（医療チーム）	発表　まとめ	
7	地域における連携 ・病院⇒地域　　・学校 ・災害時におけるチーム医療	講義	
	多職種連携の学び	個人ワーク	レポート提出
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)		

使用するテキスト

参考文献

「チーム医療」とは何か　　日本看護協会出版会

実践　多職種連携教育　中外医学社

評価方法

グループワーク　　20点

個人ワーク（レポート）30点

単位認定試験　　50点

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
		◎		○	○	◎	

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.38 科目名	看護学概論Ⅰ	単位数	時間数	配当時期	担当者	松田　美由紀 看護師実務経験あり
		1	30	1年（前）		

科目のねらい　看護とは何か、看護は誰を対象とし、何を目的にどのように活動することなのかなど、看護の本質について学ぶ。また、看護の専門職として備えるべき倫理観と、社会が求めている看護活動を明らかにし、看護への関心や興味をもつことができる。

学習目標
1．看護とは何か、看護の本質、看護の定義について理解できる
2．看護の対象となる人間を生活者として理解できる
3．健康の概念を理解し、国民の健康状態の概要が理解できる
4．わが国の保健医療福祉システムにおける看護師の役割が理解できる
5．看護職に必要な倫理観が理解できる

回	学習内容(と成果)	方法	備考
1	看護とは何か　看護の本質、看護の定義	講義	「看護者の基本的責務」
2	看護の役割と機能（ケア、質の保証、役割・機能の拡大、看護過程）	講義	（臨床判断にふれる）
3	看護の対象理解①　こころとからだの理解	講義	
4	〃　②　成長発達する人間	講義	
5	〃　③　生活者としての対象理解	講義	
6	健康とは何か　健康のとらえ方	講義	
7	国民の健康状態、国民のライフサイクル	講義	
8	看護倫理と看護師の責務、看護者の倫理綱領	講義	「看護者の基本的責務」
9	看護倫理　事例を通して考える倫理的判断	ＧＷ	
10	看護倫理　グループ発表と意見交換	ＧＷ発表	クラス毎で発表
11	職業としての看護	講義	
12	看護提供のしくみ①看護サービス提供の場と継続看護	講義	
13	〃　②看護制度と政策、看護管理	講義	
14	広がる看護の活動領域　①国際看護	講義	
15	〃　②災害看護	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト
系統看護学講座　専門分野　「看護学概論」 医学書院
看護者の基本的責務　日本看護協会

参考文献

評価方法
出席・課題点　30点
単位認定試験　70点

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	◎	○			○	○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.39 科目名	看護学概論 II	単位数	時間数	配当時期	担当者	杉山敏子
		1	30	1年（後）		

科目のねらい　職業としての看護の発展過程を理解する。また、さまざまな視点でとらえた看護理論家の理論を学び、自己の目指す看護師像を明らかにするとともに、看護の探究心を育む。

学習目標
1．看護の歴史的変遷が理解できる
2．代表的な看護理論を学習し、看護の本質について考えることができる
3．自己の考える「看護」についてまとめることができる

回	学習内容	方法	備考
1	看護の歴史（欧米の看護）	講義	
2	看護の歴史（日本の看護）	講義	
3	「近代看護の祖」ナイチンゲールの看護	講義・個人ワーク	「看護覚え書」
4	〃	個人ワーク・共有	入学事前課題をもとにさらに読み込み、自己の考えを深める
5	看護を国際的に定義したヘンダーソンの看護	講義	「看護の基本となるもの」 ニード項目ごとにじっくり考えを深める
6	〃	講義	
7	〃		
8〜13	看護理論から看護を考える セルフケア理論（オレム） 適応モデル（ロイ） 人間関係と看護（ペプロウ、トラベルビー） ケアリングと看護（ベナー、ワトソン）	講義 個人ワーク ワールドカフェ	「現代看護の探求者たち」 自分が読み解きたい理論家を選び、学びを深める
14	レポート課題提示、作成	ワーク	
15	レポート提出　、単位認定試験	ワーク・試験	

使用するテキスト　系統看護学　専門分野「看護学概論」
F．ナイチンゲール「看護覚え書」日本看護協会出版会
V．ヘンダーソン　「看護の基本となるもの」
現代看護の探求者たち　　日本看護協会出版社
「編者　城ヶ端初子　実践に生かす看護理論　サイオ出版」

参考文献

評価方法

出席	1時間欠課で-1点	20点
課題	レポート	30点
単位認定試験		50点

学生へのメッセージ
講義開始までに「看護覚え書」（ナイチンゲール）を一読し、入学事前課題「感じたこと」を準備しておきましょう

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	○	○				○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.40 科目名	看護展開の基礎Ⅰ	単位数	時間数	配当時期	担当者	宇野由佳 看護師実務経験あり
		1	30	1年（後）		

科目のねらい　ヘルスアセスメントの目的・意義を理解し対象の健康状態を身体的・心理的・社会的側面から総合的にアセスメントするための知識、基本技術を学ぶ。対象の身体的側面を査定するためのフィジカルアセスメントを重点的に学修し技術を習得することを目指す。

学習目標

1．ヘルスアセスメントの目的・意義が理解できる。
2．安全で確実なアセスメント技術を習得できる。
3．科学的根拠に基づいた問題解決技法を理解する
4．対象者の身体情報をもとに、健康レベルや正常・異常の判断ができる。
5．ヘルスアセスメントを通じて、個別性を踏まえた看護援助を考えることができる。
6．ヘルスアセスメントを行う上で、人権尊重を念頭に置いた倫理的配慮、礼節、態度を身につけることができる

回	学習内容	方法	備考
1	ヘルスアセスメントとは	講義	新田　学(3回)
	健康歴とセルフケア能力のアセスメント・問診		千葉悠太(2回)
2	フィジカルイグザミネーション	講義	関川智文(2回)
	視診・聴診・打診・意識・計測		太田雄介(２回)
3	バイタルサインの観察とアセスメント①	講義	
4	バイタルサインの観察とアセスメント②	講義	
5	バイタルサインの測定	演習	実習室・ユニフォーム着用
6	バイタルサインの測定	演習	
7	呼吸器系のフィジカルアセスメント	講義	
8	循環器系のフィジカルアセスメント	講義	
9	乳房・腋窩・腹部のフィジカルアセスメント	講義	宇野
10	呼吸器・循環器・消化器のフィジカルアセスメント	演習	実習室・ユニフォーム着用
11	呼吸器・循環器・消化器のフィジカルアセスメント	演習	
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント	講義	宇野
13	神経系のフィジカルアセスメント	講義	
14	頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメント	講義	
15	心理・社会状態のアセスメント	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト
系統看護学講座　基礎看護技術Ⅰ（医学書院）

参考文献　看護がみえる　フィジカルアセスメント

評価方法　単位認定試験　100点

学生へのメッセージ
1．解剖生理学・病理学・形態機能学の知識も活用して学習しましょう
2．事前学習・事後学習が必要です。主体的に取り組みヘルスアセスメントを習得しましょう

教育目標に対	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	○	○	◎	◎		◎

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.41 科目名	看護展開の基礎Ⅱ	単位数	時間数	配当時期	担当者	看護師実務経験あり 松田美由紀 鈴木留美子
		1	30	2年（前）		

科目のねらい

看護実践に必要な看護過程の基盤となる考え方や構成要素、展開方法について学ぶ。

学習目標

看護過程の各段階を理解し、事例に対して展開できる。

回	学習内容	方法	備考
1	ガイダンス	講義	松田
	看護過程とは、看護過程の基盤		
2	看護過程の基盤	講義	
3	看護過程の各段階	講義	
4	ヘンダーソンの理論の活用	講義	
5	事例展開　病態・生理考える	講義、ワーク	鈴木留
6	〃　情報収集	講義、ワーク	
7	〃　情報収集、分類・整理	講義、ワーク	
	看護の方向性を考える		
8	〃　情報収集、分類・整理	講義、ワーク	
	看護の方向性を導き必要な情報を考える		
9	〃　情報収集、分類・整理、分析・解釈①	講義、ワーク	
10	〃　〃　②	講義、ワーク	
11	〃　〃　③	講義、ワーク	
12	〃　問題点の抽出	講義、ワーク	
13	〃　問題点の抽出、看護計画の立案	講義、ワーク	基礎実習前
14	〃　看護計画の立案、実施・評価について	講義、ワーク	基礎実習Ⅱの事例を踏まえ考える
15	看護過程のまとめ	講義、ワーク	
	単位認定試験(レポート提出)		

使用するテキスト

医学書院　基礎看護技術Ⅰ

ヌーベルヒロカワ　ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト

評価方法　平常点　40点

レポート　60点

参考文献

照林社：実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	○	○	◎	○	○	○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.42 科目名	基礎看護技術Ⅰ	単位数 1	時間数 30	配当時期 1年（前）	担当者	看護師実務経験あり 宍戸夕美 佐藤由美子他

科目のねらい　「看護技術とは何か」を理解したうえで、コミュニケーションや安全の確保、感染予防、対象への指導技術など、あらゆる看護技術の要素となる基本技術について学ぶ。

学習目標
1．人間を対象とする看護技術の概念を理解できる
2．看護におけるコミュニケーションの重要性が理解できる
3．ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾌﾟﾘｺｰｼｮﾝの基本概念を理解し、感染予防の基本技術を習得することができる
4．事故防止における看護の責任と、生じやすい事故に対する防止策を理解できる
5．環境調整の意義を理解し、快適な療養環境を整える基本技術を習得することができる
6．対象に指導を行う意義と留意点を理解できる
7．人間としての尊厳及び権利を尊重する倫理的配慮、礼節、態度を身につけることができる

回	学習内容	方法	備考
1	看護技術と特徴、実践の要素、看護技術の根底をなすもの	講義	宍戸　夕美
2	看護とコミュニケーション	講義　演習	
3	環境調整技術　環境調整の意義と看護師の役割　療養環境のアセスメント　①	講義	
4	感染と予防の基礎知識　ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾌﾟﾘｺｰｼｮﾝ 感染予防技術（手洗い、個人防護具など）	講義（外部講師）	佐藤由美子　他
5	感染予防　感染経路別予防策　針刺し防止策	講義	
6	**感染予防の技術演習　衛生的手洗い　PPE**	演習	
7	**感染予防の技術演習　衛生的手洗い　PPE**	演習	
8	演習振り返り	講義	宍戸　夕美
9	**感染予防の技術演習　滅菌手袋　無菌操作**	演習	
10	**無菌操作　振り返り・まとめ**	演習	
11	安全確保の基礎知識　医療場面での事故と防止策	講義	宍戸　夕美
12	環境調整技術　環境調整の意義と看護師の役割　療養環境のアセスメント　②	講義	
13	**ベッドメーキングとリネン交換　①** **ベッドメーキング、シーツ交換**	演習	宍戸夕美 他
14	**ベッドメーキングとリネン交換　②** **ベッドメーキング、シーツ交換**	演習	
15	生活指導	講義	宍戸　夕美

使用するテキスト
系統看護学講座　専門分野　「基礎看護技術」Ⅰ　医学書院
看護技術がみえる　基礎看護技術　メディックメディア

参考文献
患者教育のポイントアセスメントから評価まで　武山通智子　訳　医学書院　看護のための教育学　医学書院

評価方法
単位認定試験　80点
平常点　20点

学生へのメッセージ
演習時間は疑問点やポイントの確認などを行い、演習前後に自主練習に取り組みましょう。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	○	○	○	◎		○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.43 科目名	基礎看護技術Ⅱ	単位数	時間数	配当時期	担当者	看護師実務経験あり 鈴木久美子　宇野由佳 富樫美嘉　吉田知世
		1	30	1年（前）		

科目のねらい

人間にとっての「活動」「清潔」「衣生活」の意義を理解し、その援助が科学的根拠に基づいて安全・安楽に実施できるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ

学習目標

1．活動の意義と援助に必要な基本的知識を理解し、援助の基本的技術を習得することができる

2．清潔の意義と援助に必要な基本的知識を理解し、援助の基本技術を習得することができる

3．衣生活の意義と援助に必要な基本的知識を理解し、援助の基本技術を習得することができる

4．対象に配慮した誠実な態度で援助ができる

回	学習内容	方法	備考
1	基本的活動の援助　姿勢　基本肢位・体位	講義	鈴木久美子
2	ボディメカニクス　移動（体位変換）、体位保持	講義	
3.4	**ポジショニング　体位変換　体位保持** ボディメカニクスを活用する	演習	
5,6	**車椅子、ストレッチャーでの移乗・移送、**	講義　演習	
7	清潔の援助の基礎知識　援助の実際①（入浴・シャワー浴）	講義	宇野由佳・富樫美嘉
8	援助の実際②（全身清拭　陰部洗浄）	講義	
9	援助の実際③（洗髪　手浴　足浴　整容）	講義	
10	衣生活援助の基礎知識と援助の実際	講義	
11,12	臥床患者の寝衣交換、全身清拭	演習	
13,14	臥床患者の洗髪	演習	
15	口腔ケア	講義（外部講師）	吉田　知世

使用するテキスト

系統看護学講座　専門分野　「基礎看護技術」Ⅰ　医学書院

「基礎看護技術」Ⅱ　医学書院

参考文献　看護がみえる1　メディックメディア

評価方法

単位認定試験　80点

平常点　20点

学生へのメッセージ

タオルなど指示された物を各自用意する必要があります

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	○	○	○	◎		○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.44 科目名	基礎看護技術III	単位数	時間数	配当時期	担当者	看護師実務経験あり 田村・渡辺 安藤共和　他
		1	30	1年（前）		

科目のねらい

人間にとっての「食事」「排泄」「休息・睡眠」「安楽」の意義を理解し、それらの援助が科学的根拠に基づいて安全・安楽に実施できるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ

学習目標

1．食事の意義と援助に必要な基本的知識を理解し、援助の技術を習得することができる
2．排泄の意義と援助に必要な基本的知識を理解し、援助の技術を習得することができる
3．休息・睡眠、安楽の意義と援助に必要な基本的知識を理解する
4．対象に配慮した誠実な態度で援助ができる

回	学習内容	方法	備考
1	食事の意義と看護師の役割　基礎知識　ｱｾｽﾒﾝﾄ	講義	田村　康太郎
2	食事摂取の介助　　嚥下訓練　栄養評価	講義	↓
3	非経口的栄養摂取　経管栄養、経静脈栄養	講義	↓
4.5	**食事介助**	**演習**	↓
6	排泄の意義と看護師の役割　基礎知識　ｱｾｽﾒﾝﾄ	講義	渡辺　有希
7	排泄の介助（床上、ポータブル、トイレ、オムツ）	講義	↓
8・9	**排泄の介助（便器挿入・おむつ交換）**	**演習**	↓
			↓
10	自然排泄困難時の援助（導尿、ｶﾃｰﾃﾙ留置と管理）	講義	安藤　共和
11	自然排泄困難時の援助（浣腸、摘便）	講義	
12	ストマケア	講義（外部講師）	
13・14	**導尿（一時的・持続的）**	**演習**	渡辺　有希
15	休息、睡眠、安楽、鞏法	講義	↓
	単位認定試験		

使用するテキスト

系統別看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　　医学書院

参考文献

看護技術がみえる　基礎看護技術　メデイックメディア

評価方法

単位認定試験　　80　点
平常点　　20点

学生へのメッセージ　　形態機能学の復習をしておきましょう。
技術演習では、タオルなど指示された物を各自用意する必要があります。
患者体験によって実感したことを互いに意見交換することで学びを深めましょう。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	○	○	○	◎		○

シラバス　　専門分野　令和8年度

看護師実務経験あり

科目No.45 科目名	基礎看護技術Ⅳ	単位数	時間数	配当時期	担当者	佐藤朝子　永倉有紀 他
		1	30	1年（後）		

科目のねらい	診療の補助技術の「与薬」や「症状・生体管理」における看護師の役割を理解し、科学的根拠に基づく安全で確実な基礎的技術について学ぶ
学習目標	1.与薬における看護師の役割と援助に必要な基礎的知識を理解する。 2.生体検査・検体検査の基礎知識と看護の役割を理解する。 3.検査・注射の目的と根拠を理解する。 4.静脈内注射と静脈血採血の安全・正確な看護技術が習得できる。 5.身体侵襲に配慮し、対象者に合わせた援助を考えることができる。 6.人間としての尊厳及び権利を尊重する倫理的配慮、礼節、態度を身につけることができる

回	学習内容	方法	備考
1	与薬の基礎知識と看護師の役割 経口与薬・口腔内与薬	講義	永倉有紀
2	吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬・注射 注射器の取り扱い(無菌操作) アンプルカット、薬液の吸い上げ	講義	
3	注射の実施方法 皮下注射・筋肉注射・皮内注射・静脈内注射	講義	
4	**注射の準備　　アンプルの吸い上げ**	演習	
5	**静脈内注射（ワンショット　アンプル使用）**		
6	注射の基礎知識　　点滴静脈内注射　滴下調整　　輸血管理		佐藤朝子
7	注射の基礎知識　　輸液ポンプ　ｼﾘﾝｼﾞﾎﾟﾝﾌﾟ	講義（各教室・実習室）	
8	症状・生体機能管理技術（血液検査・尿・便検査　喀痰検査　血糖検査など）		
9	診察・検査・処置における介助①	講義	
10	検査・処置における介助②		
11	静脈血採血	講義	永倉有紀
12.13	**採血（翼状針とホルダ使用）**	演習	
14.15	**基礎看護技術Ⅳまとめ（滴下調整、輸液ポンプ作動等）**	講義	佐藤朝子
	単位認定試験(2名)		

使用するテキスト 医学書院　基礎看護技術Ⅱ 参考文献 メディックメディア　看護技術がみえる1、2	評価方法 ・平常点　20点 ・単位認定試験　80点

事前学習・チェックリスト・動画を確認し、イメージトレーニングしたうえで演習に臨みましょう。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	○	○	○	◎		○

シラバス　　専門分野　令和8年度

看護師実務経験あり

科目No.46 科目名	基礎看護技術Ⅴ	単位数	時間数	配当時期	担当者	宇野由佳 高屋敷大樹
		1	30	1年（後）		

科目のねらい

診療の補助技術である「呼吸・循環管理」や「創傷処置」「救急救命処置」における看護師の役割を理解し、科学的根拠に基づく安全で確実な基礎的技術について学ぶ。

また、死にゆく人への看取りの看護について学ぶ。

学習目標

1．呼吸・循環管理に必要な基礎知識と技術を理解できる

2．創傷管理に必要な基礎知識と技術を理解できる

3．救命処置が必要となる状態を理解し、一次救命処置の実施ができる

4．死を迎える人と家族の心理を理解し、看取りの看護に必要な知識を身につける

回	学習内容	方法	備考
1	気道管理の基礎知識　気道管理の援助の実際①	講義	宇野　由佳
2	気道管理の援助の実際②	講義	
3	口腔・鼻腔・気管内吸引	講義	
4	酸素療法の基礎知識と援助の実際	講義	
5	酸素ボンベの取り扱い　残量計算	講義	
6	人工呼吸療法 ①	講義	
7	人工呼吸療法 ②	講義	
8	体温管理技術　循環促進ケア	講義	
9	創傷管理の基礎知識　創傷処置	講義	宇野　由佳
10	包帯法	講義　演習	
11	褥瘡予防	講義	
12	救命救急処置技術（救急看護の基礎）	講義	高屋敷大樹
13	BLS、AEDの実際	演習	
14	死を迎える人と周囲の人々へのケア	講義	宇野　由佳
15	臨死期のケア　死後の処置	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト

系統別看護学講座　基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③　医学書院

参考文献

根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術　医学書院

評価方法

単位認定試験　100点

宇野先生　80点

高屋敷先生 20点

学生へのメッセージ

救急から看取りまで多岐にわたっています。混乱しないよう自己学習をしっかり行いましょう。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	○	○	◎	○	○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.47 科目名	臨床看護概論Ⅰ	単位数	時間数	配当時期	担当者	看護師実務経験あり 宍戸夕美 佐藤　香
		1	30	1年（後）		

科目のねらい

臨床の場での医療や看護を踏まえ、対象理解や経過・症状別看護から科学的根拠に基づく安全な看護を実践するための基礎知識を学ぶ。

臨床判断能力を育むための導入として知識と「気づく」ことの必要性を学ぶ。

学習目標

1．臨床看護の特徴と対象である患者と家族の理解ができる。

2．疾病の経過、および主要症状のある患者の看護が理解できる。

3．既習の知識が臨床判断の「気づく」ために必要であることを説明できる。

回	学習内容	方法	備考
1	臨床看護の特徴、求められる臨床判断能力とは 患者と家族の健康上のニーズ 経過別看護 急性期における看護を事例から考える	講義	宍戸　夕美
2	経過別①急性期における看護	講義	
3	経過別②回復期/慢性期における看護（リハビリ含む）	講義	
4	慢性期に必要な生活指導①	GW	
5	慢性期に必要な生活指導②	GW	
6	経過別③終末期における看護	講義	
7	症状別看護:①**呼吸**に関連する症状の看護	講義	佐藤　香
8	症状別看護②**循環**に関連する症状の看護	講義	
9	症状別看護③**栄養代謝**に関連する症状の看護	講義	
10	症状別看護④**排泄、活動・休息,認知・知覚**に関連する症状の看護	講義	
11	症状⑤コーピング、安全に関連する症状の看護	講義	
12	症状⑥安楽に関連する症状の看護	講義	
13	臨床判断とは	講義演習	宍戸　夕美
14	臨床判断・演習	演習	
15	臨床判断・演習	演習GW	
	単位認定試験		

使用するテキスト

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護総論　基礎看護学④　医学書院

参考文献

基礎看護学④　臨床看護学総論　2020改訂　メヂカルフレンド社

臨床判断ティーチングメソッド　医学書院

評価方法

単位認定試験等

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	○	○	◎		○	○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.48 科目名	臨床看護概論 II	単位数	時間数	配当時期	担当者	及川侑美.菅原美和.熊谷直美 佐藤理恵.千葉悠佳.中條薫. 小山内佑
		1	30	2年（前）		

科目のねらい

治療・処置別看護を理解し、科学的根拠に基づく安全な看護を実践するための基礎知識を学ぶ。

また、医療機器使用時の原理と安全な使用法について学ぶ。

学習目標　　1．治療・処置を受ける患者の看護が理解できる。

2．医療機器使用時の原理と安全に使用するための方法を理解する。

回	学習内容	方法	備考
1	治療・処置を受けている患者の看護 輸液療法	講義	及川侑美
2～3	化学療法	講義	菅原美和
4～5	放射線療法	講義	熊谷直美
6	輸血療法	講義	佐藤理恵
7～9	手術療法 手術前の看護 手術中の看護 手術後の看護	講義	千葉悠佳
10～11	創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護	講義	中條　薫
12～15	身体侵襲を伴う検査・治療 集中治療を受ける対象への看護 集中治療の特徴と看護 ＭＥ機器の原理と実際、安全な使用と看護	講義	小山内佑
	単位認定試験		

使用するテキスト

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護概論　基礎看護学④　医学書院

5回目輸血では　系統看護学講座　基礎看護学③　医学書院

10回目創傷処置　臨床看護総論　　化学療法：がん看護学　参照

参考文献

評価方法

単位認定試験

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	○	○	◎	◎	○	○

シラバス　　専門分野　　令和８年度

科目No.49 科目名	看護研究	単位数	時間数	配当時期	担当者	高田昭 佐藤朝子他 看護師実務経験あり
		1	30	3年（前）		

科目のねらい

看護実践における研究の意義、目的、方法ついての基礎を学ぶ。

学習目標

看護実践における研究の意義、目的、方法を理解できる。

回	学習内容	方法	備考
1	研究と実践活動とは　1.看護研究とは	講義	高田昭
2	研究の種類と特徴　1.研究デザインはなぜ必要か	講義	
3	データの収集	講義	
4	データの分析	講義	
5	事例研究の重要性　1.看護実践と研究	講義	
6	事例研究の進め方　1.課題を見つけテーマを絞り込む	講義	
7	事例研究の実際　1.私の行った事例研究	講義、ワーク	
8	看護研究のクリティーク　1.クリティークとは何か	講義、ワーク	
9	研究における倫理　　＊研究計画書は、ケーススタディで行う	講義	
10	ケーススタディ発表会とは。運営について	講義	佐藤朝子
11	研究計画書の作成	講義、ワーク	
12	発表会準備	ワーク	
13	発表会準備	ワーク	
14.15	ケーススタディ発表会		

使用するテキスト

医学書院　看護研究

参考文献

照林社　わかりやすいケーススタディの進め方

メジカルフレンド社　看護学生のためのケーススタディ

評価方法

課題提出　　50点
（1～9回）
発表会レポート　50点
（10~15回）

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	○	◎	○	○	◎

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.50 科目名	地域・在宅看護概論	単位数	時間数	配当時期	担当者	岩崎麻衣
		1	30	1年（前）		

科目のねらい　超高齢化社会が進む日本の現状を知り、なぜ今地域包括ケアシステムの中で生活者は生活しているのを理解する。また、健康寿命を延ばすための介護予防の視点や、多死に向かう日本の文化や地域の 終末期の在り方など地域・在宅看護の基礎的能力を養う。

学習目標
1.超高齢化に至る日本の現状と地域・在宅看護の必要性が理解できる。
2.地域における生活者を理解し、予防的視点の看護の必要性が理解できる。
3.多死の時代に向かう中で、地域における終末期の在り方について考える事ができる。

回	学習内容	方法	備考
1	地域・在宅看護のとらえ方	講義	
2	人々の暮らしと地域・在宅看護 ・暮らしを理解し、看護師の役割を考えよう	講義・課題	
3	暮らしの基盤としての地域の理解	講義	
4	地域包括ケアシステムと地域共生社会	講義	
5	地域・在宅看護の対象①地域・ライフステージなど	講義	
6	地域・在宅看護の対象②家族の理解	講義・GW	
7	地域・在宅看護の対象　事例を通して家族 ・看護の対象として家族を理解しよう	講義・GW・課題	
8	地域・在宅看護の対象③地域に暮らす対象者の理解	講義	
9	地域における暮らしを支える看護	講義	
10	予防的視点①フレイル	講義・GW	
11	予防的視点②	講義・GW・発表	
12	地域での暮らしにおけるリスク　暮らしと災害	講義	
13	死のとらえ方　ＡＣＰ	講義	
14	地域・在宅看護実践の場①	講義	
15	地域・在宅看護実践の場②	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト
系統看護学講座　地域・在宅看護の基盤　地域在宅看護論１
系統看護学講座　地域・在宅看護の実践　地域在宅看護論２

評価方法
課題提出　20点
単位認定試験　80点

学生へのメッセージ　地域とは、在宅看護とは何かを考えていきましょう

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	○	○	○	○	◎	○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.51 科目名	地域・在宅看護論Ⅰ	単位数	時間数	配当時期	担当者	渡辺　有希 看護師実務経験あり
		1	15	1年（前）		

科目のねらい　日本の社会情勢から、2025年問題はもちろん、2040年問題から2060年問題までも視野に地域の課題を理解すると共に、学校を「住まい」とした場合の地域包括ケアシステムの構成要素全体を講義と演習から具体的に理解する。

学習目標
1.地域包括ケアシステムの構成要素とその内容を理解できる
2.自分の「住まい」を中心とした地域包括ケアシステムの構成要素を理解できる
3.学校を「住まい」とした場合の地域包括ケアシステムが理解できる

回	学習内容	方法	備考
1	地域包括ケアシステム　住まい　住まい方 住み慣れた地域で自分らしい暮らしとは	講義	
2	地域包括ケアシステムの構成要素から考える 地域包括支援センター	講義	
3	自分の住む地域の地域包括ケアシステム ・自分の住んでいる地域の特性を考える	講義・GW 個人ワーク課題提出	
4	八乙女地区の地域を理解する 八乙女地区の構成要素	講義・GW	
5	八乙女地区の地域包括ケアシステムを理解する①	GW	
6	八乙女地区の地域包括ケアシステムを理解する②	GW	
7	八乙女地区の地域包括ケアシステムを理解する③ グループ発表	GW	
8	まとめ(45分)、単位認定試験(45分)	課題提出・試験	

使用するテキスト
系統看護学講座　地域・在宅看護の基盤　地域在宅看護論1
系統看護学講座　地域・在宅看護の実践　地域在宅看護論2

参考文献　地域包括ケアサクセスガイド

評価方法
課題提出　20点
単位認定試験　80点

学生へのメッセージ
・自分が住む地域の高齢化率と地域の特徴を調べる
・地域包括ケアシステムの構成要素を理解した上で学びましょう

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	○	○	○	○	◎	○

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.52 科目名	地域・在宅看護論Ⅱ	単位数	時間数	配当時期	担当者	立花重典 斎藤聖子 看護師実務経験あり
		1	30	1年（後）		

科目のねらい　地域・在宅看護論で行われている看護活動について理解する能力を養う。
特に在宅看護の核となる訪問看護及び、施設看護の実際を学ぶ事で、在宅看護を理解する能力を養う。

学習目標
1.訪問看護の必要性と役割について理解できる
2.訪問看護制度や訪問看護師としてのマナーなど特性が理解できる
3.様々な施設で行われている対象と看護が理解できる

回	学習内容	方法	備考
1	訪問看護とは	講義	立花　重典
2	地域・在宅看護にかかわる制度と活用①	講義	
3	地域・在宅看護にかかわる制度と活用②	講義	
4	地域・在宅看護にかかわる制度と活用③	講義	
5	地域・在宅看護における権利保障①	講義	
6	地域・在宅看護における権利保障②	講義	
7	在宅看護の実際　①訪問看護ステーション	講義	斎藤　聖子
8	在宅看護の実際　②訪問看護場面	講義	
9	在宅看護の実際　③マナー	講義	
10	ロールプレイ①　説明、初回訪問　マナー	演習	
11	ロールプレイ②　　場面演習	演習	
12	ロールプレイ③　演習の振りかえり	講義	
13	退院調整看護師の役割	講義	立花　重典
14	施設看護の実際　①介護老人保健施設	講義	斎藤　聖子
15	施設看護の実際　②看護小規模多機能型居宅介護	講義	斎藤　聖子
	単位認定試験		

使用するテキスト
系統看護学講座　地域在宅看護の基盤　地域在宅看護論１
系統看護学講座　地域在宅看護の実践　地域在宅看護論２　医学書院

参考文献
訪問看護アドバンス

評価方法
演習出席点　10点
単位認定試験　90点

学生へのメッセージ　地域・在宅看護論の復習をして臨みましょう

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	○	○	○	◎	◎	○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.53 科目名	地域・在宅看護論III	単位数	時間数	配当時期	担当者	看護師実務経験あり 渡辺　有希 清治　邦章　他
		1	15	2年（前）		

科目のねらい	多職種連携について他職種の講義から理解し、地域・在宅看護における多職種連携と訪問看護師の役割を考える能力を養う。
学習目標	1.地域では、様々な職種がチームとなって生活者と家族を支えている事が理解できる。 2.様々な職種と訪問看護師との連携について理解できる。

回	学習内容	方法	備考
1	地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働、訪問看護における連携・協働	講義	渡辺　有希
2	地域包括支援センターとの連携・協働の実際	講義	大久保　宗太郎（仮）
3	医師との連携・協働の実際	講義	清治　邦章
4	社会福祉協議会の活動の実際、連携・協働	講義	仙台市社会福祉協議会職員
5	地域で暮らす認知症高齢者を支える活動の実際、連携・協働	講義　・　GW	川井　丈弘 三上　友美
6	地域共生社会を実現するために	講義　課題提出	渡辺　有希
7	地域共生社会における多職種での連携・協働について考える	講義　・　GW	渡辺　有希
8	まとめ(45分)、単位認定試験(45分)		

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座

地域・在宅看護の基盤　1　　地域・在宅看護の実践　2

参考文献

学生へのメッセージ　　様々な職種を理解しましょう

評価方法

課題提出　10点

単位認定試験　90点

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	○	○	◎	○	◎	○

シラバス　　専門分野　令和8年度

看護師実務経験あり

科目No.54 科目名	地域・在宅看護論Ⅳ	単位数	時間数	配当時期	担当者	渡辺有希 石井仁奈 成松明子
		1	30	2年（前）		

科目のねらい	訪問看護の対象は年齢や疾患の制限がない事を理解し、様々な状態にある対象をアセスメントし、必要な看護を考える能力を養う。また、看護過程を通し、対象をアセスメントしその人らしい看護を考える能力を養う。
学習目標	1.地域で様々な疾患や障害を持ちながらどのような看護を受けて在宅療養をしているか理解できる。 2.看護過程を通して、対象をヘルスアセスメントする事によりその人らしい看護を考えることができる。

回	学習内容	方法	備考
1	地域・在宅看護の展開 地域・在宅看護における看護過程	講義	渡辺有希
2	地域・在宅看護における看護過程 ヘルスアセスメント	講義	
3	紙上事例による看護過程の展開①	講義	
4	紙上事例による看護過程の展開②	講義	
5	紙上事例による看護過程の展開③	講義	
6	紙上事例による看護過程の展開④	講義	
7	紙上事例による看護過程の展開⑤	講義	
8	紙上事例による看護過程の展開⑥	講義	
9	紙上事例による看護過程の展開⑦	講義	
10	地域・在宅看護における時期別の看護①	講義	
11	地域・在宅看護における時期別の看護②	講義	
12	地域・在宅看護の事例展開 医療的ケア児の事例展開	講義	
13	がん終末期の療養者の事例展開　疼痛管理	講義	成松　明子
14	筋萎縮性側索硬化症（ALS)の療養者の看護展開事例	講義	
15	認知症の療養者の看護展開事例	講義	石井　仁奈
	単位認定試験		

使用するテキスト	評価方法
系統看護学講座　地域・在宅看護の基盤　地域在宅看護論1 系統看護学講座　地域・在宅看護の実践　地域在宅看護論２	課題提出　60点 単位認定試験　40点
参考文献　訪問看護アドバンス	

学生へのメッセージ　看護過程では、解剖生理学の復習が必要です。正常から考えましょう。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	○	○	◎	○	◎	○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.55 科目名	地域・在宅看護論Ⅴ	単位数	時間数	配当時期	担当者（看護師実務経験あり）
		1	30	2年（後）	渡辺有希　川名絵理 斎藤聖子　三浦彩香 成松明子　髙橋純子

科目のねらい	地域で行われている訪問看護の実際から、必要な看護技術とアセスメントを理解する能力を養う。
学習目標	1.地域で行われている訪問看護の特性から看護技術の実際を学ぶ事ができる。 2.講義をふまえて対象をアセスメントし、適切な看護技術を考える事ができる。

回	学習内容	方法	備考
1	暮らしを支える看護技術 暮らしの場での看護の心構え 対話・コミュニケーション 家族を支える看護　安全をまもる看護	講義	渡辺　有希
2	食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術	講義	川名　絵理
3	経管栄養法を受ける療養者の援助 在宅中心静脈栄養（HPN)を受ける療養者の援助	講義	
4	地域における暮らしを支える看護実践 ・療養環境調整　活動・休息とその援助、技術暮らしにおける排泄とその援助 ・排泄アセスメントと援助の実際	講義	斎藤　聖子
5	地域・在宅における清潔・衣生活に関する援助	講義	斎藤　聖子
6	清潔・衣生活に関する援助の実際	講義・DVD視聴	
7	清潔・衣生活に関する援助の実際	演習	
8	呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術	講義	三浦　彩香
9	医療管理レベルの高い療養者の援助 HOT,NPPV,TPPV,	講義	
10	創傷管理に関する地域・在宅看護技術 皮膚トラブル、褥瘡予防、スキンテア予防とケア	講義	成松　明子
11	与薬に関する地域・在宅看護技術	講義	
12	地域・在宅看護マネジメント	講義	髙橋　純子
13	地域・在宅看護マネジメント	講義	
14	地域・在宅看護マネジメント	講義	
15	地域・在宅看護活動の創造と展開 暮らしの保健室	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト

医学書院　地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論1

地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論2

参考文献　訪問看護アドバンス

評価方法

演習出席点　10点

単位認定試験　90点

学生へのメッセージ

訪問看護アドバンスを使い、イメージしながら学習しましょう。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	○	○	◎	◎	○	○

シラバス　専門分野　令和8年度

看護師実務経験あり

科目No.56 科目名	成人看護学概論	単位数	時間数	配当時期	担当者	伊早坂厚子 佐藤尚子
		1	30	1年（後）		

科目のねらい　成人期にある対象の特徴を理解し、成人の多様な健康状態や健康問題について理解する。
また、成人看護の基盤となる考え方や理論を理解し、成人への看護アプローチの基本的考え方を学ぶ

学習目標

1．成人期にある対象の特徴が理解できる。
2．成人の保健・医療・福祉の動向と課題を理解できる。
3．成人看護の基盤となる考え方や看護アプローチの基本が理解できる。

回	学習内容	方法	備考
1	成人と生活　対象の理解　生涯発達の特徴	講義	佐藤　尚子
2	各発達段階の特徴 青年期 壮年期・中年期 向老期	講義	
3	各発達段階の特徴について	講義	
4	対象の生活　働いて生活を営むこと	講義	伊早坂厚子
5	生活と健康 成人を取り巻く環境と生活の状況 ﾗｲﾌｽﾀｲﾙの特徴	講義	
6	成人の健康の状況　生と死の状況　生活習慣病 ストレスと健康	講義	
7	生活と健康をまもりはぐくむシステム	講義	佐藤　尚子
8	成人への看護アプローチの基本　大人の健康行動の捉え方	講義	
9	症状マネジメント	講義	
10	健康問題をもつ大人と看護師の人間関係　チームアプローチ	講義	
11	看護におけるマネジメント/倫理的判断/意思決定支援・家族支援	講義	
12	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護	講義	
13	慢性病とともに生きる人を支える看護	講義	
14	障害がある人の生活とリハビリテーション	講義	
15	まとめ	＊単位認定試験問題作成及び採点	
	単位認定試験		

使用するテキスト
系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　医学書院
公衆衛生がみえる

評価方法
単位認定試験 100点

学生へのメッセージ：主体的な学習が大切です。
必ず事前学習してから講義に臨むこと。わからないことがあれば早期に解決すること。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	◎	◎	◎	○	○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.57 科目名	成人看護学Ⅰ	単位数	時間数	配当時期	担当者	看護師実務経験あり 伊早坂　厚子
		1	30	2年（前）		

科目のねらい　成人期にある対象の健康の維持・増進を促進する看護について理解し、疾病を予防するための看護実践ができる基礎的能力を養う。

学習目標

1. 成人看護に有用な考え方や理論を理解できる。
2. 成人期にある対象の健康維持・増進への支援、ヘルスプロモーションの考え方が理解できる。
3. 成人期にある対象に起こりやすい健康問題を予防するための看護が理解できる。
4. 成人期にある対象の健康の維持・増進、疾病を予防するための健康教育について理解できる。

回	学習内容	方法	備考
1	講義オリエンテーション	講義	
2	健康観と多様性	GW/講義	
3	健康行動に必要な理論	講義/個人ワーク	
4	健康行動に必要な理論	発表	
5	ヘルスプロモーションと看護	講義	
6	健康づくり事業	講義・個人ワーク	
7	健康をおびやかす要因と看護　①	講義	
8	健康をおびやかす要因と看護　②	講義	
9	ストレスと健康生活　①	講義	
10	ストレスと健康生活　②	講義	
11	ストレスと健康生活　看護の実際	発表	
12	成人期にある対象の健康の維持・増進　産業保健①	講義	
13	成人期にある対象の健康の維持・増進　産業保健②	講義・個人ワーク	
14	成人期にある対象の健康の維持・増進	発表	
15	まとめ		
	単位認定試験		

使用するテキスト　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学総論

参考文献

国民衛生がみえる

評価方法

単位認定試験　70点

出席、課題等提出　30点

学生へのメッセージ　初回から出席学習状況を評価します。

GW・発表 があります。授業への積極的な参加を期待します。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	○	◎	◎	○	○	○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.58 科目名	成人看護学II	単位数	時間数	配当時期	担当者	松田翔　北山綾子 郡山由紀　亀井みのり 清水直子
		1	30	2年（前）		

科目のねらい　成人期にある対象の健康状態における健康問題を理解し、問題解決に向けた支援を行うための看護について実践できる基礎的能力を養う。

学習目標

1．成人期にある対象の健康状態に応じた看護について理解できる。

2．急性期にある対象の病態や、治療とその影響について理解できる。

3．急性期にある対象の合併症予防を理解し、回復を支援する看護について理解できる。

4．回復期にある対象の日常生活自立に向けた回復過程を支援する看護について理解できる。

回	学習内容	方法	備考
1	手術を受ける対象の看護（腸・腹膜疾患）	講義	
2	手術を受ける対象の看護（腸・腹膜疾患）	講義	松田翔
3	手術を受ける対象の看護（膵・肝疾患）	講義	
4	手術を受ける対象の看護　（胃・十二指腸疾患）	講義	
5	手術を受ける対象の看護　（肺がん）	講義	北山綾子
6	急性肺疾患　（気胸・肺炎）	講義	
7	脳神経障害のある対象の看護　（脳梗塞・脳腫瘍・くも膜下出血）	講義	郡山由紀
8	脳神経障害のある対象の看護　（脳梗塞・脳腫瘍・くも膜下出血）	講義	
9	脳神経障害のある対象の看護　（脳梗塞・脳腫瘍・くも膜下出血）	講義	
10	虚血性心疾患のある対象の看護（心筋梗塞・狭心症・不整脈）	講義	亀井みのり
11	虚血性心疾患のある対象の看護（心筋梗塞・狭心症・不整脈）	講義	
12	虚血性心疾患のある対象の看護（心筋梗塞・狭心症・不整脈）	講義	
13	循環器系の機能障害を持つ対象の看護（　急性大動脈解離　）	講義	
14	救命救急処置を必要としている対象の看護（呼吸困難・意識障害）	講義	清水直子
15	救命救急処置を必要としている対象の看護（ショック・熱傷・外傷）	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト　系統看護学講座　専門分野II 2,3,5,7,臨床看護4，救急看護学、臨床看護総論

評価方法　・単位認定試験100点

学生へのメッセージ　解剖生理学、疾病論をよく復習して参加してください。授業への積極的な参加を期待します。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	○	○	◎	○	○	○

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.59 科目名	成人看護学III	単位数	時間数	配当時期	担当者	伊藤ひとみ　菊地可純　菊地聖子 佐藤貴子　　窪田知子
		1	30	2年（前）		

科目のねらい	成人期にある対象の健康状態における健康問題を理解し、問題解決に向けた支援を行うための看護について実践できる基礎的能力を養う。
学習目標	1.成人期にある対象の健康状態に応じた看護について理解できる。 2.慢性的な経過をたどる対象の病態や、治療とその影響について理解できる 3.慢性的な経過をたどる対象の健康問題が理解できる。 4.慢性疾患と共存しながら生活している対象を支える看護を理解できる。

回	学習内容	方法	備考
1	慢性疾患と共存しながら生活を支える看護（高血圧・慢性心不全）	講義	伊藤ひとみ
2	慢性疾患と共存しながら生活を支える看護（高血圧・慢性心不全）	講義	
3	慢性疾患と共存しながら生活を支える看護（肝硬変）	講義	菊地可純
4	慢性疾患と共存しながら生活を支える看護（潰瘍性大腸炎）	講義	
5	慢性疾患と共存しながら生活を支える看護（慢性膵炎）	講義	
6	慢性疾患と共存しながら生活を支える看護（糖尿病・脂質異常症）	講義	（　　）
7	慢性疾患と共存しながら生活を支える看護（糖尿病・脂質異常症）	講義	
8	慢性疾患と共存しながら生活を支える看護（糖尿病・脂質異常症）	講義	
9	慢性疾患と共存しながら生活を支える看護（慢性腎不全・人工透析）	講義	菊地聖子
10	慢性疾患と共存しながら生活を支える看護（慢性腎不全・人工透析）	講義	
11	慢性疾患と共存しながら生活を支える看護（白血病・関節リウマチ・SLE）	講義	佐藤貴子
12	慢性疾患と共存しながら生活を支える看護（白血病・関節リウマチ・SLE）	講義	
13	慢性疾患と共存しながら生活を支える看護（白血病・関節リウマチ・SLE）	講義	
14	化学療法を受けながら生活している対象を支える看護　（乳がん）	講義	窪田知子
15	化学療法を受けながら生活している対象を支える看護　（乳がん）	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト	系統看護学講座　専門分野II　3,4,5,6,8,9,11
評価方法	単位認定試験 100点
学生へのメッセージ	解剖生理学、疾病論をよく復習して参加してください。授業への積極的な参加を期待します。

教育目標における学習効果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	○	○	◎	○	○	○

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.60 科目名	成人看護学Ⅳ	単位数	時間数	配当時期	担当者	横山　忍 金田亜希子
		1	30	2年（後）		

科目のねらい	成人期にある対象の健康状態における健康問題を理解し、問題解決に向けた支援を行うための看護について実践できる基礎的能力を養う。
学習目標	1．終末期にある対象の苦痛を理解し、緩和ケアについて理解できる。 2．終末期にある対象がその人らしい人生の最期を支える看護について理解できる 3．終末期におけるチームアプローチの重要性が理解できる。 4．がん患者と家族の看護について理解できる。

回	学習内容	方法	備考
1	緩和ケアの現状	講義	横山　忍
2	緩和ケアにおけるチームアプローチ・コミュニケーション	講義	
3	緩和ケアにおける倫理的課題	講義	
4	全人的ケアの実践　身体的ケア	講義	
5	全人的ケアの実践　心理的ケア	講義	
6	全人的ケアの実践　社会的ケア	講義	
7	全人的ケアの実践　スピリチュアルケア	講義	
8	全人的ケアの実践　スピリチュアルケア	講義	
9	人生の最期のときにある人の療養の場の移行支援	講義	
10	臨死期のケア	講義	
11	家族のケア・医療スタッフのケア	講義	
12	がん医療の現状と看護	講義	金田亜希子
13	がん患者と家族の看護　がん患者の対象と場　家族の看護	講義	
14	がん患者の苦痛のマネジメント	講義	
15	がん患者に対する心理社会的サポート	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト　系統看護学講座 がん看護学、緩和ケア	評価方法 ・単位認定試験　100点

学生へのメッセージ　解剖生理学、疾病論をよく復習して参加してください。授業への積極的な参加を期待します。

教育目標における学習効果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	○	○	◎	○	◎	○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.61 科目名	成人看護学Ⅴ	単位数	時間数	配当時期	担当者	看護師実務経験あり 伊早坂厚子 富樫美嘉他
		1	30	2年（後）		

科目のねらい

成人期にある対象の特徴を理解し、周手術期の紙上事例で必要とする看護を看護過程を通して見つけ出し、さらに術後回復に必要な援助を実践するための看護技術を習得する。

学習目標

1，事例対象の看護過程の展開ができる。

2，術後回復に必要な援助を安全・安楽に実施するための方法が習得できる。

回	学習内容	方法	備考
1	周手術期の患者の理解 1）オリエンテーション 2）紙上事例の概要説明	講義・個人ワーク	
2	看護過程の展開　1)関連図の書き方 2）患者全体像	講義・個人ワーク	
3	看護過程の展開	個人ワーク	
4	看護過程の展開　　目標・計画立案	個人ワーク	
5	看護過程の展開	個人ワーク	
6	周手術期の技術演習 オリエンテーション・GW	個人ワーク	
7	1）術直後の観察	グループワーク	
8・9	周手術期の技術演習　1）術直後の観察	演習	実習室・ユニフォーム着用
10	周手術期の技術演習 オリエンテーション・GW	個人ワーク	
11	1）術後臥位患者の寝衣交換 2）早期離床の援助	グループワーク	
12・13	周手術期の技術演習 1）術後臥位患者の寝衣交換 2）早期離床の援助	演習	実習室・ユニフォーム着用
14	周手術期の技術 1)生活（退院）患者教育	個人ワーク	
15	同上	グループワーク	
	単位認定試験(45分)		

使用するテキスト
- 臨床外科看護総論
- 臨床外科看護各論
- 成人看護学【5】消化器

参考文献
- 照林社　周術期全部ガイド

評価方法
- 出席状況・課題提出
- 演習出席参加状況
　　30点
- 単位認定試験　70点

学生へのメッセージ：主体的な学習が大切です。　初回から出席・学習状況を評価します。

事前学習・自己学習を行い授業に臨むこと。演習には身だしなみを整え主体的に参加すること。

教育目標における学習効果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	○	◎	◎	○	○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.62 科目名	老年看護学概論	単位数	時間数	配当時期	担当者	看護師実務経験あり 森田由紀子
		1	30	1年（後）		

科目のねらい

高齢者の身体的、精神的、社会的特徴や老年期を生きる人、取り巻く環境などを総合的に学び、高齢者を社会的存在の生活者として理解し、老年看護の基本的な考え方を学ぶ。また、高齢者に関する保健・医療・福祉制度や倫理的問題について学ぶ。

学習目標
1．老年看護の対象を理解する
2．高齢者を取り巻く環境、社会情勢、生活を理解する
3．老年期における看護の機能と役割を理解する

回	項目	内容	方法	備考
1	老いるということ、老いを生きるということ	老年看護学を学ぶ入口 「老いる」ということ	講義	
2		老いを生きるということ	講義	
3		高齢者模擬体験	演習/GW	
4		高齢者理解	映像学習	課題レポート
5	超高齢社会と社会保障	超高齢社会の統計的輪郭	講義	
6		高齢社会における保健医療福祉の動向 高齢者の権利擁護①	講義	
7		高齢者の権利擁護②	講義	
8	生活・療養の場における看護	地域における高齢者への看護 災害に伴う高齢者の看護	講義 講義	
9		保健医療福祉施設および居住施設における看護	講義	
10		高齢者を含む家族の看護	講義/動画	
11	老年看護のなりたち	老年看護の発展と定義 老年看護の役割 老年看護における理論・概念の活用	講義	
12	老年看護の基本	高齢者看護における倫理 高齢者とQOL	講義/動画	
13		身体の加齢変化①	GW	
14		身体の加齢変化①	発表	
15	まとめ	授業を通しての学び　他	レポート作成/課題	課題レポート
	単位認定試験			

使用するテキスト

系統看護学講座　専門分野　老年看護学　医学書院　2623

参考文献

系統看護学講座　専門分野　老年看護 病態・疾患論　医学書院　2623

老年看護学①　高齢者の健康と障害　ナーシング・グラフィカ　MCメディカ出版

看護がみれる vol.5 対象の理解 I　メデックメディカ

[評価方法]

レポート課題　２０点

単位認定試験　８０点

提出物/態度/出席状況も評価対象

学生へのメッセージ

高齢者に関心をもつことが老年看護学の学習の始まりです。高齢者の様子を日常生活の中で観察するなど、高齢者の方に興味・関心をもってみてください。

教育目標における学習成果	1 人間理解	2 倫理	3 感性・人間関係	4 臨床判断	5 安全な技術	6 多職種連携	7 自己成長
	◎	◎	◎	○	○	◎	○

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.63 科目名	老年看護学Ⅰ	単位数	時間数	配当時期	担当者	千葉隆史 小林武史
		1	30	2年（前）		

科目のねらい

高齢者に多く見られる疾患を取り上げ、加齢に伴うさまざまな変化に適応する過程で健康障害を有する高齢者を統合的に理解し、個々に応じた看護援助について学ぶ。また、国の課題にもなっている「認知症」について、尊厳や倫理的課題などの老年看護の本質的な課題を考える

学習目標

1．老年期に特有な健康状態を理解できる
2．健康状態に応じた援助方法を理解できる
3．高齢者特有の疾患を有する対象から人の尊厳や倫理的課題を考えることができる

回	学習内容	方法	担当	備考
1	健康逸脱からの回復を促す看護 症状のアセスメントと看護①（発熱、痛み、痒み）	講義	千葉	
2	症状のアセスメントと看護②（脱水、嘔吐、浮腫、倦怠感）	講義	千葉	
3	症状のアセスメントと看護③（褥瘡・スキン-テア）	講義	千葉	
4	身体疾患のある高齢者の看護①（脳卒中、心不全）	講義	千葉	
5	身体疾患のある高齢者の看護②（糖尿病、COPD、パーキンソン病）	講義	千葉	
6	身体疾患のある高齢者の看護③（感染症、肺炎、前立腺肥大症）	講義	千葉	
7	身体疾患のある高齢者の看護④（骨粗鬆症、変形性股関節症、骨折）	講義	千葉	
8	認知機能障害のある高齢者の看護①（うつ・せん妄・認知症）	講義	千葉	
9	認知機能障害のある高齢者の看護②（うつ・せん妄・認知症）	講義	千葉	
10	認知機能障害のある高齢者の看護③（うつ・せん妄・認知症）	講義	千葉	
11	治療を必要とする高齢者の看護①	講義	千葉	
12	治療を必要とする高齢者の看護②	講義	千葉	
13	エンドオブライフケア	講義	千葉	
14	高齢者のリハビリテーション①	講義	小林	
15	高齢者のリハビリテーション①	講義	小林	
	単位認定試験			

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　老年看護学　2522
医学書院　系統看護学講座　老年看護　病態・疾患論　2523

参考文献

学生へのメッセージ

評価方法

単位認定試験　100点

千葉　80点
小林　20点

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	○	◎	◎	◎	○

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.64 科目名	老年看護学Ⅱ	単位数	時間数	配当時期	担当者	看護師実務経験あり 森田由紀子
		1	30	2年（前）		

科目のねらい

老年期にある対象の特徴を理解し、加齢による変化が生活に及ぼす影響を踏まえた上で、高齢者に必要な生活支援を安全に実施する看護援助について学ぶ。高齢者の尊厳と自立の視点をもって生活支援に携わる必要性を理解する。

学習目標

1．老年看護におけるヘルスアセスメントの目的と方法を理解できる
2．高齢者の特性を踏まえた日常生活援助方法を理解できる

回	学習内容		方法	備考
1	高齢者のヘルスアセスメントの基本	ヘルスアセスメントの枠組み 高齢者総合機能評価（CGA）	講義	
2		高齢者のバイタルサインの特徴	講義	
3	高齢者の生活を整える看護	日常生活を支える基本的活動①（基本動作と環境）	講義	
4		日常生活を支える基本的活動②（転倒）	講義	
5		食事・食生活①	講義/動画 課題レポート	課題レポート
6		食事・食生活②	講義	
7		排泄①	講義	
8		排泄②	講義	
9		清潔①	講義	演習課題
10		清潔②	GW/演習	
11		清潔③	演習	
12		生活リズム①	講義	
13		生活リズム②	講義	
14		コミュニケーション①	講義	
15		コミュニケーション② セクシャリティ	講義	
	単位認定試験			

使用するテキスト

系統看護学講座　老年看護学　医学書院　2622

参考文献

根拠と事故防止からみた 老年看護技術　　第４版　医学書院
系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論　医学書院　2623
ナーシング・グラフィカ 老年看護学①　高齢者の健康と障害
ナーシング・グラフィカ 老年看護学②　高齢者看護の実践

評価方法

単位認定試験　　80点
レポート課題　　10点
提出物/態度/出席状況　10点

学生へのメッセージ

老年看護学概論で学んだ高齢者の特徴や、加齢に伴う身体機能の変化について復習しておいてください。また基礎看護技術で学んだ日常生活援助についても復習し、理解したうえで本授業に臨みましょう。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	○	◎	◎	○	○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.65 科目名	老年期の看護過程	単位数	時間数	配当時期	担当者	看護師実務経験あり 森田由紀子 斎藤聖子
		1	15	2年（後）		

科目のねらい

高齢者の理解、看護援助の知識を活用、統合し、事例を基に健康障害を
もつ高齢者の看護過程を科学的・論理的に展開する方法を学ぶ。

学習目標

1．健康障害をもつ高齢者のヘルスアセスメントの視点が理解できる

2．看護過程の展開方法、考え方を理解できる

3．事例対象に対しての看護過程展開できる

回	学習内容	方法	備考
1	高齢者の看護と看護の展開 事例対象の情報の解釈	講義 GW　　個人W	
2	事例対象の情報の解釈	GW	
3	事例対象の情報の解釈	GW　　個人W	
4	事例対象の問題点抽出	GW　　個人/GW	
5	事例対象の問題点統合と優先順位の決定	GW　　個人/GW	
6	事例対象の計画立案	GW　　個人W	
7	事例対象の計画立案	GW　講義	
8	まとめ・課題提出		

使用するテキスト

参考文献

評価方法

課題提出　100点

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	○	◎	◎	○	◎

シラバス　　専門分野　令和8年度

看護師実務経験あり

科目No.66 科目名	小児看護学概論	単位数	時間数	配当時期	担当者	鈴木久美子 松屋睦子
		1	30	1年（後）		

科目のねらい

1．現代の社会状況や子どもが生活する場を捉え、自身の経験を顧みながら、一人の子どもを、身体的、精神的、社会的に統合される過程にある生活者としてイメージすることができる。
2．現代の社会状況や子どもが生活する場を捉え、小児看護のあり方を理解できる。
3．小児各期の特徴を理解し、子どもの権利を尊重した倫理的判断力を養うための必要な基礎知識や考え方を学ぶ。

学習目標

1．現代の社会状況や子どもが生活する場を捉えることができる。
2．小児看護の理念、家族と共に子どもの権利を擁護する小児看護の考え方を習得し、看護の役割を根拠に基づいて説明できる。
3．小児の成長発達課題と経過別看護の視点を理解することができる。

回	学習内容	方法	備考
1	小児看護の特徴と理念　小児看護における倫理	講義	鈴木久美子
2	子どもの成長・発達　1.成長・発達の基礎知識		
3	新生児		
4	乳児		
5	幼児・学童		
6	思春期・青年期		
7	家族の特徴とアセスメント		
8	子どもと家族を取り巻く社会		
9	病気・障害をもつ子どもと家族の看護		
10	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 A　入院中の子どもと家族の看護 B　外来における子どもと家族の看護		
11	C　在宅療養中の子どもと家族の看護 D　災害時の子どもと家族の看護		
12	5－1．急性期における子どもと家族の看護 （手術を受ける子どもと家族の看護・リハビリテーション・活動制限含む）	講義	松屋睦子
13	5－2急性期における子どもと家族の看護 ﾄﾘｱｰｼﾞ・集中治療を受ける子どもと家族の看護を含む	講義	
14	6．慢性期における小児と家族の看護 （成人期に移行する慢性疾患を持つ子どもと家族の看護含む）	講義	
15	7．終末期にある子どもと家族の家族 まとめ	講義・DVD	
	単位認定試験(45分中担当範囲分)		

使用するテキスト

1）「系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児看護学［1］小児看護学概論／小児臨床看護総論」奈良間美保他著、医学書院

参考文献

パーフェクト臨床実習ガイド　小児看護　筒井真優美　第2版　照林社

評価方法

出席	1時間欠課で-1点	10点
課題	レポート	20点
単位認定試験		80点

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	◎	○	○	◎	○	○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.67 科目名	小児看護学Ⅰ （子どもの症状と看護技術）	単位数	時間数	配当時期	担当者	看護師実務経験あり 松屋睦子 鈴木久美子
		1	30	2年（前）		

科目のねらい

1．子どもの特徴的な症状に着目し健康障害を持つ子どもと家族への援助を学ぶ。
2．あらゆる健康状態やその変化に応じて、安全で安楽なケアを提供するために、演習を通して基礎的な能力を身につける。

学習目標

1．小児期特有の症状の特徴を理解することができる。
2．症状の変化を捉えるために必要な基礎知識を理解することができる。
3．根拠に基づいた小児看護技術が実践できる。

回	学習内容	方法	備考
1	子どもの特徴的な症状と看護 1.不きげん・啼泣　2．痛み	講義	松屋睦子
2	3．発熱　　4．発疹	講義	
3	5．嘔吐　　6．下痢　　7．脱水	講義	
4	8．呼吸困難　　9．けいれん	講義	
5	小児医療における医療安全（インシデント感染管理）	講義	鈴木久美子
6	検査・処置を受ける子どもの看護 1.採血　2.採尿・導尿 3.咽頭・鼻腔培養　4.骨髄穿刺・腰椎穿刺　5.抑制	講義／G・W	
7	薬物療法を受ける子どもと家族の看護	講義／G・W	
8	7．吸引　8．酸素療法　9．予防接種	G・W／発表	
9・10	検査・処置技術演習　（採尿、吸入、吸引）	講義　演習	
11	検査・処置技術演習　（与薬、予防接種）	講義　演習	
12	1．食事の援助技術 2．食事の援助技術ー経管栄養 3．清潔・衣生活の援助技術（入浴、清拭、陰洗、更衣）	講義	松屋睦子
13	4．排泄の援助技術（浣腸・肛門刺激） 5．呼吸の援助技術（体位変換、スクイージング） 6．移動の援助技術（抱っこ、おんぶ、ベビーカー、車いす含む）	講義	
14	日常生活援助技術演習（清潔、更衣、おむつ交換）	講義　演習	
15	1．1次救命処置　2．2次救命処置 救急救命処置技術演習(気道確保、胸骨圧迫、人工呼吸、AED)	講義　演習	鈴木久美子 松屋睦子
	単位認定試験		

使用するテキスト

1）「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学［1］小児看護学概論／小児臨床看護総論」奈良間美保他著、医学書院
2）パーフェクト臨床実習ガイド　小児看護　筒井真優美　第2版、照林社.

評価方法

・課題・技術演習　40点
・単位認定試験　60点

参考文献

看護学テキストNICE　小児看護学Ⅰ・Ⅱ　改訂第4版　南江堂

学生へのメッセージ

＊受講する際に、知識の整理を必要とする内容を記載
＊受講上の注意点などを記載

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	◎	○	○	◎		○

シラバス　　専門分野　令和8年度　　看護師実務経験あり

科目No.68	小児看護学II	単位数	時間数	配当時期	担当者	鈴木久美子　山田聡子
科目名	（子どもの疾患と看護）	1	30	2年（後）		（　　）　松屋睦子

科目のねらい

1．あらゆる健康状態やその変化に応じて、健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を考え、病態、症状、診断、治療、経過別の特徴を理解する。

2．看護の実践に必要な基礎的な能力、技術の習得と子どもと家族への支援方法を学ぶ。

学習目標

1．子どもの疾患の特徴と看護が理解できる。

2．子どもと家族に対する看護をアセスメントすることを通して理解することができる。

3．根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断を考えることができる。

回	学習内容	方法	備考
1	【アセスメント技術】 1．健康歴の聴取（コミュニケーション含む） 2．全身状態の把握 （観察、カウプ指数、ローレル指数の算出含む）	講義	鈴木久美子 （10点）
2	3．バイタルサイン　　4．身体計測	講義	
3	子どもの疾患と看護について 1．先天性障害をもつ小児と家族の看護 口唇口蓋裂　　発育性股関節形成不全（股関節脱臼）	講義	山田　聡子 （40点）
4	2．長期療養が必要な子どもと家族の看護 先天性心疾患　　1型糖尿病	講義	
5	3．神経筋疾患をもつ小児と家族の看護 身体障害のある子どもと家族の看護	講義	（　　） （10点）
6	4．発達障害のある子どもの家族と看護	講義　事例	
7	5．児童虐待を受けた子どもと家族の看護	講義　事例	
8	6.感染症　アレルギーをもつ子どもと家族の看護 （感染症　食物アレルギー　　アトピー性皮膚炎）	講義	山田　聡子
9	7．免疫・膠原病・腎疾患のある子どもと家族の看護 （若年性若年性特発性関節炎、ネフローゼ症候群）	講義	
10	8．消化器疾患のある子どもと家族の看護 （鎖肛　食道閉鎖症　腸重積）	講義	
11	9．血液疾患、腫瘍疾患の子どもと家族の看護 （脳腫瘍　、化学療法）	講義	
12	事例展開におけるアセスメント技術演習1： 健康歴の聴取、全身状態の把握、バイタルサイン	講義　演習	鈴木　久美子 松屋　睦子
13	事例展開におけるアセスメント技術演習２： 身体計測、輸液管理	講義　演習	松屋　睦子 鈴木　久美子
14 15	臨地実習で遭遇する子どもの看護 1）RSウイルス（肺炎）患児の看護 2）気管支喘息患児の看護 3）川崎病患児の看護	講義　演習 事例	臨床判断を意識する 鈴木久美子 松屋　睦子 ⑫～⑮　計40点

使用するテキスト

1）「系統看護学講座　専門分野II　小児看護学［1］小児看護学概論／小児臨床看護総論」　奈良間美保他著、医

2）パーフェクト臨床実習ガイド　小児看護　筒井真優美　第２版、照林社.

参考文献

評価方法

・課題・技術演習　40点

・単位認定試験　60点

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	○	◎	◎	○	

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.69 科目名	小児看護学III （プレパレーションと看護過程展開）	単位数	時間数	配当時期	担当者	看護師実務経験あり 鈴木久美子 松屋睦子
		1	15	2年（後）		

科目のねらい

1．子どもの望みを理解し、子どもの権利を尊重した、子どもを中心とした看護を学ぶ。
2．一人の子どもを、身体的、精神的、社会的に統合される過程にある生活者として捉え、子どもの持つ力を理解し、その力を発揮できるよう支援する看護を学ぶ。

学習目標

1．プレパレーションの学びから、子どもが理解できる内容を発達段階に応じた伝え方ができる。
2．健康障害を持つ子どもと家族をアセスメントすることを通して、対象に合わせた看護を考えることができる。
3．地域で生活する子どもと家族の看護を考えることができる。
4．全過程を通して、小児看護学における臨床判断する力は何かを考えることができる

回	学習内容	方法	備考
1	1．プレパレーションについて	講義	鈴木　久美子
2	事例からプレパレーションを考える	個人ワーク	
3~7	2．健康障害をもつ子ども・家族への看護過程の展開 ①健康歴の聴取 ②情報収集した内容からアセスメント ③看護問題抽出 ④看護目標 ⑤計画立案	講義 個人ワーク	鈴木久美子 松屋　睦子
8	まとめ(看護過程に対する総括、学習目標４について)		

使用するテキスト

1）｜系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学［1］小児看護学概論／小児臨床看護総論｜奈良間美保他著，医学書院
2）パーフェクト臨床実習ガイド　小児看護　筒井真優美　第２版、照林社.

参考文献

評価方法

・課題提出　100点
（ルーブリック評価）

学生へのメッセージ

実習で看護展開をしますので、ここでしっかり覚えましょう。

小児看護学Ⅱの講義・グループワーク、演習した内容を思い出してみましょう。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	◎	◎	◎	○	○

シラバス　　専門分野　令和8年度

看護師実務経験あり

科目No.70 科目名	母性看護学概論	単位数	時間数	配当時期	担当者	永倉有紀　佐藤朝子 大浪　聡子
		1	30	1年（後）		

科目のねらい

母性看護の概念や性と生殖の意義を理解したうえで，母性看護の機能および役割について学ぶ。

また母性看護に関する社会的・倫理的問題に触れ、ライフサイクル各期における健康課題や看護のあり方について考える。

学習目標

1．母性に関する理論を理解し、母性とは何かを考える。
2．母子保健の動向を理解するとともに、リプロダクティブヘルス／ライツを基盤とした母性看護の役割を理解する。
3．ライフサイクル各期の対象の特徴と健康課題を理解する。

回	学習内容	方法	備考
1	母性看護とは 母子関係と家族関係	講義	永倉　有紀
2	人間の生と生殖　セクシュアリティ リプロダクティブヘルス／ライツ	講義	永倉　有紀
3	セクシュアルリプロダクティブヘルス/ライツについて	講義	永倉　有紀
4	性の多様性を考える	講義・グループワーク	永倉　有紀
5	母性看護のあり方 母性看護の看護技術	講義	永倉　有紀
6	母性看護における倫理 出生前診断・人工妊娠中絶に関する倫理的課題について	講義	永倉　有紀
7	母性看護を取り巻く社会の変遷と現状 母性看護を取り巻く環境	講義	永倉　有紀
8	母性看護を取り巻く社会の現状 母性看護に関わる法律	講義	永倉　有紀
9	～地域の(母子）保健活動について～	外部講師	永倉　有紀
10	生殖器の形態機能、性分化のしくみ	講義	佐藤　朝子
11	ライフサイクルにおける女性の健康と看護 女性性の発達、母性・父性・親性の発達	講義	佐藤　朝子
12	女性のライフステージ各期における看護 思春期の女性の健康問題と看護、包括的性教育	講義	佐藤　朝子
13	女性のライフステージ各期における看護 性成熟期・更年期・老年期の女性の健康問題と看護	講義	大浪　聡子
14	リプロダクティブヘルスケア 受胎調節法 、性感染症とその予防	講義	大浪　聡子
15	喫煙と女性の健康、D・,性暴力・児童虐待への対応	演習	大浪　聡子
	単位認定試験		

使用するテキスト

系統看護学講座　母性看護学概論母性看護学１　医学書院

参考文献

評価方法

・課題提出　10点
・単位認定試験　90点

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	○	○	○	◎	○

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.71 科目名	母性看護学Ⅰ （正常なマタニティサイクル期の看護）	単位数	時間数	配当時期	担当者	須原　涼子
		1	30	2年（前）		

科目のねらい　マタニティサイクル期にある母子の身体的・心理的・社会的変化と看護について学習し、対象の経過と健康状態についてアセスメントする力を養う。また、対象のセルフケア能力を高め、健康を促すための保健指導や家族の支援について考える力を養う。

学習目標

1．妊娠・分娩・産褥の正常な経過について理解できる

2．妊娠・分娩・産褥期の身体的・心理的・社会的変化を理解し、必要な看護を考えることができる

3．新生児の子宮外生活適応過程と必要な看護が理解できる

4．母と子の関係、役割獲得過程や家族形成への援助が理解できる

回	学習内容	方法	備考
1	妊娠期の看 妊娠の生理	講義	
2	妊娠期の看 母体の生理的変化（身体的・心理的・社会的）	講義	
3	妊娠期の看 妊婦と胎児のアセスメント①	講義	
4	妊娠期の看 妊婦と胎児のアセスメント②	講義	
5	妊娠期の看 妊婦と家族の看護	講義	
6	分娩期の看 分娩の要素と経過	講義	
7	分娩期の看 産婦・胎児、家族のアセスメント	講義	
8	分娩期の看 産婦と家族に対する分娩各期の看護	講義	
9	産褥期の看 産褥の経過	講義	
10	産褥期の看 褥婦のアセスメント	講義	
11	産褥期の看 褥婦と家族の看護①	講義	
12	産褥期の看 褥婦と家族の看護②	講義	
13	新生児の看 新生児の生理	講義	
14	新生児の看 新生児のアセスメント	講義	
15	新生児の看 出生直後の看護/出生後から退院時までの看護	講義	
	単位認定試験		

使用するテキスト

系統看護学講座　母性看護学各論母性看護学②　医学書院

参考文献

評価方法

・単位認定試験　　100　　点

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	○	◎	◎	◎	○	

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.72 科目名	母性看護学Ⅱ（健康回復に向けたマタニティサイクル期の看護）	単位数	時間数	配当時期	担当者	飯島愛海
		1	15	2年（後）		

科目のねらい

マタニティサイクル期にある母子の正常を逸脱した状態と看護について学習し、ハイリスクな状況下にある対象の理解と健康状態についてアセスメントする力を養う。

学習目標

1．妊娠から分娩・産褥までの正常を逸脱した状態と健康回復に向けた看護が理解できる

2．新生児の正常を逸脱した状態と必要な看護が理解できる

回	学習内容	方法	備考
1	妊娠期の正常を逸脱した状態と看護①	講義	
	ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症、妊娠持続期間の異常、不育症、妊娠悪阻、出生前診断		
2	妊娠期の正常を逸脱した状態と看護②	講義	
	妊娠貧血、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、血液型不適応妊娠、多胎妊娠、異所性妊娠		
3	分娩期の正常を逸脱した状態と看護①	講義	
	産道の異常、娩出力の異常、胎児の発育・胎位・回旋の異常、胎児機能不全		
	付属物の異常（前期破水、常位胎盤早期剥離、前期破水）	講義	
4	分娩期の正常を逸脱した状態と看護②		
	帝王切開術（術後含む）、産科出血		
5	産褥期の正常を逸脱した状態と看護①	講義	
	子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、乳房トラブル		
6	産褥期の正常を逸脱した状態と看護②	講義	
	マタニティブルーズ、産後うつ、死産した母親と家族のケア		
7	新生児の正常を逸脱した状態と看護	講義	
	新生児仮死、新生児一過性多呼吸、呼吸窮迫症候群、胎便吸引症候群、低血糖症		
	分娩時外傷、早産児・低出生体重児、出血性疾患、高ビリルビン血症、新生児蘇生		
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)		

使用するテキスト

系統看護学講座　母性看護学各論　母性看護学②　　医学書院

参考文献

評価方法

・単位認定試験　100　点

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	○	○	◎	◎	○	

シラバス　　専門分野　令和8年度

看護師実務経験あり

科目No.73 科目名	母性看護学III	単位数	時間数	配当時期	担当者	永倉有紀 佐藤朝子
		1	30	2年（後）		

科目のねらい

母性看護学概論・母性看護学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を活用し、母性看護におけるウェルネスの視点での看護過程の展開について学び、事例をもとに必要な看護について考える力を養う。また、事例をもとにした看護の実際をシミュレーションの手法で学び、臨床判断をベースにした技術を習得する。

学習目標

・事例のアセスメントをもとに妊婦・産婦・褥婦への必要な看護を考え、シミュレーションの手法で技術を実践する。
・新生児への子宮外生活適応過程を理解し、新生児への看護技術を習得する。
・ウェルネスの視点を持って、事例について母性看護の看護過程を展開できる。

回	学習内容	方法	備考
1	看護過程①　ウェルネス志向の看護過程　アセスメント①	講義	
2	看護過程②　アセスメント②	講義	
3	看護過程③　看護問題をウェルネス志向で明確化	講義	
4	看護過程④　看護計画の立案①	講義	
5	看護過程⑤　看護計画の立案② オリエンテーション	講義	
6	紙上事例提示 妊娠経過のアセスメント	講義　グループワーク	合同
7	妊娠経過のアセスメント 妊婦のマイナートラブルについて	演習	クラス毎　実習室
8	妊婦体験、レオポルド触診法、児心音聴取、NST検査	演習	クラス毎　実習室
9	分娩第一期の看護 CTGモニタリングの判読	講義　グループワーク	合同
10	分娩第一期の看護(シミュレーション) 産痛緩和　補助動作　呼吸法、分娩第４期の看護	演習	クラス毎 実習室
11	産褥経過のアセスメント 母乳栄養確立のための支援	講義　グループワーク	合同
12	褥婦のフィジカルアセスメント	演習	クラス毎 実習室
13	新生児の援助に必要な技術 新生児の観察　沐浴	講義	合同
14 15	新生児の援助に必要な技術 新生児の観察　沐浴	演習	クラス毎 実習室1、2 母性看護実習室
	単位認定試験		

使用するテキスト

系統看護学講座　母性看護学各論　母性看護学②　医学書院
南江堂　根拠がわかる母性看護技術

参考文献

評価方法

・課題提出	20	点
・レポート	20	点
・単位認定試験	60	点

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	○	◎	◎	◎	○	

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.74 科目名	精神看護学概論	単位数	時間数	配当時期	担当者（看護師実務経験あり）
		1	30	1年（後）	田村康太郎　菊池陽子 長谷川敬　高田香苗

科目のねらい　全ての人びとの心の健康保持増進を考える上での基礎的知識を学ぶ
精神看護の基本的な概念、歴史的背景、法・制度を学び精神に障害を抱える人への総合的な理解を深めることができる

学習目標
1．精神看護の基本概念を理解する。
2．精神看護の目的を理解する
3．精神保健・福祉・法律・看護の歴史と現状を知り課題を理解する
4．精神看護の対象、特徴を理解する

回	学習内容	方法	備考
1	精神看護学の考え方 ・障害の捉え方	講義	田村康太郎　40点+課題20点
2	こころの理解	講義	菊池陽子　20点
3	・機能　・心の構造（フロイト）　・ストレス ・リカバリー ・ストレスとは　・適応と不適応	講義	菊池陽子　2章 3章
4	人格の発達	講義	菊池陽子
5	ライフサイクルとメンタルヘルス	講義	田村康太郎
6	発達課題	講義・演習	田村康太郎
7	発達課題	講義・演習	田村康太郎
8	集団と家族	講義	田村康太郎
9	現代社会とこころ	講義	田村康太郎
10	精神医療の歴史	講義	田村康太郎
11	精神保健医療福祉を取り巻く法・制度	講義	田村康太郎
12	精神保健医療福祉を取り巻く法・制度と看護の実際	講義	田村康太郎
13	入院から地域へ	講義	長谷川敬　なし
14	精神医療と倫理	講義	高田香苗　国見台病院
15	ストレスマネジメント　・リエゾン看護	講義	(2病棟)　20点⇒10点
	単位認定試験		

使用するテキスト
ナーシング・グラフィカ　精神看護学①
情緒発達と精神看護の基本
国民衛生の動向

評価方法
課題提出　20点
単位認定試験　80点

学生へのメッセージ
心理学「心とは何か」「ストレス」「防衛機制」について復習しておくこと
国民衛生の動向の「精神保健」に関するところを読んでおく

教育目標における学習効果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	○	◎	○	◎	◎

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.75 科目名	精神看護学Ⅰ （患者・看護師関係を基盤にした看護）	単位数	時間数	配当時期	担当者	看護師実務経験あり 田村康太郎 スピーカーズ・ビューロー 守田順子
		1	30	2年（前）		

科目のねらい

精神看護においては患者・看護師関係が基盤になる。良好な治療的関係を築くために自己理解は欠かせない。基礎科目で学んだコミュニケーション技術やカウンセリングの知識を活用し、精神障害をもつ人とのかかわり方を学ぶとともに、プロセスレコードを用いて自己理解を深め、看護師自身がケアの道具になることの意味を学ぶ。

学習目標

1．精神科における看護の役割を学ぶ
2．精神看護の基盤となる患者-看護師関係について理解できる
3．プロセスレコードを用い、患者との人間関係のアセスメントの方法が理解できる
4．援助関係を築くための技術が理解できる

回	学習内容	方法	備考
1 2	自分を知る・相手を知る	講義	田村康太郎（30点）
3	患者-看護師関係を考える	講義	田村康太郎
4	精神に障害をもつ人たちの体験談を聞き他者との	講義・GW	
5	関係構築を考える	聴講	スピーカーズ・ビュウロー
6	発表会　患者-看護師関係を考える	グループワーク	田村康太郎　課題10点
7	アイスバーグ	講義	田村康太郎
8	①プロセスレコードとは	講義・演習	課題40点
9	②プロセスレコード作成	講義・演習	
10	③プロセスレコードの考察	演習	
11	患者-看護師関係DVD視聴　GW/発表	演習	
12	集団精神療法について 認知行動療法	講義	守田順子　（20点）
13	ソーシャルスキルトレーニング（SST）		守田順子
1415	ソーシャルスキルトレーニング（SST）の実際	講義・演習	守田順子
	単位認定試験(佐藤・田村・守田)		

使用するテキスト

ナーシング・グラフィカ
精神看護学②　精神障害と看護の実践

参考文献

評価方法

・課題提出　50点
・単位認定試験　50点

学生へのメッセージ

基礎科目のコミュニケーションについて復習してくること

教育目標における学習効果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.76 科目名	精神看護学Ⅱ （精神看護の実際）	単位数	時間数	配当時期	担当者	岩田道治　菊池陽子 村上俊　佐藤美奈　鈴木将人 鈴木俊博　鈴木忍
		1	30	2年（後）		

科目のねらい

精神疾患の看護を学び、精神障害者の回復過程に沿った援助を考えることができる。
精神医療が地域へ移行していくなかで、地域で生活するために必要な看護について学ぶ

学習目標

1．精神疾患と治療を踏まえ精神の障害をもつ人・家族への看護が理解できる
2．精神科病棟におけるリスクマネジメントと倫理的配慮について理解できる
3．地域で暮らす精神障害者への看護が理解できる

回	学習内容	方法	備考
1 2	精神疾患を持つ人への看護 神経発達症、統合失調症スペクトラム障害 抑うつ障害と双極性障害、不安障害など	講義	岩田　道治
3	薬物療法に関する援助①	講義	
4	薬物療法に関する援助②	講義	
5 6	セルフケア コミュニケーション	講義	
7	心理検査		菊池　陽子（試験なし）
8	精神科リハビリテーション	講義	村上　俊
9	日本の精神科入院の現状	講義	佐藤　美奈
10	地域で暮らすことの意義 精神障害をもつ人の家族の支援	講義	佐藤　美奈
11	「地域で暮らす」を支える社会資源、マネジメント	講義	鈴木　将人
12	「地域で暮らす」を支える看護	講義	鈴木　将人
13	災害時の看護　依存症への看護	講義	鈴木　忍
14	救急医療における患者支援 クライシスを抱えた患者への支援 急性薬物中毒、自傷行為	講義	鈴木　俊博
15	精神科におけるリスクマネジメント 包括的暴力行為防止プログラム 拘束を受ける患者の看護	講義・演習	佐藤　美奈
	単位認定試験		

使用するテキスト

ナーシング・グラフィカ　精神看護学①
ナーシング・グラフィカ　精神看護学②

評価方法

・単位認定試験　　100点

学生へのメッセージ

疾病回復過程Ⅵ（精神機能）復習してくること

教育目標における学習効果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	◎	◎	◎	○	○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.77 科目名	精神看護学III （精神看護の展開方法）	単位数	時間数	配当時期	担当者	看護師実務経験あり 田村康太郎　他
		1	15	2年（後）		

科目のねらい

基礎看護で学んだ看護過程を用いて、精神看護における看護過程の展開を学ぶ

学習目標

1．精神障害をもつ人を統合的に理解できる

2．精神障害をもつ対象の看護過程を展開する方法が理解できる

回	学習内容	方法	備考
1	精神科における看護過程とは ・精神看護における対象理解、人格形成	講義・演習	田村康太郎
2	発達課題を踏まえたアセスメント		
3～4	事例演習 情報収集、情報の整理	講義・演習	田村康太郎
5～7	事例演習 情報のアセスメント	講義・演習	田村康太郎
8	事例演習 看護目標	講義・演習	田村康太郎

使用するテキスト

ナーシング・グラフィカ　精神看護学①②

参考文献

評価方法

・課題提出　100点

学生へのメッセージ

看護過程の展開を復習してくること

教育目標における学習効果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	○	◎	◎	○	◎

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.78 科目名	看護管理	単位数	時間数	配当時期	担当者	鈴木郁子
		1	15	3年（前）		

科目のねらい

看護管理の基礎を学ぶことで、組織やチームにおける看護師の役割を理解する。
また看護をマネジメントするための基礎を理解し実践で活用できる能力を身につける。さらに
看護専門職としての自己のキャリア形成について主体的に考えることができる。

学習目標

1．看護管理の目的と機能が理解できる
2．組織の一員として看護師の役割や行動が理解できる
3．看護におけるマネジメントに必要な基礎知識を理解する
4．キャリア形成を主体的に考えることができる

回	学習内容	方法	備考
1	看護管理・マネジメントの概念 ・専門職が提供するサービスの特徴 ・看護におけるマネジメント	講義	
2	看護組織と管理 ・組織とは ・リーダーシップ・メンバーシップ ・組織の中の指示・命令・報告	講義	
3	看護管理の実際 ・人・物・予算・時間・情報の管理 ・人的資源：キャリア管理.新人教育、ラダー制度 ワークライフバランス	講義 レポート	
4	自己管理:ストレス管理、時間管理	講義、演習	
5	多職種との連携と協働を促進するためのﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	講義、演習	
6	看護の質のマネジメント、看護業務基準	講義	
7	職能団体、法律と制度の復習	講義、演習	
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)		

使用するテキスト

医学書院　看護管理

参考文献

南江堂　看護テキストNICE　看護管理学

評価方法

課題提出　10点

単位認定試験　90点

学生へのメッセージ：（授業概要）質の高い組織的な看護を提供するためには看護師同士や多職種との協働および人・物・財的資源をどのように有効利用するのかが重要であり、それを維持するための「しくみ」が看護管理である。よって看護管理は管理者だけでなくケアを提供するすべての看護職者が担う役割であることを理解し、卒業後の自分を想像しながら積極的に学習して欲しい。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
		○	○		○	○	◎

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.79 科目名	医療安全	単位数	時間数	配当時期	担当者	斉藤　みさ江
		1	15	2年（後）		

科目のねらい

医療現場で取り組まれている安全対策や事故発生のメカニズムを学ぶことで医療における安全管理の基本を理解し、危険予知・回避できる判断能力、チームとして行動できる基礎的能力を養う

学習目標

1．医療における安全管理の必要性が理解できる
2．医療安全についての基礎的知識を学び、安全を守るための看護の方法を理解できる

回	学習内容	方法	備考
1	医療安全を学ぶ意義 医療安全の基礎知識：医療事故と看護業務 看護事故の構造	講義	
2	看護事故防止の考え方	講義	
3	看護業務における事故防止 事例：多重課題、ﾀｲﾑﾌﾟﾚｯｼｬｰ、業務途中の中断、様々な場面の患者間違い	講義、演習	
4	医療安全とコミュニケーション ・医療者間のコミュニケーション ・患者とのコミュニケーション	講義、演習	
5	看護師自身の業務上のリスクと事故防止：職業感染.放射線被爆等	講義	
6	組織としての医療安全対策	講義	
7	国内外の医療安全対策	演習	
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)		

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　看護の統合と実践②　医療安全

参考文献

「医療安全ワークブック　第５版」

評価方法

単位認定試験　100点

学生へのメッセージ:

新人看護師としてすぐに求められる医療安全の具体的な知識と系統的に理解することができます
様々な事例を通して主体的に学習しましょう

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
		○	○	○	◎	○	○

シラバス　　専門分野　令和8年度

科目No.80 科目名	災害看護学	単位数	時間数	配当時期	担当者	佐藤郁子　屋代良平他
		1	30	3年（後）		

科目のねらい

東日本大震災の被災地として支援の実際や被災経験者の体験談から災害をより身近なものとして捉えた上で災害及び災害医療の基礎を理解させる。看護が果たす役割を実感させ地域で暮らす人々の生活問題や健康支援のための基礎的能力を育成する。
演習ではトリアージや応急処置などの演習を含め平時と異なる状況に応じた看護を考えさせる。

学習目標

1．災害及び災害医療・災害看護に関する基礎的知識を理解できる
2．災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を学び、災害サイクルや活動の場に応じた看護の役割を理解できる
3．災害や対象の状況に応じた看護を考えることができる

回	学習内容	方法	備考
1	災害時の活動の実際、災害体験をもとに	講義	
2	災害時の活動の実際、災害体験をもとに	GW	レポート提出予定
3	災害とは ・災害の定義　・災害の種類　・災害時の倫理	講義	
4	災害医療に関する法律と政策、支援体制	講義	
5	災害サイクルと看護① ・災害の種類と特徴　・災害サイクル	講義	
6	災害サイクルと看護② ・超急性期　・急性期　・亜急性期	講義	
7	災害サイクルと看護③ ・復旧復興期　・防災・減災マネジメント	講義	
8	災害に応じた看護活動	講義	
9	配慮を必要とする人々へのケア① ・要配慮者の定義　・高齢者　・障害者	講義	
10	配慮を必要とする人々へのケア② ・継続的な治療を必要とする人々	講義	
11	災害時のこころのケア		
12	技術演習（トリアージ、応急処置、搬送）①	演習	
13	技術演習（トリアージ、応急処置、搬送）②	演習	レポート提出予定
14	避難所開設（模擬避難所開設）①	演習	
15	避難所開設（模擬避難所開設）① 単位認定試験	演習	レポート提出予定

使用するテキスト

医学書院　災害看護学

参考文献

評価方法

・課題提出　30点
・出席　10点
・単位認定試験　60点

学生へのメッセージ

災害はいつどこで起こるかわかりません。またその被害も年々大きくなっていますし、今後もっと大きな災害がおこることが予測されています。災害時に被災された方々の健康と生活を守ることが看護には期待されています。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	○	○	○	○	○	

シラバス　　専門分野　　令和８年度

科目No.81 科目名	国際看護学	単位数	時間数	配当時期	担当者	光永憲香　石崎嘉世子 大浪聡子
		1	15	3年（後）		

科目のねらい

世界の健康問題や海外における看護活動について学び、国際的な視野で看護活動を考える基礎を学ぶ

学習目標

1．国際社会における看護の役割を理解する

2．国際協力としての看護の実際を理解する

3．世界の健康課題と保健医療システムを理解する

回	学習内容	方法	備考
1	国際看護とは	講義	光永　憲香
2	看護における文化	講義	
3	世界の健康問題	講義	
4	世界の保健医療システム	講義	
5	国際協力としての看護の実際	講義	石崎　嘉世子
6	在日外国人・在外日本人への医療と看護の実際	講義	
7	外国での看護活動	講義	大浪　聡子
8	まとめ(45分)・単位認定試験(45分)		専任教員

使用するテキスト

医学書院　国際看護学

参考文献

看護学テキスト　Nice 国際看護　　南江堂

評価方法

・単位認定試験　　100点

1～4回60点、5, 6回30点、7回10点

学生へのメッセージ

世界のグローバル化が進み、健康問題や環境問題などは国単位でなく地球全体で考えなければならなくなっている。人々の交流も広がり、医療や看護においても外国人への対応が必要になっている。また、日本人も海外で生活している。様々な文化や経済状況、医療システムを理解し、諸外国、特に発展途上国へ支援することが求められている。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	○	○	○	○	○	○

シラバス　　専門分野　　令和８年度　　看護師実務経験あり

科目No.82 科目名	看護の統合演習	単位数	時間数	配当時期	担当者	鈴木留美子 宍戸夕美 齋藤聖子
		1	30	3年（前）		

科目のねらい

既習の知識・技術を統合し、複数事例の状態にあわせた看護を安全・安楽に実施するための基礎的能力を身につける

学習目標

1．複数患者のアセスメント、看護問題の明確化、具体策の立案ができる
2．複数患者の優先順位を考え、１日のタイムスケジュールをたてることができる
3．チームで看護をするためのリーダーシップ、フォロワーシップを理解できる
4．多重課題発生時の対応について考えることができる
5．実施した看護を各患者および複数への患者両面の視点から評価することができる

回	学習内容	方法	備考
1	1．臨床現場で看護を提供するということ 2．複数の患者を受け持ち、安全に看護をするための要点 3．１日のタイムスケジュールのたてかたと時間管理 4．多重課題への対応		
2	2事例のアセスメント~問題の明確化	演習（個人ワーク）	DVD視聴
3	2事例のアセスメント~問題の明確化		
4	2事例のアセスメント~問題の明確化	演習（全体討議）・講義	
5	2事例の計画立案	演習（個人ワーク）	
6	2事例の計画立案	演習（全体討議）	
7・8	学生チーム間での共有 （アセスメント～計画立案）		
9	タイムスケジュールの作成	演習（個人・チーム）	
10・11	多重課題への対応 ・突発的な事象　・対象の予期しない反応 ・タイムプレッシャー	演習（個人・チーム）	
12・13	多重課題への対応（シミュレーション演習）	演習・講義	
14	評価、修正	演習・GW	
15	まとめ 単位認定試験	演習・講義	レポート提出 （ポートフォリオ）

使用するテキスト

なし

参考文献

評価方法

課題提出　50点

講義･演習態度　50点

学生へのメッセージ

臨床現場に近い形での思考と演習をしていく科目です。現場では複数の患者さんを受け持ち、多重課題も数多く発生します。そのような中で安全に看護を提供していく力が求められられます。看護基礎教育の総まとめとして真摯に取り組みましょう。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・　人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○		○	◎	◎	○	

実習１

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.		配当時期　1年（前）	担当者　看護師実務経験あり
科目名	基礎看護学実習Ⅰ	単位数　1	専任教員
		時間数　30	

科目のねらい	医療が行われている病院と診療所の見学実習を通して、看護の役割および対象と対象を取り巻く環境を知る

学習目標

1．診療所・病院それぞれの対象の特徴がわかる
2．対象をとりまく療養環境がわかる
3．看護師の活動を見学し、対象とどのように関わっているかがわかる
4．看護学生として、責任ある態度で行動できる

学習内容		備考
◎医療施設において看護活動の見学実習を行う		
◎日程	実習オリエンテーション	オリ：2時間
	実習ゼミ	ゼミ：2時間
	臨地実習（月）～（木）のうち	
	病院２日、診療所(午前のみ)２日	
	（月）（火）病院実習　（水）（木）病院実習	病院：16時間
	（月）（火）診療所実習　（水）（木）診療所実習	診療所：8時間
	（金）学内 実習のまとめ	まとめ：2時間
◎場所	仙台オープン病院、東北公済病院、東北医科薬科大学病院 東北医科薬科大学若林病院、ＪＲ仙台病院、JCHO仙台南病院 クリニック・診療所	

学生へのメッセージ	評価方法
白衣を着用しての、見学実習です。 詳細は実習のオリエンテーションやゼミを活用して伝えます。	実習評価表による

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	○	○	△	△	○	○

実習2

シラバス　専門分野　令和8年度

科目No.		配当時期 2年（前）	担当者 看護師実務経験あり
科目名	基礎看護学実習Ⅱ	単位数 1	専任教員
		時間数 45	

科目のねらい

健康障害を持つ対象を身体的・精神的・社会的側面から分析・解釈し、対象に必要な看護について考える基礎的能力を養う

学習目標

1．対象と良好な人間関係を築くことができる

2．看護に必要な情報を収集することができる

3．情報を分析・解釈し、看護で解決すべき問題を導き出すことができる

4．看護上の問題と対象に行われている援助を結び付けて考えることができる

5．看護学生として、責任ある態度で行動できる

学習内容	備考
◎ 日程　実習オリエンテーション	オリ：2時間
実習ゼミ	ゼミ：4時間
臨地実習（火）～（金）4日間	病院：32時間
学内 まとめ	まとめ：7時間

◎ 場所　仙台オープン病院　東北公済病院　東北医科薬科大学病院

仙台市立病院　広南病院　JR仙台病院　JCHO仙台南病院

宮城県立がんセンター　東北医科薬科大学病院若林病院

学生へのメッセージ	評価方法
詳細は実習のオリエンテーションやゼミを活用して伝えます。	実習評価表による

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	◎	○	○	△	○

実習3

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.		配当時期	2年（後）	担当者	看護師実務経験あり
科目名	基礎看護学実習III	単位数	1		専任教員
		時間数	45		

科目のねらい

対象を全人的に捉え、対象が必要としている看護を科学的根拠に基づき導き出し、安全安楽に実践できる基礎的能力を養う

学習目標

1．看護に必要な情報を分析・解釈し、看護上の問題を明確にできる
2．問題解決のために必要な援助を考えることができる
3．対象の個別性を踏まえた援助を、安全・安楽に配慮し実施できる
4．実施した援助を振り返り、評価することができる
5．看護学生として、責任ある態度で行動できる

学習内容	備考
◎日程　実習オリエンテーション	オリ：2時間
実習ゼミ	ゼミ：1時間
病院実習（月）～（金）　5日間	病院：40時間
学内 まとめ（月）	まとめ：2時間

◎場所　仙台オープン病院　東北公済病院　東北医科薬科大学病院
東北医科薬科大学若林病院　ＪＲ仙台病院
JCHO仙台南病院　JCHO仙台病院　宮城県立がんセンター

学生へのメッセージ	評価方法
詳細はゼミを活用して伝えます。	実習評価表による

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	◎	◎	◎	○	○

実習4

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No. 科目名	地域・在宅看護論実習Ⅰ （町内会・通所介護　実習）	配当時期 単位数 時間数	2年（後期） 1 30	専任教員 看護師実務経験あり

科目のねらい

これからの時代は、健康寿命を延ばすために地域住民が住み慣れた地域で自分の健康について考え、介護予防につながる生活を送る事が望まれる。現在、地域で行われている町内会・サロンなどの活動や、通所介護での介護予防を見学することで、地域包括ケアシステムの介護予防における看護師の役割を考え、地域包括ケアシステムの中心となる介護予防の基礎的知識を養う。

学習目標

1．参加している対象との交流を通して、人々の生活の様子や思いを知ることができる。
2．参加している対象の発達課題および健康的側面を、交流や見学を通して知ることができる。
3．参加している対象が活用・利用している社会制度やサポートがわかる。
4．地域に住む人々への看護の役割について考えることができる。

	実習内容	方法	備考
実習前	実習説明・ゼミ	学内	実習説明（1h） 実習ゼミ（1h）
1日目	町内会・サロン活動見学	見学実習 学内	8時間 (9:00-16:00)
2日目	元気ジム活動見学	見学実習	8時間 (9:00-16:00)
3日目	町内会・サロン地区の調べ学習・グループワーク	学内	8時間 (9:10-16:30)
4日目	学内学習・まとめ	学内	4時間 (9:10-12：20)
実習場所	元気ジム　荒井、富沢 泉区内　町内会・サロン ※実習場所により施設や町内会、学内日の日程が異なる。		

使用するテキスト

医学書院　地域・在宅看護論1，2

参考文献　訪問看護アドバンス

評価方法

実習評価表による

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	○	◎	○	○	◎	○

実習5

シラバス	専門分野		令和8年度	
科目No. 科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ （訪問看護実習）	配当時期 単位数 時間数	3年（前期） 1 45	専任教員 看護師実務経験あり

科目のねらい

生活の場である自宅で過ごす対象と家族を看護過程を通して理解し、その人らしい看護を考える能力を養う。
また、対象と家族を支える多職種連携の実際や介護保険を中心としたサービス・社会資源を学ぶ機会とする。

学習目標

1．住み慣れた場で生活する対象やその家族の健康と生活を理解する。
2．受け持ちの対象とその家族を理解し、その人らしさを大切にした看護を考えることができる。
3．対象の生活を支える保健・医療・福祉サービスの実際を知り、地域の社会資源の活用とチームケア、多職種連携を理解する。
4．地域で生活する対象とその家族を支える訪問看護ステーションと訪問看護師の役割がわかる。

	実習内容	方法	備考
実習前	要綱説明 実習ゼミ	学内	1h 2h
1日目	受け持ち対象への同行訪問　援助の見学・参加 情報収集	同行訪問	9:00～16:00(8h) ※実習施設により異なる
2日目	受け持ち以外の療養者への同行訪問、援助の見学・参加 受け持ち対象の情報収集、アセスメント	同行訪問	9:00～16:00(8h) ※実習施設により異なる
3日目	受け持ち以外の療養者への同行訪問、援助の見学・参加 受け持ち対象の情報収集、アセスメント、看護計画立案	同行訪問	9:00～16:00(8h) ※実習施設により異なる
4日目	受け持ち療養者への同行訪問　援助の見学・参加 情報収集、アセスメント、看護計画立案	同行訪問	9:00～16:00(8h) ※実習施設により異なる
5日目	記録まとめ	学内	9:10～14:50 (6h)
6日目	実習カンファレンス・まとめ	学内	9:10～12:20 (4h)
7.8日目	自己学習日	学内	※学内はチャイムに合わせて休憩をとること
実習場所	塩竈市立病院在宅ケア科　とこはな訪問看護ステーション ないとうクリニック訪問看護ステーション　寺岡訪問看護ステーション 千葉クリニック仙台北訪問看護ステーション　泉訪問看護ステーション エムツー訪問看護ステーション青葉　愛子訪問看護ステーション エムツー訪問看護ステーションらるふ名取 ※実習場所により同行訪問の日時、学内日の日程が異なる。		

使用するテキスト　地域・在宅看護論１，２

参考文献　訪問看護アドバンス

評価方法
実習評価表による

学生へのメッセージ　その人らしさを考えた看護について学んでいきましょう

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○

実習6

シラバス	専門分野		令和8年度
科目No. 科目名	地域・在宅看護論実習III （町の保健室実習）	配当時期 3年 単位数 1 時間数 45	専任教員 看護師実務経験あり

科目のねらい

超高齢社会が進む中で、自らの健康を考え、住民が互いに協力し合いながら、住み慣れた地域で暮らせるように活動していくことが望まれる。地域活動への参加や「町の保健室」として健康相談や交流の場を企画することで、学生も地域を構成する一員として地域の健康づくり、地域づくりについて考えることができる

学習目標

1. 地域包括支援センターの役割を学び、地域包括ケアシステムの理解を深めることができる
2. 町内会・サロンで参加者の特性や安全面に配慮し、集団アクティビティを企画・実施することができる
3. 地域住民との関りを通して、地域で暮らす生活の様子から健康への思いを知ることができる
4. 地域住民との関りを通して健康課題を捉え、地域で必要な看護について考えることができる

	実習内容	方法	備考
学内演習	集団アクティビティ・暮らしの保健室について	学内	4時間
要綱説明	要綱説明、記録配布	学内	1時間
1日目	実習オリエンテーション、実習ゼミ	学内	学内3時間+ゼミ2時間 (9:10～14:05)
2日目	地域包括支援センター見学実習	見学実習	7時間(9:00～15:15) ※実習施設により異なる
3日目	地域包括支援センターまとめ 町内会アクティビティ個人企画書作成	学内	4時間 (9:10～12:20)
4日目	自己学習日		
5日目	町内会個人企画書発表 集団アクティビティ企画・リハーサル	学内	8時間 (9:10～16:30)
6日目	町内会にて集団アクティビティ実施 帰校後、アクティビティ振り返り	午前：町内会 午後：学内	8時間 (9:00～16:00)
7日目	町の保健室企画書作成（各自）	学内	4時間（9:10～12:20）
8日目	町の保健室企画書発表、実習の学び	学内	4時間（9:10～12:20）
実習場所	仙台市内　地域包括支援センター ・向陽台地域包括支援センター　・鶴ケ谷地域包括支援センター ・台原地域包括支援センター　・虹の丘・加茂地域包括支援センター ・長命ヶ丘地域包括支援センター　・東仙台地域包括支援センター ・榴岡地域包括支援センター　・松森地域包括支援センター ・燕沢地域包括支援センター　・八乙女地域包括支援センター 泉区内　町内会・サロン　※実習場所により施設や町内会、学内日の日程が異なる。		

使用するテキスト　地域・在宅看護論　1，2

参考文献　訪問看護アドバンス

評価方法
実習評価表による

学生へのメッセージ　地域の一員として地域の方々と共に、健康づくりを考えてみましょう

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	◎	○	◎	○	◎

実習7

シラバス　専門基礎分野　令和8年度

科目No.		配当時期	2年(後)	担当者
科目名	成人看護学実習Ⅰ（健康維持増進）	単位数	1	専任教員 看護師実務経験あり
		時間数	30	

科目のねらい

成人期の特徴を踏まえ、社会で生活する成人期にある対象が抱える健康面の特徴を知り、健康の維持・増進における看護師の役割を学ぶ。

学習目標

1．成人期にある対象の身体的、精神的、社会的側面が理解できる。
2．成人期にある対象の生活の実際や健康状態、健康に関する価値観を知り、健康との関連を考えることできる
3．成人期にある対象の健康の維持増進を支援する看護の役割を理解できる。
4．学生として、責任ある態度で行動できる。

回	学習内容	備考
	※実習ゼミは月曜日から実習のグループもあるため、要綱説明時に全クール一斉に一度に行う	要綱説明・ゼミ：2時間
	1日目：学内　事前学習	学内：6時間
	2日目：臨地実習　利用者の目的、利用内容を直接・間接的な関りから学ぶ	ｾﾝﾀｰ実習：16時間
	3日目：臨地実習　利用者への直接的な関りから学ぶ	
	4日目：学内（グループワーク・発表）	学内：6時間
	実習場所 県医師会健診センター 宮城県結核医学協会健診センター 杜の都産業保健会一番町健診クリニック せんだい総合健診クリニック	

使用するテキスト

参考文献

評価方法

実習評価表による

学生へのメッセージ

人生の大半を占める成人期は様々な人生のイベントを経験し、社会との繋がりを通して成長する時期です。成人の考える健康、健康であることの意味、健康を維持する上での課題を通して自身の健康にも目を向け、幅広く健康と看護について考えることを求めます。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○

実習8

シラバス　専門基礎分野　令和8年度

科目No. 科目名　成人看護学実習Ⅱ （周手術期・急性期）		配当時期　3年 単位数　2 時間数　60	担当者 専任教員 看護師実務経験あり

科目のねらい

生命の危機的状況にある対象の健康状態と治療内容が分かり、回復を促進させるための看護を見出し、実践するための基礎的能力を養う。

学習目標

1.周手術期（急性期）にある対象の全体像身体的・精神的・社会的側面から捉えることができる。
2.対象の疾患の病態生理、手術方法を理解し、術後合併症のリスクや手術により生じる問題に対して、生命の安全のための援助が理解できる。
3.術後の対象の回復過程に応じた日常生活拡大・自立への援助を支援することができる。
4.集中治療室の特殊性、急性期の身体侵襲を受けた対象の生命維持のための観察と看護について理解できる。
5.学生として、責任ある態度で行動できる

回	学習内容	備考
	実習ゼミ　実習要綱説明、周手術期看護実習の確認事項 病院実習 ・周手術期の患者を受け持ち看護展開　6日間 ・ICU見学実習　1日間 周手術期まとめ、ICU・HCU実習ゼミ　1日 実習場所：仙台オープン病院、東北公済病院、県立がんセンター	ゼミ他　：3時間 病棟：47時間 ICU・HCU：7時間 学内：4時間

使用するテキスト

参考文献

評価方法

実習評価表による

学生へのメッセージ

講義、演習で学んだことを復習して臨み、主体的に学んでいきましょう。

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○

実習9

シラバス　専門基礎分野　令和8年度

科目No.		配当時期	3年	担当者
科目名	成人看護学実習III（外来・クリニック）	単位数	1	専任教員 看護師実務経験あり
		時間数	30	

科目のねらい

成人期にある対象が社会での役割を果たしつつ、治療をするために必要な看護について理解しその看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習目標

1. 慢性期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から統合的に捉えることができる。
2. 対象の疾患の病態生理、治療法を理解し、療養に必要な援助について理解ができる。
3. 生活の再構築の必要性を理解し、QOLの維持・向上に向けた看護について理解できる。
4. 学生として、責任ある態度で行動できる。

回	学習内容	備考
	実習要綱説明 実習ゼミ：実習内容の確認 1日目：臨地実習　外来での看護　見学と実践 2日目：臨地実習 3日目：臨地実習 4日目：学内振り返り、記録整理 対象疾患 心不全、喘息、COPD、大腸炎、糖尿病、腎不全などの慢性疾患 透析治療、がんの化学療法 実習場所 仙台オープン病院、宏人会病院、公済病院	要綱説明（成人IIと一緒に行う） :1時間 ゼミ：1時間 病院：24時間 振り返り：4時間

使用するテキスト

参考文献

学生へのメッセージ

評価方法

実習評価表による

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○

実習10

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.	配当時期　3年	担当者
科目名　老年看護学実習Ⅰ	単位数　1	専任教員 看護師実務経験あり
	時間数　45	

科目のねらい

様々な場所で生活する高齢者の特徴を理解し、高齢者の生活を整えるための看護を実践する基礎的能力を養う

学習目標

1．通所介護施設及び介護老人保健施設における役割と機能が理解できる
2．高齢者の生活を支える職種によるチームケアの実際を理解すると共に、看護師の役割についてできる
3．地域で生活する高齢者の自立支援や生活の質（QOL）の向上を目指す援助について考えることができる
4．施設で生活する高齢者の健康問題を把握し、高齢者の自立支援や生活の質（QOL）の向上を目指す援助について考えることができる
5．看護学生として責任のある態度で行動できる
6．高齢者との関わりを通して自己の老年観を深めることができる

学習内容	方法	備考
◎要綱説明 2時間、実習ゼミ1時間		3時間
◎通所介護施設実習 実習時間 ： 9：45～16：00（7時間×2日間） 1週目（前半）　（月）（火） 1週目（後半）　（水）（木） 実習場所 ： エムズ八乙女、なとり ※実習のない2日間は学内で学習する		14時間
◎介護老人保健施設 実習時間 ： 9：00～16：00（8時間×3日間） 2週目　（月）（火）（水） 実習場所 ：茂庭台豊齢ホーム、なとり、春風のころ		24時間
◎学内 実習時間 ： 9：00～12：20 2週目（木）グループワーク・発表		4時間

使用するテキスト・参考文献

評価方法

実習評価表による

教育目標における学習成果	1 人間理解	2 倫理	3 感性・人間関係	4 臨床判断	5 安全な技術	6 多職種連携	7 自己成長
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

実習11

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.		配当時期	3年	担当者
科目名	老年看護実習II	単位数	2	看護師実務経験あり 専任教員
		時間数	60	

科目のねらい

加齢や疾病によって起こる身体的、精神的、社会的な変化が、老年期の対象の生命や生活にどのように影響を及ぼすのか理解する。その対象を全人的に捉え、対象と家族のQOLや個別性を考えた看護が実践できる能力を養う。

学習目標

1．老年期にある対象を全人的に理解することができる。
2．老年期にある対象の加齢変化と健康障害を理解し、対象と家族の持てる力を活用した看護の展開ができる
3．老年期にある対象と家族のQOLを支える保健・医療・福祉にチームにおける多職種連携の必要性を理解できる
4．看護学生として責任のある態度で行動できる。
5．老年期にある対象と家族との関りから、自己の看護を振り返り課題を見出すことができる。できる。

学習内容	方法	備考
◎要綱説明 1h、　実習ゼミ 1h		2時間
◎病院実習		
実習時間 ： 9：00～16：00 （8時間× 7日間）		
1週目 （月）～（木） （8時間× 4日間）		32時間
2週目 （月）～（水） （8時間× 3日間）		24時間
◎学内実習		
実習時間 ： 9：10～10：40		
2週目 （木） 9:10～10:40 （2時間）　まとめ		2時間

使用するテキスト

参考文献

評価方法

実習評価表による

教育目標における	1人間理解	2倫理	3感性・人間関係	4臨床判断	5安全な技術	6多職種連携	7自己成長
学習成果	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

実習12

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.	小児看護学実習Ⅰ	配当時期	2年前後期	担当者
科目名	保育所(園)・児童館	単位数	1	専任教員
	（健康な成長発達の学習）	時間数	30	看護師実務経験あり

科目のねらい

地域で生活する子どもとその家族の特徴を理解する。

学習目標

1．子どもの成長発達段階に直接触れ合うことで理解できる

2．子どもの状態に応じた日常生活習慣の自立に向けた援助を考えることができる

3．子どもの安全安楽に配慮した援助を考えることができる

4．子どもの権利を尊重した関わりが持てる

	展開
	1．保育所(園)実習を通して健康な子供の成長発達段階を理解する 2．児童館の見学実習を通して、主に学童期の特徴を理解する 3．実習での学びを学内で、振り返りを行う 例　月火：保育所２カ所２名ずつ（学生AB・CD）　児童館１カ所4名（学生EFGH） 水木：保育所２カ所2名ずつ（学生EF・GH）　児童館1カ所学生4名（学生ABCD）
	実習場所(案)
	八乙女、黒松、南光台、泉中央、旭ヶ丘、台原、上杉等の保育所(園)、児童館 ：　10月の第1週に一斉に実習する

使用するテキスト

既習学習した文献等使用

参考文献

評価方法

ルーブリック評価

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	○	◎	◎	◎	○	○

実習13

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.		配当時期　3年	担当者
科目名	小児看護学実習Ⅱ （患児と家族の看護）	単位数　2 時間数　60	専任教員 看護師実務経験あり

科目のねらい

子どもの特徴を理解し、健康の各段階にある子どもと家族の安全・安楽を考えた看護が実践できる能力を養う。

学習目標

1．子どもの成長発達と健康の保持・増進のための援助の必要性を理解できる。
2．子どもの権利を尊重し、安全・安楽に配慮した援助が理解できる。
3．子どもの健康問題が子どもと家族に及ぼす影響をアセスメントし、必要な看護援助を考えることができる。
4．子どもと家族を取り巻く保健・医療・教育の連携を学び、小児看護の役割が理解できる。
5．看護学生として自覚した行動をとることができる。

	実習内容	備考
	実習ゼミ：オリエンテーション、実習内容の確認	ゼミ等：4時間
1週目	学内実習：3日　事例患児の看護を考える 外来で遭遇する診察、検査、処置等の看護を考え、 介助の実際を演習として行う。	学内：24時間
2週目	病児(外来)実習：３日　健康障害を受けた子どもと家族への看護を考える 健康診査や予防接種、一般診察を受ける子どもの看護	外来または病棟：24時間
	施設実習(原則木)　：１健康障害を受けた子どもの医療・看護・福祉・教育 との連携　支援学校等で見学実習 ＊施設実習は1週目または2週目のいずれかの実習とする	施設　：８時間
	実習場所 外来：仙台市医師会会員の小児科クリニック 東北公済病院、仙台スペルマン病院、東北労災病院、仙台医療センター （5～11月） 施設との連携：宮城県立視覚支援学校、宮城県立小松島支援学校、宮城県光明支援学校、宮城県立利府支援学校支援学校 宮城県立名取支援学校、仙台市立鶴ヶ谷特別支援学校、いずみ高等支援学校、仙台市なのはな学園等	

使用するテキスト	評価方法
既習学習した文献等使用 参考文献	ルーブリック評価を用いる

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	○	◎	◎	◎	◎	○

実習14

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.		配当時期	3年	担当者	看護師実務経験あり
科目名	母性看護学実習	単位数	2	佐藤　朝子　永倉　有紀	
		時間数	60		

科目のねらい

マタニティサイクル期にある対象と家族を理解し、良好な母子関係構築の支援ができる能力を養う

学習目標

1．妊婦・産婦・褥婦・新生児の特徴を理解し、対象に合わせた支援方法を理解できる

2．妊婦・産婦・褥婦・の母親役割獲得への支援を理解できる

3．母性を取り巻く地域の保健・医療・福祉の諸機関との連携について理解できる

	学習内容		備考
実習計画			(9:00～16:00)
	病棟実習	（1日目）受け持ち実習　情報収集・アセスメント　8	病棟実習
		（2日目）受け持ち実習　情報収集・アセスメント　8	8時間×4
		（3日目）受け持ち実習　情報収集・アセスメント・実践　8	32時間
		（4日目）受け持ち実習　情報収集・アセスメント・実践　反省会　8	
	外来実習	外来実習　8	外来実習
		外来実習　8	16時間
	【学内での活動】 ・実習要綱説明（実習前、全体）　2時間 ・実習ゼミ（実習直前、グループ毎）　病棟・外来各1時間　計2時間 ・講演：地域における母性看護活動の実際（全体）8時間		学内活動 トータル12時間
	実習場所		
	東北公済病院、セイントマザークリニック、メリーレディースクリニック、		

使用するテキスト	実習評価表による
参考文献	

学生へのメッセージ

教育目標における学習成果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○

シラバス　　専門分野　　令和8年度

実習15

科目No.		配当時期 2年（後）	担当者 看護師実務経験あり
科目名	精神看護学実習Ⅰ	単位数 1	専任教員
		時間数 30	

科目のねらい

就労支援サービス施設に通所する利用者を通して、その人のストレングスを理解し、対象理解の基礎を学ぶ

学習目標

1．就労を希望している対象者の思いを理解できる

2．精神の障害をもつ人のストレングスを理解する

	展開	備考
	1．自己学習及び施設の説明を受けることで、各施設の役割を理解する 2．施設で利用者の様子を見学したり、一緒に作業を行いその方のストレングスに気づく 3．実習での学びについて、学内で振り返りを行い対象理解について理解を深める	
	実習場所	
	就労継続支援B型事業所　コラボ・ソキウス パルいずみ わたげの樹 就労継続支援A型事業所　なでしこ クローバーズ・ピアワッセ	

使用するテキスト

授業で用いた教科書・資料

参考文献

学生へのメッセージ

教育目標における学習効果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	○	○	○	○	◎

実習16

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.		配当時期 3年	担当者 看護師実務経験あり
科目名	精神看護学実習Ⅱ	単位数 2	専任教員
	病院実習	時間数 90	

科目のねらい

精神保健上の問題を抱える対象を理解し、問題解決や人間関係の中で生じる対象の反応を捉え、自己洞察しながら精神看護に必要な基礎的能力を養う

学習目標

1．精神に障害のある対象が理解でき、回復過程に応じた看護を考えることができる
2．患者とのコミュニケーションの体験を通して、患者-看護師関係成立過程を学ぶ
3．精神に障害のある対象の実現したい生き方や希望を尊重し、他職種連携によるリカバリーのための活動が理解できる
4．精神障害のある対象が安全で案死できる生活の場、および治療の場として療養環境が整えられていることが理解できる

	展開	備考
	1．受け持ち患者の病態生理を含め理解し発達課題を考える 2．受け持ち患者の回復過程に応じた看護を考え実践する 3．患者との患者一看護師関係成立のための関りを理解する 4．精神科領域における多職種連携について理解する 5．患者の安全を考慮した病棟環境に調整や整備のあり方を学び法的根拠も理解できる	
	実習場所	
	東北会病院 国見台病院 青葉病院	

使用するテキスト

授業で用いた教科書、資料等

参考文献

学生へのメッセージ

教育目標における学習効果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

実習16

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.		配当時期　3年	担当者　看護師実務経験あり
科目名	精神看護学実習Ⅱ 精神科訪問看護	単位数 時間数	専任教員

科目のねらい

精神に障害をもつ対象の日常生活及び社会生活を総合的に理解し、地域で生活していくために必要な支援を考え、看護師の役割を理解する

学習目標

1．在宅で生活する対象者に希望や問題を理解し、支援するための援助について理解できる

2．在宅で生活する対象者を支援するための看護師の役割を理解することができる

	展開	備　考
	1．訪問看護師とともに在宅で生活している対象者の訪問し、在宅で生活する意味を考えることができる 2．精神科訪問看護師の役割を理解する	
	実習場所	
	学内 東北会病院訪問看護ステーション 国見台病院訪問看護	

使用するテキスト

授業で用いた教科書、資料

参考文献

学生へのメッセージ

教育目標における学習効果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	◎	◎	△	○	○	○	○

実習16

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.		配当時期　3年（後）	担当者
科目名	精神看護学実習Ⅱ 精神保健福祉センター講演	単位数 時間数	精神保健福祉センター職員

科目のねらい

精神保健福祉センターの役割を学び、心の健康の保持・増進を図る支援及び精神障害者への社会復帰・社会参加に対する支援について理解する。

学習目標

1．精神保健福祉センターの役割を理解する

2．心の健康を保持・増進を図る支援がどのように行われているか理解する

	展開	備考
	1．仙台市精神保健福祉センター（はあとぽーと仙台）の業務内容を調べ、様々な取り組みについて理解する 2．仙台市精神保健福祉センター（はあとぽーと仙台）の職員による講演を聞く 2．講演を受け、カンファレンスを行い学びを深める	
	実習場所	
	校内	

使用するテキスト

授業で用いた教科書、資料等

参考文献

学生へのメッセージ

教育目標における学習効果	1.人間理解	2.倫理	3.感性・人間関係	4.臨床判断	5.安全な技術	6.多職種連携	7.自己成長
	○	○	○	△	○	○	○

実習17

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.		配当時期　3年（後）	担当者
科目名	統合実習Ⅰ	単位数　1	専任教員 看護師実務経験あり
		時間数　30	

科目のねらい

看護管理の実際と看護チーム全体の動きを学ぶことで、看護の機能と役割の理解を深める

チームとして連携・協働の重要性を理解し統合実習Ⅱに活かすことを期待する

学習目標

1．看護管理の実際を理解できる。

2．看護チームの一員として連携・協働するための看護の機能と役割の理解を深める。

回	学習内容	備考
	実習ゼミ　実習内容の確認	オリエン2時間
	臨地実習　3日間	学内ゼミ2時間
	1日目：病棟の管理について説明、リーダーメンバーの役割の説明	臨地：24時間
	2日目・3日目：リーダー・メンバーにシャドーイング	
	学内にて実習のまとめ	まとめ：2時間
	実習場所 仙台オープン病院、東北公済病院、ＪＲ仙台病院 東北医科薬科大学若林病院、JCHO仙台病院 宮城県立がんセンター	

使用するテキスト	評価方法
	実習評価表による

教育目標における学習成果	1 人間理解	2 倫理	3 感性・人間関係	4 臨床判断	5 安全な技術	6 多職種連携	7 自己成長
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

実習18

シラバス　　専門分野　　令和8年度

科目No.	配当時期　3年（後）	担当者
科目名　統合実習Ⅱ	単位数　1	専任教員 看護師実務経験あり
	時間数　45	

科目のねらい

多重課題等の状況でも安全安楽に看護を提供することができる実践力を鍛える。

3年間の学習の集大成として位置づける

学習目標

複数の患者に対して優先順位と時間管理を考慮した看護を安全安楽に実施できる。

回	学習内容	備考
	実習ゼミ　実習内容の確認	オリエン2時間 学内ゼミ2時間
	病院実習　1週目　月、火、水、木、金　5日間 ・学生2人で患者2人を受け持つ 1日目：受け持ち患者決定、情報収集 2・3日目　情報収集・アセスメント・問題点抽出・計画 4・5日目　実施と評価	病院実習：40時間
	学内まとめ　2週目　月	まとめ：1時間
	実習場所 仙台オープン病院、東北公済病院、ＪＲ仙台病院 東北医科薬科大学若林病院、JCHO仙台病院 宮城県立がんセンター	

使用するテキスト

参考文献

評価方法

実習評価表による

教育目標における学習成果	1 人間理解	2 倫理	3 感性・人間関係	4 臨床判断	5 安全な技術	6 多職種連携	7 自己成長
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎